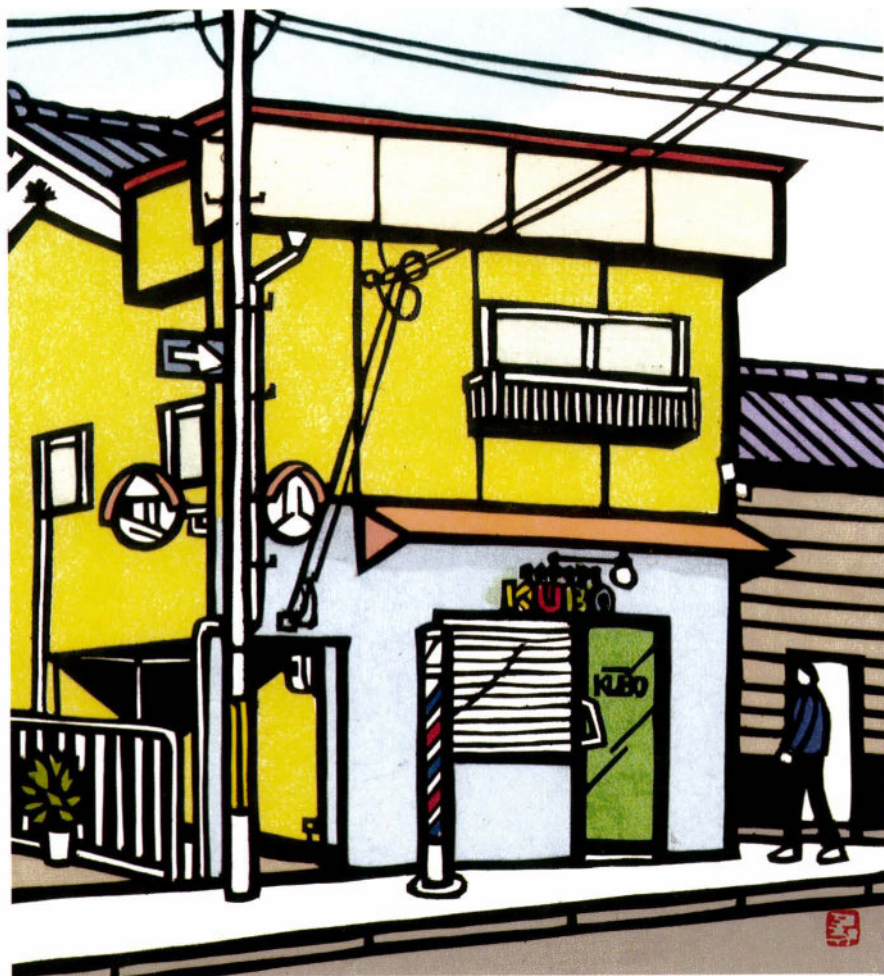


令和三年九月一日発行「毎月一日発行」
創刊大正十三年 通卷一 一三二号

日川協加盟

川柳塔



No.1132

九月号

第27回 川柳塔まつり(誌上大会)

川柳塔社では、今年も秋の「川柳塔まつり」を新型コロナウイルスによる感染防止のため誌上大会として実施することになりました。結社を越えて広く川柳をお楽しみいただける場として、ぜひとも皆様のご参加をお待ち申し上げます。

参加要領は下記のとおりです。

課題と選者(各題二句)

「嬉　し　い」	江島谷　勝　弘　選	(川　柳　塔　社)
「選　　ぶ」	内　藤　憲　彦　選	(川　柳　塔　社)
「ヒ　ン　ト」	高　瀬　霜　石　選	(川　柳　塔　社)
「　　橋　　」	木　本　朱　夏　選	(川　柳　塔　社)
「呼　　ぶ」	美　馬　りゅうこ　選	(番傘川柳本社)
「　　家　　」	小　島　蘭　幸　選	(川　柳　塔　社)

投　句　要　領　規定の用紙(コピー可)または、用紙の入手できない場合は便箋などをご使用いただいても結構です。

投　句　料　　1 0 0 0 円(切手は不可)

投　句　締　切　令和3年9月30日(木) 消印有効

送　付　先　〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201
川柳塔社 誌上大会係 宛
TEL/FAX(06) 6779-3490

賞及び発表　各題天位、地位、人位に賞呈。発表は川柳塔誌十二月号誌上。
川柳塔誌を購読されていない方には発表誌呈。

川　柳　塔　社

診療所の窓辺から

小島 蘭 幸

朝日新聞朝刊と一緒に月に一度、「スタイルアサヒ」という冊子が届きます。この中に「診療所の窓辺から」というコーナーがあります。執筆者は、川柳作家で大野内科院長の小笠原望先生です。

最新号を紹介させて頂きます。見開き二ページの三分の二を締めるのが、「いのちを抱きしめる四万十川のほとりにて」のタイトルでカラー写真が掲載されています。今回は「あわい光が四万十をつつむ晩夏の夕暮れ」でした。

続いて「訪問してわかる患者さんと家族の日常」と題して、九十八歳の女性を訪問したときの様子が優しい文章で書かれています。二ページ目の三分の一には「今月のことば」と川柳が添えられています。

もう走らなくてもいいよ君にバラ

望

最後は望先生の顔写真とプロフィールです。

四万十の風景、訪問した患者さんとのやりとり、今月のことば、川柳作品、見開き二ページが全て美しく優しさに溢れています。もう何年になるでしょうか、いつかゆつくりと読みたいなと思ってファイルに保管しています。

この「診療所の窓辺から」は、一冊にまとめられて、ナカニシヤ出版から発行されています。そしてつい最近、清流出版から、『四万十の流れのように生きて死ぬ』が発刊されました。

第一章 簡単に死なせてくれない／第二章 痛みに寄り添って／第三章 介護と家族／第四章 なじみの場所／第五章 看取りと仕舞い／第六章 自然のなかで生きて

がん、認知症、介護、在宅医療、看取り、病を包み込み、老いと向き合う、あたたかなまなざしがここにあります。

小笠原望作品

人生なんてねえあのもしもこのもしも

あやとりのように百歳とのほなし

生まれたら死ぬ単純なことながら

老いるのは切ない川は蛇行する

ひたひたと老いは膝にもころにも

死ぬときは優しい医者にあいたいね



座右の句

ABの境のA席の切符

(俊秀)

私の句

メールより八十円の旅が好き

笹重耕三

川柳塔 九月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「京・藤ノ森の散髪屋」

■巻頭言 診療所の窓辺から 小島 蘭 幸 (1)

つばめ 森山 盛 桜 (2)

川柳塔 (同人吟) 小島 蘭 幸 選 (4)

川柳塔の川柳讃歌 木津 川 計 (37)

自選集 (38)

温故知新 (41)

水煙抄 川上 大 輪 選 (42)

英語 de Senryu 吉村 侑 久 代 (60)

せんりゅう飛行船 新 家 完 司 (61)

誹風柳多留一三篇研究 12 (62)

愛染帖 新 家 完 司 選 (64)

「つばめ」

森山 盛 桜

七月上旬の今、我が家ではつばめのヒナが賑やかに鳴いている。昨年は車庫に営巣したのだが、今年は本宅の勝手口の辺りが気に入ったようだ。狭い巣の中で超過密の五羽が暮ら合っているが、案の定一羽が巣から落ちた。帰って来た親が暫く側に居たが、どうする事も出来ず程なく餌取りに出て行ったのでその隙に巢に戻してやった。

昨年、車庫のヒナについてはとても苦い思いをしている。顔を見て僅か一日で姿を消してしまった。天敵のムクドリにやられたようだ。四歳の孫と一緒にガツクリ。巣をガードする事など全く考えなかった。今年は三方が壁なので紐を張りネットで覆って完璧にした。

つばめと言えば頭に浮かんでくる句がある。川柳を始め問もなくの昭和五十三年に買った川柳入門書に載っている。

「母の日に母と見上げるつばめの巢」

檸檬抄「漂　う」…………… 葉原道夫・久保田千代共選 …… (68)

一路集「受ける」…………… 鴨田昭紀選 …… (72)

「ガード」…………… 岸本孝子選 …… (73)

初歩教室「ボタン」…………… 高瀬霜石 …… (74)

川柳塔鑑賞…………… 福士慕情 …… (76)

水煙抄鑑賞…………… 小谷小雪 …… (78)

路郎忌句会…………… …… (79)

インスピレーション・ナビ 印象吟…………… 大西泰世 …… (88)

各地柳壇（佳句地十選／丹下凱夫・籠島恵子）…………… …… (90)

九月各地句会案内…………… …… (104)

柳界展望…………… …… (106)

■編集後記（ひとこと／尾崎一子）…………… 朱夏・憲彦 …… (108)

座右の句

笑おうよ 命に赤を足しながら

（美智子）

私の句

まだ返納しません恋の免許証

石田孝純

という句である。当時私は鈴木村諷子さんと一緒に、一駅離れた林露杖さんの句会に通っていた。の句会に通っていた。その列車の中で村諷子さんがこの句を「ええですなあ、ええですなあ。」と盛んに褒めておられた。母親に対する思いは、村諷子さんは特に強いという事は後で知ったのだが、成程と腑に落ちる。その句がこれ。

「母の背なあの電柱が見えるかい」

この句には少し説明が要る。小さい時、村諷子さんは底翳（そく）を患って、母親に連れられて医者通いをしておられたとの事。医者からの帰りに、村諷子さんをおんぶした母親が「あの電柱が見えるかい、ひと一つ、ふた一つ。」少なからずショックを受けた句であった。

豪雨でレベル4の避難指示が出ている中でも親つばめは餌を運んでいる。一日三百回以上とか。巣立った後もヒナは時々巣に戻ってくるとか。こういうのはネットに載っているのだが確かに朝には二羽だったのが夕方には五羽に戻っていた。つばめから色々と学ぶところがあった。



小島蘭幸選

阿南市 小畑定弘

夕端居早くおいでと夢の亡妻
年金で薄い酸素を吸っている
昼の月逢いたい人がいるのです
検温はこれで五度目の春の街
丁寧に生きるとしようロスタイム
年金を二ヶ月ごとに切り刻む

堺市 榎原道夫

陽炎や一瞬ひとの形して
一心に水を飲んでる影法師
ずっとなんと考えているかたつむり
押入の救急箱の半開き

堤防からよろこびの足垂らしおり
君と僕の間のティッシュペーパーか

岡山市 丹下凱夫

雨を聴きながらコーヒー飲みながら
雨の合間に無花果を採りに行く

ストレスがないと浮かばぬ僕の詩
ストレスを逆さまにして大ジョッキ
能天気だからいつでも青い空
ペランダから見ると人の世の暮らしぶり

大阪市 高杉力

酒売るな酒を卸すな金貸すな
長期戦またもマスクの夏が来る
漢字テストくらいは孫と張り合える
誕生日ママはごろごろしていたい
ゲーム機に別れた人の名が残る
あれそれで通じてるから良しとする

土佐清水市 辻内次根

縁側は全天候型である
花の鉢買って花の土買って
午前五時二度寝するにはいい気温
アジサイへアジサイ色の雨が降る
愛憎のぶつかるもののなく閑か
私の自然体です鳳仙花

藤井寺市 太田扶美代

ヨイシヨイシヨ笑わない人笑わせた
八十歳心の旅路はじめよう

雨上がり朝のおしゃべり止まらない
お素麵する赤トンボの里で
鬱の字がまだ書けるのに呆けはじめ
雑草が主役になってきた狭庭

桜井市 安土理恵

汗のシャツぐらい脱がせてあげますよ
違ってもいいやん世間とわたしち
酒のはなし猫のはなしでつないでた
思い出がみんな静かな筈はない
愛の記憶は消えるベンにて書きのこす
意地の張り合いあげくのはてのダイヤ婚

三田市 谷口修平

AIの出来ぬ仕事に持つ誇り
リフォームは出来ぬ夫婦のすきま風
誕生日何も嬉しい事は無い

心配は健康だけじゃない長寿
あなたからお先にどうぞかずら橋
三途の川向こうは花の咲く浄土

鳥取県 細田裕花

無観客いったい誰のオリンピック
おもてなし死語になったね東京五輪
4Eの靴でこの世をウォッチング

あほらしいギャグにいつも癒やされる
福祉バスかゆいところへ気を配る
もう会えぬ人に焦がれる八月よ

広島市 岸本清

デジタルの海でさ迷う高齢者
パソコンが壊れて三月不便なし
政官の暴挙劣化が止まらない
老いた今朝起きるのもひと仕事
オリ・パラでおもてなしなど法度です
腕まくりすると不思議にやる気です

西予市 西田美恵子

穏やかな夫婦の音になりました
引き返す事を忘れていません
毒になる物は美味しい物ばかり
月丸く父の優しさ母の厳しさ
煮えたぎる湯だっていつか冷めてくる
哀しみは囀の鮎に使われる

尼崎市 山田耕治

どこかに来ているだろう四十九日の句会
自転車で転けたと娘には言えぬ
赤と黄と食べくらべした欠き氷
はいはいと娘の小言聞いている
カレンダーに孫の名前が書いてある
抱き上げた犬の震えに負けました

越谷市 久保田 千代

雑巾を絞る気力は衰えぬ
雑巾の乾き無言の日が続く
無言劇さらに疲れる差し向い
自分なりの鎮痛剤で過去にする
もう逢えぬ人と心に刻み去る
政治家にならねばボロは出なかった

大阪市 古今堂 蕉子

百歳へ四楽章で終らない
耐震の家も根こそぎ土石流
七夕の笹願いごと食べすぎた
変幻自在打って走って投げてはる
髪カットマスクに主役奪われて
ゴマから昆布川柳塔の風変わる

松山市 栗田 忠士

取れたて野菜自家菜園があればこそ
二日見ぬ間に胡瓜規格外
引いた草放っておくと生き戻る
声帯の退化を防ぐ長電話
赤い月今年は自粛したらしい
本物の手触りが無いオンライン

大阪市 谷口 義

真っ白い朝顔が一番に咲いた
朝刊をぱっと広げて大相撲
副反応なしお互い歳やなあ

反省よりも恥ずかしさばかりなり
えらそうに子供叱ってた頃から華
取り敢えずワクチンの話から入る

羽曳野市 三好 専平

第五波も連れて五輪が走りだし
権力を握ると同じ顔になり
ストレスは酒を飲んでもなくならず
質素節約質実剛健ニホン負け
雲水は樵夫のごとし 夏の森
新型コロナ社会のウラをえぐりだし

羽曳野市 吉村 久仁雄

住民がみな出迎える過疎の島
故郷の駅で昔の僕になる
今君を許せば地獄待っている
薫風の中で檸檬の字を覚え
有限の命半ばを無駄づかい
スイーツへ妻は毒婦と化している

堺市 内藤 憲彦

戦争を知らぬ幸せ八月忌
細かいこと後にまわして先ず握手
幻を見ているような土石流
試行錯誤この道きつと抜けられる
この指にとまれと言われ直ぐとまる
日日草植えていっしょに夏を越す

大阪市 石田 孝純

猛暑日の昼寝の介護扇風機
向日葵も休暇願いを出す猛暑
炙られる烏賊の気持ちになる猛暑
諸肌を脱いで猛暑と四つ相撲
熱帯夜円周率が寝かさない

大阪市 磯 島 福貴子

ワクチン打った外せぬマスクいつまでか
公道を走れぬ聖火トーチキス
オリンピック意義見い出せぬ無観客
二度目の夏会えずに終る盆休み
安易な盛り土思わぬ惨事山津波

大阪市 岩 崎 公 誠

不要不急だから旅など没にする
あるがまま生きる目標真つすぐに
正解は誰にも言わぬ最後まで
死に土産と買った金貨は値が上がり
擦り切れたジーンズを履く暑い日に

大阪市 岩 崎 玲 子

夢だけは持っていたいと空仰ぐ
健脚で旅に出たいとスクワット
老いふたり阿吽の呼吸も間延びして
温暖化所々で牙を剥く
早く来て金魚掬いのできる夜

大阪市 内 田 志津子

叱咤する目には大きな愛の河
マスクごし伝えきれないもどかしさ
詠んでるか書いているかと受話器から
壁のしみ遥かはるかが透けてみえ
給食の話ばかりのランドセル

大阪市 宇 都 満知子

バスの車窓にこの街の暮しぶり
人心地ついた二回目のワクチン
喜びの酒お相伴にあずかる
メダカが増えて水槽を買いに行く
飼っているつもりはないが居るバツタ

大阪市 江島谷 勝 弘

家族の一員になりました「ルンパ」
体調のいいときはビールが甘い
物忘れ気づくだけでもましな方
七月四日扇風機始動する
後手後手の政治に私唸つてます

大阪市 榎 本 舞 夢

長雨で思わぬ惨事土石流
原因は人工的な盛り土とか
今になりワクチン不足無観客
何で何でと振り回される私達
笑顔応援オリンピックを成功に

大阪市 大川 桃花

想定外この先何度聞くのやら
忘れそうな予感はずいぶん
ゴロゴロと自肅生活老い進む
接種二回済めばハルカス行けるかな
道の駅曲ったきゅうり買いに行く

大阪市 大治 重信

酒煙草止めて孫を相手にかくれんぼ
トンボ来て家の柱に休みたり
婉然と女将の笑顔夏暖簾
遠花火音なく消えて闇深く
諦めて二人仲良く日向ぼこ

大阪市 奥村 五月

仏壇の妻にすまぬと朝と夕
ワクチンも応援頼む自衛隊
十回も手術しながら生きている
何一つ残す事なく卒寿来る
時時は横綱もでる大相撲

大阪市 小野 雅美

跳ねてみよう大地がエールくれたから
楽しそうでいいねと言われ傷つく日
昨日までは肘鉄今日は腕を組む
念を押さないで君を忘れてあげるから
定刻に着けば遅いと叱られる

大阪市 笠嶋 恵美

一服のお茶に「やれやれ」てんこ盛り
何気無くつけたテレビに教えられ
丁度良いスーパードまでの歩く距離
塩少し入れるとお湯も飲みやすし
年金が生きろ生きろと背中押す

大阪市 川端 一步

自肅中文豪たちと再会す
川柳を續けて百をめざさんか
定年日に生れた子ども二十五に
八起きなど出来ない歳だ転ばない
飲むならばユーモア好きな人がいい

大阪市 近藤 正

コロナ禍で老舗閉店増えました
コロナ五輪自己責任を押し付ける
異常気象は病んだ地球のうめき声
顧みて悔いることなし八十路坂
老朽の美浜原発再稼働

大阪市 坂 裕之

未だコロナ拡がっていく恐ろしい
歳のせい言われないよう脳トレを
心配な事が次々テレビから
仲間とも逢えない今は気がふさぐ
顔合わせ冗談飛ばし手を握る

大阪市 高杉 千歩

川柳が生れるまだまだ大丈夫
あれこれと言わず思わず車椅子
ウィルスも相手にしない車椅子
ホンマモンになって出来ない事ばかり
夏ですか冷房の部屋窓がない

大阪市 田中 廣子

大谷の謙虚な態度素晴らしい
白寿叔父無事見送って安堵する
後始末役所仕事の複雑さ
大雨で雷落ちて身が縮む
ワクチンの供給不手際情けない

大阪市 田中 ゆみ子

今日は何も予定がないという不安
助けるに理由は要らぬお隣さん
金魚掬う君も疲れているんだね
蝉時雨欲しい物など無いと母
またあした約束できぬ日がいつか

大阪市 津村 志華子

天国でどんなところですか
貧で良し此処は気らくなB団地
太陽の恵みを背に押し車
カレンターに予定を埋めたのは昔
行儀作法おかまいなしに独りばち

大阪市 寺井 弘子

空想に孤独な心満たされる
泣くのは嫌笑っちゃおうよロゼワイン
言い勝った夜のひっそりした時間
リンゴ一つちいさい幸の仏の灯
父のペン落葉と共に焼く遺品

大阪市 寺本 実

静寂が怖くてラジオつけている
罪ですかこの一杯を呑むことが
まっさきに整理しました罪と罰
検査後にみなが優しく目をそらす
キープした酒がどえらく減っている

大阪市 中井 萌

マイペース友の背中を遠く見て
夫には母にもなるし娘にもなる
病床の兄に幼き日を想う
ライバルは自分と決めて深呼吸
久々の化粧の顔がおもはゆい

大阪市 原田 すみ子

やりきった努力が気持落ち着かず
コロナ下で行動円が小さくなる
曲がり角ちっちゃな天使たまに会う
日は長いひとつ仕掛けてまたひとつ
ウインドウあの年寄りには私なの

大阪市 平井 美智子

カニ缶を開けて一人の誕生日
携帯を抱えて巣籠りが続く
無添加の部分が傷みかけている
病名を聞く順番を待っている
とりあえず赤チンつけておきましょう

大阪市 平賀 国和

ワクチン接種かかりつけ医の有難さ
罪深い人災熱海土石流
明るいニュース大谷さんのホームラン
エジプト展古代文明垣間見る
夏バテ予防ゴーヤを育てチャンブルに

大阪市 宮崎 シマ子

ホームの廊下歩くにも供がつき
近くに住む柳友見舞に来てくれる
柳友と句会で逢う事約束し
柳友に茶も上げられぬ淋しさよ
差入れの菓子嬉しい籠の鳥

大阪市 山本 加お里

大丈夫檸檬という字まだ書ける
聴診器心の中も読む主治医
質と量今では質を選んでも
こんなにも星がきれいだ泣いたあと
ありがたい勿体ないで生きている

大阪市 横山 里子

朝早い夫の守はエンジェルズ
切り札はまだまだあると変異株
もう誰も握ってくれぬ私の手
すんなりと輪に入るコツは笑顔です
生き下手な人ばかりの輪心地よく

堺市 今井 万紗子

孫三歳大きなマスクいじらし
淋しい日私を撫でる手がほしい
出かけてみるか毎日同じ道だけど
病癒え御先祖様にまず感謝
接種も済んだお誘いあれば何なりと

堺市 奥 時雄

親孝行ラインで済ませ子等は楽
愛想にも親父に同居言い出せず
川柳の他事忘れさす有難さ
川柳も減らすと元に戻らない
独居して女性の助言有難い

堺市 柿花 和夫

缶ビールにワンカップあり年金日
傍目には爽やかならしい妻と僕
都合のいい神話創ってきたヒト科
自助共助最後に公助政治とは
コロナ禍で季語から外されたマスク

堺市源田八千代

ワクチン接種済んで曾孫とやつと会え
ボーイッシュな服着せ丸で男の子
名は体を表わす「透空^{すうくう}」ちゃんの実顔
育メンの孫は器用におむつ替え
デイケアに曾孫の写真携えて

堺市齋藤さくら

速報が出るたび胸が痛くなる
ワクチンはお済みですかとご挨拶
災害に自衛隊さん有り難い
夏野菜くれるご近所手をつなぐ
輪の中に入りしあわせ貰つて

堺市坂上淳司

巣ごもりに飽き習い始めたギター
八十路の手習いに指が動かない
ハミングが止まる楽譜と違う音
三日目にやつとチョウチヨが飛びました
マジシャンの手元画面のギターリスト

堺市澤井敏治

きょうの嘘あしたはさらに厚化粧
終活へネジを点検する自粛
ゆったりとした自粛にもある焦り
慎重に国境越える渡り鳥
梢の先に居場所探している晩夏

堺市遠山唯教

この嫁と出会う暮しに感謝する
もどかしく抗う老いとせめぎ合う
ながらえて米寿になつて杖をつく
吉報は孫の結婚通知状
気がつくと側にいるのは妻ひとり

堺市矢倉五月

初めてのバイト代ですケーキを供え
パープルを着ても貴婦人にはなれず
亡母の歩んだ道幅ほんに細かった
手をかけりや驚く程に花が咲き
昼寝返上こんな家事がはかどつた

池田市太田省三

うなぎ屋は松一丁と高い声
蛙にもひき逃げ事故という被害
線路脇始発電車に起こされる
短バンの素足まぶしいハイティーン
テレワーク電源オフの盆休み

貝塚市石田ひろ子

体中の骨が出してる黄信号
気付かない平凡と言う幸せを
初蟬の声に思わずおめでとう
わたしよりお薬手帳幅利かす
身に合うたハードル越えて来た自信

河内長野市 梶原弘光

ワクチンと会えずじまいで逝った友
さわやかな朝の目覚めにスロージャズ
日に3度のクスリ抜けたりダブったり
雨の午後座頭市など見て過ぐす
淡竹真竹灰汁抜き不要それが売り

河内長野市 木見谷孝代

選を終え肩の荷おろし赤ワイン
翔平ショー海の向うへ大拍手
子メダカよここに生まれて良かったか
雨ごもりメダカ眺めて時が過ぎ
ワクチン終え子から安堵のメール来る

河内長野市 黒岩靖博

やりくりの巧い妻だが気が強い
手加減で味付けをする主婦の腕
ワクチン接種打ち手不足で自衛隊
サ克蘭ボ今年不作と桃に化け
土石流すたずたにしたマイホーム

河内長野市 辻村ヒロ

好奇心くすぐりながら老いの道
喜寿の道助走の歩幅広がらず
父母の歳越した姉妹がよく喋る
近頃は自分の笑顔みてないな
化粧して行くところなく鏡みる

河内長野市 中島一彌

散乱し元気な靴も家の顔
アガパンサス花火のごとく初夏の庭
看護師に囲まれ写る母百二
母遠し面会の道閉ざされて
ショータイム記録重ねる二刀流

河内長野市 藤塚克三

休肝日の最短記録塗り替える
にこやかに酒はいいよの医師が好き
無知と未知ごっちゃになって世を渡る
記録より記憶ですよと負け惜しみ
団らんの空気こわした俺のギャグ

河内長野市 村上直樹

ウツの字をまた書けないと老いのウツ
マイバッグ酒もどつさり俄か主夫
まあいいかもようよろうと緩むネジ
ゼロが好き可能性なら無限大
記録的長生きなんてしたくない

河内長野市 森田旅人

人類にコロナ撲滅待つ奇跡
死者数にだんだん軽くなる命
眺めてはぼつんとひとつ車椅子
目をそらす彼の好物サ克蘭ボ
百日紅咲いたと話す人が居ぬ

河内長野市 山岡 富美子

梅雨明ける線状降水帯を連れ

後出しのじゃんけん崩落地の視察

巣籠りに飽きてしまった模様替え

パソコンと本とテレビに眼の謀反

デパートの解禁無駄に手が伸びる

岸和田市 岩佐 ダン吉

賛成だ今はあなたの目に賭ける

苛めまで隠し学校高い堀

拉致のこと総理忘れてないですね

おかしな世みんな揃ってマスクする

毒のある言葉なんだがよくわかる

岸和田市 雪本 珠子

何気なく言った言葉の副作用

思い出が心の隙間埋めてくれ

明日は明日今この時を大切に

新風を吹き込み脳を活性化

作句にも時代の風を取り入れる

吹田市 太田 昭

犬掻きを犬に習ったことがある

嬉しくて一つ余計に割る卵

いいですよ私の影を踏みなさい

叫んだらほどけてしまう靴の紐

昭和史で白紙にしたい瑕がある

高槻市 片山 かずお

マトリョーシカのように空箱片づける

ゴムゆるゆるになった靴下履き易い

上戸の辞書にほどほどの文字見当らず

現実的な話に頓挫する会議

似た人に心の傷痕が痛む

高槻市 島田 千鶴子

怪物の異名オオタニ君に譲る

ふんぎりがついたポジティブになった

相乗りですだちソーメン来て夏日

カタカナ語耳が往生しています

忘れたい事はしっかり思い出す

高槻市 初代 正彦

ボタンキユウでも翌朝元氣だったのに

オリープ油チーズも好きなパンの耳

ゴキブリのようにコロナもしぶといネ

二人も四人も飲み会なら一緒

緊急事態いよいよ五輪正念場

高槻市 富田 保子

ブライドがベタベタ貼ってある名刺

曲がったこと嫌いな夫の力瘤

ふる里の作らぬ田圃に父母が居る

有名なブランド品が安過ぎる

怪しいぞマスクしない人がいる

高槻市 原 洋 志

自販機よサンキューぐらい言えないか
迷惑メール力任せに押す削除
バイオリズムスマホ落してから異変
着飾って見学に行くケアハウス
我が老いは棚上げ友の転けたこと

高槻市 松 岡 篤

幼児居るだけで車内が和やかに
投句日は赤いポストが神に見え
バッグにはマスクの予備を入れてある
コロナ後を飯の字付けてスケジュール
歩きスマホ青信号も渡らずに

豊中市 池 田 純 子

明るさは大谷君がしよって立つ
僕がする 婆の出番が減っていく
痛い膝ヒールの靴でしゃんとさせ
五輪仕様休日だつて大移動
晴れている今日はワクチン打つ日です

豊中市 上 出 修

世界地図赤に染めたい習主席
総理の椅子罵倒されても離さない
病室で小池劇場秘策練る
妻がいるゆつくり出来ず外に出る
漢字では書いてもらえぬバラの花

豊中市 きとう こみつ

飛び散らぬように蛇口は曲げてある
AかBかサラリーマンの昼御飯
ワクチンを打つのにちよつと要る勇氣
オリンピックのために我慢を強いる国
家どころぶほんまにそんな事がある

豊中市 藤 井 則 彦

辣腕の人に染みてる思いやり
折角ですが夫は育児休暇中
気乗りしたときだけ歩き出す余生
鏡見ては老いも気からと思ふ
生真面目が軽口までも上手くなり

豊中市 松 尾 美智代

ディスプレイ取つて友との食事会
スタンドが故障眠れぬ夜が長い
飽き性な人羨まし頑張り屋
付け焼刃すぐに尻尾が見えてくる
紫陽花を一輪花瓶重たそう

豊中市 水 野 黒 兎

とりどりの花香りたつ師の句集
子らの眼の澄んでこの世を温める
若き日のパリの幻影を地図で追う
ロゼワインただ一杯で甘い夢
改行をしてひと休み宇治茶飲む

富田林市 片岡 智恵子

水子寺女の火消しつぼがある
時々主役になれる本の部屋
正論を吐いて重たい荷を背負う
若い女性の歩き煙草は気に入らぬ
絆とは無色透明ちぎれ雲

富田林市 中村 恵

親離れ子離れ順調な巣立ち
とりあえず手の届く夢食べている
黄昏の中で昭和が群れている
ほころびを繕う赤い糸が無い
泣くだけ泣いたらのつべら棒になった

富田林市 山野 寿之

お試しは無料それからぼったくり
紙芝居唄んだ子らはもう傘寿
発熱は来ないでくれと言うお医者
梅らつきよう手間暇旨い保存食
浅漬けの美味しい茄子は河内産

寝屋川市 伊達 郁夫

回り道少し痺れている右手
遠い日の私と故郷ですれ違う
本音には酒の助けが要るのです
あの街に少年になる丘がある
茶柱が呉れた元気で靴を履く

寝屋川市 富山 ルイ子

デルタ株変異コロナで発表す
ワクチンの注射家族三人二回済む
マスクして熱中症になる子供
買物途中マスクつけたり外したり
大赤字に東京五輪なるだろう

寝屋川市 平松 かすみ

だれかれに掛けるワクチン済みました
柳友のハガキヘデンワ小半日
組長になったどの組も年長者
町会費コロナで延期また延期
治療薬庶民の手にはほど遠く

寝屋川市 廣田 和織

観光客が減ってきれいになった海
八日間魂込めて鳴きたまえ
四面楚歌僕には空が青すぎる
君が代で誇らしそうに揚がる旗
僕の夢落ちてないかと探す過去

寝屋川市 森 茜

「大丈夫よ」手鏡ぼつんと眩いた
ずつとずっと歩いてみたい「魁夷の道」
愛用のベストひよこつと消えました
親切なヤング日本は大丈夫
毎日を娘に励まされ老いていく

羽曳野市 磯 本 洋 一

朝カレー昼カレーバン夜キーマ

歯磨きす生え抜き僅か入念に

入院中皆の笑顔が良薬に

午前様犬は尾を振り妻は背を

葉桜に来年たのむと合掌す

東大阪市 北 村 賢 子

夜明け前またもカラスに起こされる

いい声もだみ声だつて居るカラス

たのしげにカラスも笑う梅雨晴れ間

咲き誇る花にいやされてる自粛

大勢で乾杯する日きつと来る

東大阪市 佐々木 満 作

断捨離で見つけた亡母の日記帳

コロナへの退散祈る星祭り

桜咲く孫の巣立ちを見届ける

入社式ないまま孫のテレワーク

コロナの語ここ数年は消えぬだろ

東大阪市 西 村 哲 夫

蓮になる夢を抱いた彼岸花

ええ話やなあと盃独り言

さあ飲もう帰った後は淋しがる

淋しさを想うことなく寝てしまひ

ダイエット刑務所行けば出来るかも

枚方市 谷 英 也

ワクチンの梯子取られた市長さん

巣ごもりで狂つてきたよ腹時計

戯れに疲れうたた寝孫と爺

見納めか言つた桜をまた見てる

齢ですと謙遜したらうなずかれ

外反拇趾お洒落に無縁靴選び

羽曳野市 徳 山 み つ こ

自粛中つくづく思う空の青

ページ毎わたしを磨く広辞苑

責任の押しつけ合いの賑やかさ

東京五輪しめやかな葬のごと

凭れあい寄り添いまししょう人だもの

羽曳野市 藤 原 大 子

待ちわびるマスク外した人の波

町内の催しまでも消すコロナ

恐いのは巣ごもり慣れていく私

心の奥覗いてみたい天邪鬼

立場上話せませんと逃げておく

枚方市 栃尾 奏子

神様はワタシ信じてくれますか
ウィキペディア愛に定義はありますか
立秋に夏の魔法はもう効かぬ
まだ素足ですかと上品にブーツ
一枚を脱がぬ女の勝ちである

枚方市 藤田 武人

美しい作り笑顔だきな臭い
片思いふたつ並んで愛になる
失敗の引き出し開けて今チャンス
帽子には我が子と判るアツブリケ
運を呼ぶ汗が輝く定年後

枚方市 藤村 亜成

不和続く金魚の鉢の水濁る
空気 水 太陽 無料で洗濯する命
出たくない電話しきりに鳴っている
錆ついた心に善意映らない
ふたりきりになると時間まわりだす

枚方市 山口 弘委智

夏来たる元気に転ぶ草野球
きのうより今日が幸せ潔し
微笑みを忘れてしまうマスクの禍
感染数告げるニュースに明日は晴れ
愛という不確かなものを焦がす

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

救急車深夜わたしが乗っていた
脳細胞痛い痛みが離れない
オベの後命が伸びた感じする
待つ手紙来そうで午後は家にいる
本買ってしばらく虜になる予定

藤井寺市 鈴木 いさお

歳だからお手柔らかに頼みます
歳だからあまりお役に立てません
歳だから優先席へ座ります
歳だから九時に就寝四時起床
歳だから酒はほどほど腹八分

箕面市 大浦 初音

万物の母を呼ぶ声みな同じ
子育ても微妙にちがうさじ加減
いやな事あるとお鍋はピツカピカ
ひとり言多くなつたと苦笑い
外出自粛日がな一日草むしり

箕面市 酒井 紀華

手足 腰伸ばしてジムでギャル気分
洞窟に冷気ただよう水の音
君の前だけは冷たくなる私
もう少しこのままでいい傘の中
八十路きても生命線が伸びたがる

箕面市 出口 セツ子

健康なだけで幸せ知るコロナ
心配をしたが主人は無事接種
大雨の中差し入れに来る息子
困ったら助けてくれる子の温み
悩む暇無いよう多忙な日々が好き

箕面市 中山 春代

「逢いたいね」短冊ゆれる星まつり
梅雨なのになのにと庭に水を撒く
バスを待つマスクの列のディスタンス
ワクチンが済んでにぎわう予定表
保冷剤にぎりなかなか来ないバス

箕面市 広島 巴子

夢でもいい皆に会いたい七夕よ
短冊に上達願ひ五七五
ああコロナ五輪災害ボランティア
夏バテの予防梅干し子に送る
朝顔の蔓にわくわく日々新た

八尾市 寺川 はじむ

じんわりと心を解かす聞き上手
逆らいもなく頷き合つて共白髪
托して見るか逆さま押した認印
体当りすりゃ何とかなると前を向く
興奮冷めて我に帰つて青さ知る

八尾市 村上 ミツ子

蟬の声聞いた亡夫のこえもきく
ニュース見るだけでおそろしい土石流
どさくさにまぎれ大事なことを忘れ
パニックへ助けてくれる甘いもん
ストレスとうつが仲良くなっている

大阪府 米澤 俣子

燃えるとも光るでもなく生きてきた
すぐ尽きる笑い大事にキープする
古い女はやっぱり主婦に向いている
私のものさしがある暮らし向き
やる気まだあるのについて来ぬ体

神戸市 上田 和宏

新聞手紙取り込む度に手を洗う
町内の暮らし向き知るカラス達
野良猫もここがふるさとらしい顔
ことのついでホントのことを軽く言う
善人が群れて揉めごと捌けない

神戸市 奥澤 洋次郎

こんな句を前にも詠んだ気がするが
コロナ自粛三波四波に失語症
ワクチンは打ったうっとし夏マスク
窓ガラスおや珍しい蠅がいる
我ながらあきれる不精改めず

神戸市 斎藤 隆 浩

走っても走らなくてもけつまずく

見舞客遠くから来て増す不安

政治は金五輪ありきで世はコロナ

健康器具買うより日々の一万歩

ステイホーム虜になった時代劇

神戸市 敏森 廣 光

副反応若さの印僕はなし

何でやろおもしろい奴は先に逝く

鏡見るといやな親父に瓜二つ

もういいかいワクチン二回打ちました

巣ごもりで貯めたお金で靴を買う

神戸市 富永 恭 子

ウォーキング名も知らぬけど顔なじみ

命日を偲びじんわり切干煮

早朝の抹茶いい事ありそうだ

悔しさを沈めるようにスルメ噛む

青紫蘇が元氣ソーメン食べたいな

神戸市 能勢 利 子

ワクチンが済んでランチに誘われる

久し振りマスクの下もフルメイク

食べる時以外はマスク外せない

給食はマスクはずして黙食事

コロナ後の食事マナーが気にかかる

神戸市 山口 光 久

何気なく喋った言葉風を呼ぶ

集中豪雨人を叱っているような

今日もまたへばりついているのが迷い

家飲みの主役は妻の肉料理

偶然に聞いた言葉が糧になり

神戸市 山口 美 穂

天気予報今夜は当たりませんように

友もわたしもコロナ鬱かも受話器おく

ノルマの歩数疲れはマスクのせいにする

言い訳をしているわたし大嫌い

もうとまだ狭間で今日を生かされて

神戸市 山崎 武 彦

飲み過ぎを叱る友からロゼワイン

楽しみはコンビニ前で飲むビール

歯車のひとつで生きてきた矜持

コロナ明け出番待ってる燕尾服

追憶を断つと小指が疼きだす

明石市 梶谷 和 郎

暮れなずむひととき自由だと思ふ

泣いたって許してくれる訳じゃなし

クラス会みんなあの日の顔になる

ラムネ飲むビー玉コトリ喉に落ち

世に媚びて人のらしさが消えてゆく

芦屋市 竹山 千賀子

ナイターに一喜一憂する平和
さよならの文字があなたを追っている
繊細とお見受けします筆の跡
箒目に生き方学ぶ寺の庭
力瘤消えて枕と仲が良い

尼崎市 近兼 敦子

平凡なわが家に吹いた風一ツ
まだ二回キヨリが縮まぬ人見知り
聞く方も素直になつて響く声
何げない話ができる屋根の下
相槌を打てばスツキリされた顔

尼崎市 永田 紀恵

ワクチンの腕に老若はつきりと
五輪の輪五つの枷に見えて来た
準備した予算が余る家族葬
なんとなく影にせかされ行く余生
五大紙の記者文春の後付ける

尼崎市 羽奈 和子

米じゃなく電気作っている田んぼ
本当に空泳きたいこいのほり
父からの伝授餃子の包み方
じゃまくさい言うたび一つ老けていく
パトカーものんびりと行く田んぼ道

尼崎市 藤井 宏造

ワクチンを二回打つてもまだ不安
コロナ禍の出番少ない熨斗袋
無理をして泳ぐことない海開き
大根キャベツ半分を買う老い二人
強いねと言われ強がつてみせる

尼崎市 藤田 雪菜

小さいが笑顔が揃うマイホーム
世の中に何がおきても花は咲く
守るって言つてた兄の星光る
ひとつの道ゆこう曲がつてなどおれぬ
里の香の甘い蜂蜜荷が届く

尼崎市 山田 厚江

ワクチン予約に家族結束久しぶり
電動自転車高校生を抜いていく
クリエイティブな仕事すると孫五歳
指折り数えワクチン打つて曾孫抱く
南十字星に祈りを一つ手を合わす

加西市 山端 なつみ

流行語一年コロナもう二年
温暖化海抜ゼロに住む恐怖
見えるもの増えた人生下り坂
藤井君気安く呼べぬ早や九段
二刀流夏バテせぬか案じます

川西市 山口 不動

早苗伸び消えてしまった水鏡
重い荷を降ろしつつ来た二人旅
風除けは五十七年妻である
うかうかと時は金なり使い過ぎ
女文字厚い封書にざわめけり

三田市 足立 つな子

母は緑茶父はブラック差し向い
お買い物すぐ帰るから待っててね
屋上へ孫の手押しの手椅子
お早うさん返事がほしい遺影前
父の声我に返ってふりかえる

三田市 上田 ひとみ

探し物まだまだ見つけれません
あれやこれもうちよつとだけお付き合
マスクだけせてのおしゃれなんです
あなたにはお気に召さないことばかり
どうしても守りたいのは児の未来

三田市 大西 重男

東京五輪前回新婚今やもめ
ブスツと刺す注射映像見て迷う
お若いね言われてすつと腰伸ばす
晩酌をしたいばかりにあて作る
ほろ酔いの機嫌断ち切り片付ける

三田市 尾崎 一子

コロナの禍晴れぬところに電話ベル
いい知らせときめくころまた久し
老いて尚ころを論す五七五
コツコツと私の前を歩く杖
いい事を糧に前向き夏に入る

三田市 九村 義徳

何かある妻が三つ指ついている
胸襟を開けば世間広くなる
敵ながらあつぱれ胸のすく言葉
ドクターが腕組みしてる診察日
目標は父だと胸を張って言う

三田市 多田 雅尚

古稀迎え爺じと孫のベアルック
七夕に収束願う令和の世
平成の頃から自粛してる墓
復興の証の五輪無観客
食卓はナスとキュウリの天こ盛り

三田市 野口 真桜子

年上の女罪悪感が残る愛
裸足のままで径駆け抜けた少女の日
斥候を亡夫に任せる冥土道
地球乱れ春に飛び交う赤トンボ
乱世を斬り進むと決めた蜚鳥賊

三田市 福田好文

宝塚市 丸山孔一

娘の土産ベアールックが着られない

格差など知らぬ野花が咲き競う

良いことで胸騒ぎしたことがない

老妻も偶に褒めぬとへそ曲げる

いいブーム香典不要家族葬

三田市 堀 正和

マスク越し話はムリな遠い耳

生きてると旅の絵ハガキ友へ出す

再放送この世で逢えぬ人ばかり

巢籠りじゃユーモア句など生まれない

中古だがベースメーカーまだ元気

三田市 村田 博

ワクチンを打ってみんなの輪に戻る

いい人と敵からエール恙無い

まだ枯れぬ山も緑のままである

漢字には弱いカタカナ語にも弱い

素になって過去顧みる葦になる

高砂市 松尾 柳右子

手間ヒマのかかる料理を好む孫

マイカーは便利家族で墓まいり

入浴の介助しあわせかみしめる

蟬の声聞いたと思う梅雨晴れ間

祝祭日コロコロ変わるカレンダー

綿入力で炬燵Tシャツでエアコン

終活帳加筆訂正多過ぎる

タレントの離婚結婚あほらしや

掛け軸を本物ならと値踏みする

永年の空地にやつと家が建つ

丹波篠山市 酒井健二

ウグイスの鳴く駅降りて墓まいり

亡くなった方に優しい月明かり

欲張ると少し仮面がずれている

真剣にコロナを探り策を練る

ワクチンを打ったし生まれ変わるかも

丹波篠山市 長谷川 善輔

実態はボツンと一人の町暮らし

あと少しだけいつつ生きる一人ぼち

ワクチンすんだ矢でも鉄砲でも持つて来い

コロナ退散予定書き込むカレンダー

色々と言いたいことはあの世にて

西宮市 緒方 美津子

裏道を歩くほっこり古本屋

終活をはじめたばかりまだ逝けぬ

途中下車母の匂いの無人駅

自分で自分守らねば風吹かぬ

コロナという罫にもだえている地球

西宮市 亀岡哲子

赤シャツは着たがネクタイ赤はない

傾いて思案しながら回る星

コロナ明け結婚するとゆう気配

消毒の拇印でボンと事が済み

大笑い我慢競べの幕下ろす

西宮市 福島弘子

振り子時計心はぐれる梅雨ごもり

ゆつくりと熟成自家の塩糍

五波不安拭えぬ五輪蟬が鳴く

押し入れへ逃げる病院嫌い猫

くちなしの道を選んでウォーキング

西宮市 福田正彦

神戸子チェロの音色が待ち遠し

頬染めて手を繋いだ日ふと思う

愛妻が溜めていたのは抗体だ

うたかたの恋も今では一里塚

平坦で無い人生に生きがい

南あわじ市 萩原狸月

ワクチンを二回でうづく旅心

自粛してまだ埋まらない朱印帳

川柳にパークゴルフに老い楽し

顔に艶目に光あり生きる欲

正論を述べてタレント評論家

奈良市 宇賀史郎

浜育ち都心の老後冷凍魚

転勤で学ぶ人脈イロハのイ

先読めず段取り下手が言う多忙

仕事中無言の嫉母の背

接種後の旅は感染低い土地

奈良市 大久保眞澄

返す気もアテもないのに借りにくる

腕まくりしてますがただのクセです

雨男は誰だと騒ぐ雨男

エラい人にはない引き返す勇氣

ノラ猫はおん年十五生き上手

奈良市 加藤江里子

お茶にする？夫答えず猫が来る

安心と安全違う辞書で引く

五輪開幕お飾りだった分科会

ボランティアワクチン接種ままならず

茅の輪くぐるコロナ収束願いつつ

奈良市 高橋敬子

いつのまにか息子の髪も白いもの

連休も老母に会えず長電話

値上がりのニュースに粉を一袋

迷走の五輪本気かその標語

娑羅双樹今年も話す物語

奈良市 辻 内 げんえい

ワクチン接種早さを競う高齢者

ワクチンで熱出た爺に「若いわネエ」

退院日ワクチン接種邪魔をする

退院を遅らせコロナ知らん顔

退院を遊び相手の孫が待つ

奈良市 山 本 昌 代

体力に孫の子守りは限界か

どうしても固有名詞が出てこない

仏壇の夫と話し込んでいる

ふつからこ温い介助の手と触れる

頼まれて隣の花に水をやる

奈良市 米 田 恭 昌

今浦島に地下街と言う迷路

強面もどん引くおぞましいニュース

妙薬も諸刃の剣という作用

スマホ手に口の重たい平成っ子

先行不透明少子化の日本

生駒市 飛 永 ふりこ

向日葵の作り笑いを真似てみる

コーヒーの苦味が脳をブッシユする

梅花藻がふつと引き込む透明度

手作りのマスク律気さ顔を出す

懐かしいレースのボレロ母匂う

香芝市 大 内 朝 子

梔子の浮き世離れをした薫り

堂堂と時代遅れを生きている

炎天へマスクの中はサウナ風呂

預貯金は減るがたっぷり皮下脂肪

初蟬へ童心となる里帰り

香芝市 山 下 純 子

ハザードマップ出来て我が街値が下がる

登山道枝にヒラヒラマスク揺れ

さん付けで呼ぶ時夫訳がある

スリルより安全パイで生きてきた

休まずに学校行けるだけでいい

奈良県 安 福 和 夫

日本丸コロナ五輪で揺れに揺れ

正念場今こそ欲しいワンチーム

体調を崩すと国が自責問う

専門家いつの間にやら評論家

求めている先手先手の政治力

奈良県 谷 川 憲

コロナ禍後めざし足腰鍛えてる

巨大五輪クーベルタンに戻らねば

持病との長い付き合い友のよう

周平を再読人の機微新た

旧友との電話とりとめもなくなる

奈良県 中原 比呂志

大騒ぎさせて後手何隠す

二刀流武蔵は心も鍛えてる

身の丈に合うた意見は却下され

詳しくのホームページが開けない

ポイントにつられ買うたが役立たず

奈良県 中堀 優

遊ぶことメイン間に仕事する

風だっで行きたいところきつとある

猫の寝顔癒やしてくれるわが心

危ない橋這ってでも行かねばならぬ

味のある言葉に酔ってついていく

奈良県 長谷川 崇 明

百年に一度が去年また今年

沈下橋へこたれません明日も生き

ワクチン後も気持ち穏やかまだなれぬ

ワクチン後やつとI C O C Aをチャージする

久し振り酒酌み交す俺お前

奈良県 渡辺 富子

こぼれ種見事に咲かす意地がある

吹っきた足音立てて妻出かけ

目を伏せて帽子にマスクすれ違う

断捨離へ覚悟が揺らぎはかどらず

答えない人生の森深くなる

和歌山市 上田 紀子

その内に香る造花出来そうで

世界中元氣届ける五輪の灯

夢多彩見たい知りたい好奇心

激みなく川は流れる過疎進む

原点はみんなまっ白丸裸

和歌山市 柏原 夕 胡

苦い汁吸ってもめげぬ私です

出来映えはどうあれプランターの茄子

ゴミ拾う人間でいて良しとする

フットワークの軽さよ役に立っている

越して来て良かったみんな温かい

岩出市 藤原 ほか

今一人しつかり足を踏み締める

漂って今をかみしめ生きている

土砂崩れどこで起こるかわからない

土石流ハザードマップ確かめる

巻きこまれることがあっても覚悟する

海南市 小谷 小雪

株分けの万年青新葉のご挨拶

里の川でまたカワセミに出会いたい

藍葉染千年前の人を恋う

今週は念入り掃除子の帰省

じいちゃんの植えたダリアが雨に咲く

橋本市 石田隆彦

さわやかに目覚めた今日も自粛する

微笑みも化粧も隠すマスク顔

野良仕事疲れを癒やすホーホケキヨ

代り映えなかった僕の十年記

折角のスーパームーン見せぬ空

京都市 清水英旺

半珈思惟のポーズで一句絞り出す

血圧と体重測るのが日課

体調はよいらしい妻の長電話

大国のくせに品性欠いている

ニッポンは進んだ国と信じてた

京都市 藤井文代

広げた新聞コロナばかりのワイドショー

両手広げいつも助っ人逝った兄

明日への存在うやむやにするコロナ禍は

今はできぬ帰路に寄り道回り道

相槌打ったからか届いたおくり物

長岡京市 山田葉子

アガパンサス咲くと毎年名を尋ね

青い空どこか遠くへ行きたいな

祇園まつり鯉のおとしが待っている

じつと手を見ればやつぱりおばあさん

怒らないで見守るだけは難しい

鳥取市 池澤大鯨

喧嘩とは互いに生き甲斐止められぬ

田舎将棋口でも喧嘩しています

仲裁が喧嘩に加わり三つ巴

母を失い父を失い継母を失う

磯焼けに磯遊びから遠ざかり

鳥取市 奥田由美

県外車の肩身が狭い駐車場

効きすぎも効かぬも因る処方箋

待ち合いのエアコンだけが効く医院

お互いが道を譲らぬ過保護犬

クーポンで頂く皿がよく割れる

鳥取市 加藤茶人

ちよつと待て同意のチェックペン重い

二流でも意地と誇りと負けぬ夢

笑われてナンボ悪人には成れず

ひとり居て決意も新た四畳半

女子会の噂話は知らんけど

鳥取市 岸本宏章

ワクチンの副反応も出て安堵

向い風受けてシナリオ練り直す

白黒をはっきりさせて敵もいる

大御所が座れば締まる座の空気

サミットのどこに居るのか菅総理

鳥取市 岸 本 孝 子

ワクチン接種終えてこころは日本晴れ
副反応効いた証と喜ぼう

ワクチンは終った あなた逢えますか
女には素通りさせぬ五割引

おいしいとは言ってもまずいとは言わぬ

鳥取市 倉 益 一 瑤

揺れながら一本線を描いている

途中下車シナリオ狂うことになる

みんな去りだんだん歩幅せまくなる

不器用で尻尾がうまく振れません

末席で小さく反旗振っている

鳥取市 田 賀 八 千 代

種を撤く明日への夢を膨らませ

夢支え育ててくれた森がある

好奇心強くドタバタ劇続く

台本通りいかぬ二人も最終章

お手玉を一緒に作り孫伝授

鳥取市 棚 田 大

クーラーも猛暑にあきれくらくらだ

梅雨だのに雨降るなよと叫び出す

コロナ禍も横着もんに活入れる

初夏もまた俺らに元氣プレゼント

仲裁に割って入るもいばってる

鳥取市 谷 口 回 春 子

一人抜け二人抜けする「いとこ会」
気がつけばシニア時代の仲間入り

逆上がりできたあの頃句でした
ラブソング聴いて心の垢落とす

懷に飛び込む孫に諭吉笑む

鳥取市 永 原 昌 鼓

大谷の勇姿続けよゴールまで

守備範囲広いと外野見せどころ

一番の治療薬だよ子の支え

母さんは家族みんなの守り神

壮大な銀河見上げて息ひとつ

鳥取市 中 村 金 祥

コロナ禍へ回転木馬止まらない

天敵が居ない島から抜け出せぬ

土石流リアルタイムで見る地獄

待合室の知らない曲に癒やされる

子育てを終えて再び春がくる

鳥取市 副 井 ゆ た か

災害に備え食糧箱で買う

ワクチン接種ゴールへ向けた一里塚

句づくりで認知機能を再起動

上位句を繰り返し読む掲載誌

コロナ禍と豪雨被害の合わせ技

鳥取市 福西茶子

向き合わず並んで夢を見たかった
正論がいくつもあつたツバメの巣
ひと呼吸おけば辞退も出来たはず
バツサリと俄庭師が植木切る
モヤモヤが続く本心聞くまでは

鳥取市 前田楓花

アドバイスもらうと流れ出す言葉
行きつけの店を覗くもがらんど
血縁はたまに面倒くさくなる
天からの制御出来ない雨続く
モスコミュール名前に惹かれ飲んでみる

鳥取市 山下凱柳

一心不乱指を折つては今日も暮れ
忖度が自死を招いた悲劇よぶ
老いの身に鞭打つコロナ熱中症
悔しいが老いを自覚の記憶力
喜寿迎え次の慶寿を生く決意

鳥取市 吉田孔美子

国土に止まらず海までも侵す
土知らぬ育つ野菜も食べる児も
土作り果たせぬままに歟離す
太る間はなかつた指もささくれた
好きなことぶらりぶらりと黄金期

鳥取市 吉田弘子

今はもう動けるだけで有り難い
段落と尺取虫に似た動き
突然の雨で拾った人の情
満を持す顔が出揃うオリンピック
勝敗より礼儀正しい力士好き

倉吉市 猪川由美子

ファイル開示もやはり見殺し泣き寝入り
菅総理の首掛かつて五輪です
ボロボロになる前に引退すればいかがか
夫婦喧嘩胎児はジツと聞いている
災害時避難コロナが絡み大変だ

倉吉市 大羽雄大

取り敢えず安堵ワクチン二度接種
ピーヒャラ今年夏も先送り
子の巣立ち食卓広くなっている
背をスーッと伸ばした人が前に行く
夕焼けに今日の疲れを締めくくる

倉吉市 田中紀美恵

嫁の愚痴聞かぬふりして耐えている
日曜日自由きままに闊歩する
割り勘だ飲めぬ私は大損だ
孫五歳話し相手に丁度いい
亡母の日記耐えた言葉がぎつしりと

倉吉市 牧野 芳光

買った苗にも当り外れがあつた
知恵が出ぬ時は梅干を齧る
人間になるには酒も金もいる
耳鳴りと聞いたら耳鳴りに気付く
教育が貧乏人の蜘蛛の糸

米子市 池田 美穂

没句にも言いたい事はたんとある
何故か夫コーヒー二番出しが好き
下戸だから酒の力が借りられぬ
ブランドー過保護に育てまた枯れた
誤字脱字絵文字もつけて師にメール

米子市 伊塚 美枝子

コロナ禍も自由に飛べる小鳥たち
ワクチンの終った友とランチする
豊作の梅桶いっぱい常備菜
幸せの顔が見たくて畑に出る
アナグマようちの西瓜は星いくつ

米子市 後藤 宏之

小判でもあるのか犬が土を掘る
パソコンもスマホもなしで生きのこる
あの人は底が知れない何者だ
住宅地下はゴミ処理場だった
コロナの本音判らないから怖い

米子市 後藤 美恵子

時短レシビ手抜きにあらざる合理的
早朝の出勤送る夢現
記憶よりメモを頼りに暮らしてる
人生の峠多忙を極めてた
原発の汚染土風化させられぬ

米子市 竹村 紀の治

夢にくる人に飲み過ぎ叱られる
耕しておきたいやがて還る土
直ぐに効く休肝明けの旨い酒
赤ちゃんの瞳の中は広い海
体操で明けて深夜便で更ける

米子市 中原 章子

梅干しを漬けて今年の達成感
コロナ禍が感動場面遠ざける
上を向くかたちに軌道修正す
わかったと言って不服が顔にでる
キャッシュレス時代の波に慣らされる

米子市 成田 雨奇

コマーシャルの間に夫婦会話する
忘れないように名前で妻を呼ぶ
新車買わず車検終わってまだ乗る気
居酒屋に人が集まるのは何時か
刻一刻老化は進むこの今も

米子市 野川 宣子

鳥取県 山下 節子

七十五歳新しい事受け付けぬ

新しいルール生まれたコロナ禍に

お互いが笑って許す物忘れ

空模様聞いて遊びのスケジュール

言い訳を積んで崩して夜が明ける

鳥取県 門村 幸子

ざっくりと西瓜を切れば夏匂う

うっかりになくはならぬ傷テープ

悪い知らせ無ければ吉と今日仕舞う

浮き浮きとしてもおれずに五輪来る

のびのびとドリームタイム深夜便

鳥取県 斉尾 くにこ

そのままで過ぎてることはそのままに

話したい訊きたいフリーマーケット

知らなくていいことはそのままにして

気まずさもいつしかカフェの横並び

夏の青フェリーの波が裂いていく

鳥取県 竹信 照彦

山陰線不通になった三日間

だがしかし災害復興するも人

わが畑に被害は無いかチェックする

収穫は妻に任せている畑

支柱補強に畑をのぞくのが日課

握手した人支援者と思ひ込む

再会の握手にしばし見詰め合う

何でもない会話の中にあるヒント

進路決め親の同意がままならぬ

テスト時間等しく与えられている

松江市 石橋 芳山

西日照る海へとフェイドアウトする

大声で通る上腕二頭筋

腕時計外して食べている自由

ワイワイと竜飛岬へゆく鎖骨

棘のある空気がランダムに並ぶ

松江市 藤井 寿代

淋しいなコロナ禍のオリンピック

17音を吐いて広がる友の輪・輪

ネギ刻む遥かな人を想いながら

マドンナもヒアルロン酸打つらしい

散骨か宇宙葬かで揉めている

松江市 松本 知恵子

ふるさとの殿様蛙父の顔

水害の悪夢は遠い日の記憶

崖崩れ間一髪の幼い日

川変わる豪雨の凄さ忘れない

奇跡あり母の面会扉開く

出雲市 伊藤玲峰

地区句会老いても続け呆けまいぞ
地位もらいまだ汗流す役がある
三歳上の柳友も元気に競い合う
手の汗を拭いて拍手の隠岐の海
まっとうに生きると風も背を押す

出雲市 岸桂子

百歳を露の命というなかれ
老人の智恵が空気を和ませる
どの辺に私を置こうランク付け
砂時計落ちる速さへ余命ふと
残り火はまだある風を待っている

雲南市 菅田かつ子

草原やこの頃視野の狭くなり
いい人が出来たか孫が帰らない
何べんも聞いたかそうか話したか
先輩に手を抜く事も教えられ
思ひ出の中に自慢の二つ三つ

鳥根県 伊藤寿美

豎琴の褥りが深くなるビルマ
目の合った隠しカメラに知らぬ振り
デジタルに挑む三元号を生きた皺
「ブレーキ踏んだ」言い張る老いを裁かねば
役人の会食小火で収まらず

岡山市 大石洋子

人生の句点ワクチン受けに行く
接種会場同窓会のようになる
あちこちで出所不明の電子音
術がない隣家にとまる救急車
夜が明けてリセットのごと米を研ぐ

岡山市 工藤千代子

日常を押しつけられているLINE
お盆には帰っておいでの声は無い
命儚い俳優も朝顔も
ワクチンは痛いコロナは恐ろしい
バイト代出たと孫から折りの寿司

岡山市 前田恵美子

コーヒーをゆつくり入れて脳目覚め
八十キロ生った梅の木五十歳
ジャガ芋も大豊作でもう田植
近頃はコロナ疲れが滲み出る
お年寄り熱の出るほど力なし

笠岡市 藤井智史

リミッター外れて愛の大暴れ
破れるまで履く勝負パンツは赤
胸キュンなロックで君を奪いたい
タラレバの夢じゃ拓けぬ青い空
ジュテームジュテーム恋のスカーレット

岡山県 高岡茂子

川土手の芥子の群れまで朝散歩
ワクチンすんだ急ぎ院展かけつける
井原線行きも帰りもアート車輛
同人名おぼえて期待する作画
抗体を待ちきれずした内緒旅

岡山県 田中 恵

花一輪心の杖になつて
花柄のエプロン付けて元氣出す
耕作を放棄しました耕運機
梅干の赤はいとしい母の色
巣籠りをお陽さま味方してくれる

岡山県 藤澤 照代

鶯の声ネギ刻む手を止める
雲の峰わたしの影も走り出す
折々の私に力くれた歌
財布もつ妻にはいつも負けておく
三密に無縁に育つ燕の子

竹原市 岩本笑子

毛糸編む母の気持になつて編む
夫のいびき雨よりすごいなと思ひ
ある時は母ともなつて墓まいり
なでしこが好きな母なり活けてあげ
花バサミ母につこりと活けている

三原市 鴨田 昭紀

名演技ノンアルコールドも酔える
世渡りの術身に付けた風見鶏
ひらめきと勘をわたしの武器にする
路線図をはみ出す少年の翼
信用を失いかけてから氣付く

三原市 笹重 耕三

孫の夢咲くまで弱音など吐けぬ
放棄地の隙間で朽ちていく案山子
人並みを知らないわたくしのカルテ
崖つぶちに立つてる夢で目が覚める
七十六年目も叫ぶヒロシマ

岩国市 上村 夢香

大雨のニュース見たよと友の声
大雨と五輪のニュース見比べる
日記には反省の文字増えるだけ
女子会の約束だけはしています
朝刊をくり返し読む勝った朝

宇部市 平田 実男

嘘をつく時はもつれる僕の舌
子や孫に抜かれ嬉しい背の丈
皆マスク講師アクビに氣付かない
謝罪会見頭を下げて舌を出し
ゴミ出しで僕の日廻り出す

防府市 坂本 加代

遭難をスマホが救うデジタル化

経験と歴史学んで国の長

決めかねて真ん中にいる風見鶏

断捨離をもったいないが邪魔をする

世は進歩新語生み出すローティーン

松山市 古手川 光

過疎暮らし蟬のシャワーを浴びながら

大掃除いっぺんしたいこの頭

借金は無いけど首が回らない

雷は自然の拳骨かも知れん

彼岸花が点火棚田が燃え上がる

松山市 宮尾 みのり

身の程は知って前には出ない性

エアコンの故障扇風機の無力

伝染をするよう家電役終える

突然の出費溜め息つく財布

無理せねば我が家の暮らし成り立たぬ

松山市 柳田 かおる

穴あきジーンズ粹に思えるから不思議

役どころちようどパセリの位置かしら

軸足が決まらないままトスがくる

感染ゼロでも終った感がないのです

自粛の効果か自分流ができた

今治市 永井 松柏

セザンヌが似合う真夏のカレンダー

ミニトマトさえも手強い表皮持つ

バゲットを手にドラキュラに立ち向かう

コロナワクチン二回終わってなお自粛

どこからも五輪ソングが聞こえない

西予市 黒田 茂代

行く度に見上げる店のつばめの巢

水ようかんの台は切子ガラス皿

商品にされて旅立つカブト虫

新鮮な心で花を活け替える

切り花になっても伸びてゆく命

東かがわ市 川崎 ひかり

昭和史を語る火の章飢えの章

窯の火を落とし静かに時を待つ

世の仕組み解って父を理解する

ばあさんがイケメン好きでなぜ笑う

諍いで今日はひとりの万歩計

高知県 小澤 幸泉

卒業の門をいくつも通り過ぎ

神さまに今日も生きよと起こされる

ぼんやりと友の遺影に呼びかける

生き抜いてコロナ悪政止めにする

古里が時々見える梅雨晴れ間

唐津市 坂本 蜂朗

北九州市 小松 紀子

人々の対話を下手にするコロナ
目配せが次第に巧くなるマスク
皆マスク付ければ増える無精髭
幼稚園児立ち上がる時どっこいしょ
人工骨百歳までは保証され

唐津市 山口 高明

三千年時空見て来たモアイ像
楊貴妃の生れ代りというおんな
四月一日と苗字読む方居てくれず
間違つて飲んだ下剤が効いてくる
わたしより若い婦人に孫五人

熊本市 杉野 羅天

阿蘇薄暮雉が一声締めと鳴き
生花一輪今日の元気を呼び起こす
4分の3嗚呼コロナ禍の無症状
大病院疑心暗鬼のすれ違い
残り一月コロナ五輪となりにけり

熊本県 岩切 康子

コロナ中書面決議書ニヶ所から
血圧計わたしのハート左右する
仰向きの蟬を起こせば飛んでった
犬に話しかけ奥様の様子知る
新車道サイドの草を刈って待つ

きれいですネーバス停花壇ほめてくれ
一日がとても楽しい花作り
まだまだいける花壇の花達と
みんなに感謝ありがたい事である
大丈夫なんとかなる!!自分にエール

札幌市 小沢 淳

孫つるでスイカの花よ付けてくれ
コロナ戦後手後手だけが写される
無党派に媚びる政策の乱れ打ち
トンネルを抜けて眩しい視野無限
老残に夢中にさせる物がない

弘前市 稲見 則彦

深緑に誘われマスク外す幸
五つ六つ南瓜が揺れている盛夏
多目的ゴーヤ棚だと自惚れる
この夏も集いはできぬままでした
絵日記に迫力欠ける夏休み

弘前市 今 愁女

災害にたまの逢瀬も破綻する
カッコーの初声未だ聴かず居り
肌露わ淑女大きな夏帽子
大雨予報どうか大事にならぬよう
平凡が一番良いとよく言うた

塩竈市 木田 比呂朗

お月見を呼び水にする吟醸酒

妻までも夢中にさせたショートタイム

詳細はネットなどでとにかくにもない

トイレで長考あの彫刻に似る

二回目はお済みですかと縄のれん

男鹿市 伊藤 のぶよし

好きは好き多機能よりも単機能

樂觀も悲觀もあつて生きられる

見て泣くか聞いて泣くかは自由です

直立よりちよつと斜めで心地よい

此処までと制止するのも知恵のうち

東京都 川本 真理子

夏休みよみがえる絵日記の日々

初戦負けばかりに夏は来ないなど

お久しぶりあわててマスク取りに入る

もどることにしたんだ餅小さめに

かたつむりの小さな殻に長い時

東京都 まえで とよこ

泣きたいとき笑ってしまう昨日今日

ふるい椅子いつのまにやらねてしまひ

ワクチン接種会場息子につきそわれ

梅雨晴れ間ワクチン二回目ぶじにうつ

幼年消防隊へ団長の声やさしそう

八王子市 川名 洋子

二度とない今を大事に積み重ね

寂しくて気楽でもあり独り居る

欠点を味方にゆるり生きている

回転ドアするりと抜ける幸せよ

これで気が晴れたと友の長電話

横浜市 川島 良子

悔やんでも時計は元に戻せない

発展途上まだまだ進化するワタシ

あの人の存在空気清浄機

孤独死も視野にひとりという自由

人柄も評価されてる二刀流

横浜市 菊地 政勝

古傷を慰めあつてデトックス

ワクチンの二回接種で一人前

もうとまだくり返される危機管理

蝶々が話をしたいように来る

腹いせにやっているのか路上飲み

上尾市 中村 伸子

珈琲の香りに似合うセレナーデ

知り合って一年だけ顔知らぬ

オオタニさんに捧げるクラシックを探す

オンラインの求職いかに孫娘

ホスピスのドラマ見ている何となく

朝霞市 前田 洋子

老猫に温度湿度も気を配る

マンシヨンの話題は孵化のツバメの子

自爾中ツバメが孫にくれた夢

翔平のニュースで耳目清めます

花柄の傘に雨粒躍らせる

可見市 板山 まみ子

長びいてコロナ以前を忘れてる

盛り場と無縁なくらし高齢者

献立に悩む毎日愚痴となる

あれが良いこれを食べろと言うテレビ

騒音が飛び込む窓を開けられぬ

名古屋山 本三樹夫

責任が抜けて仕舞った永田町

政策が心に強くひびかない

傘寿まで周り巡った四季の里

エコバッグ今日の中味は薬です

ほおずきと赤さを競うミニトマト

犬山市 金子 美千代

会いたいね会いたいねーと早や二年

本音なら電話の方が言いやすい

食べ慣れた味が一番煮ころがし

ひとりではやはり寂しくなるお酒

二級品ばかり食べてる桃の里

犬山市 関本 かつ子

半額に買うのをやめたしたサブリ

チャンネルを変えても古いサスペンス

雑巾は手縫いと決めているメガネ

気が付けば一人喋りの家籠り

認知症テストを待っている愛車

愛知県 早川 遡行

卓球を始めて進む食と酒

卓球の相手はみんなお年寄り

ワクチン打ち終えても外せぬマスク

水遣りと酒は欠かせぬ家籠り

いい泡だ腹の底から酔っている

富山市 島 ひかる

薬局へ行くと増える小冊子

施設など見て来て夫人入れられぬ

上見れば切りなし介護良しとする

生きてゆく赤青黄を見極める

ぎりぎりまで待とうあなたの良い返事

ひとこと募集

◇ 一行15字 25行まで

◇ 同人・誌友を問いません

◇ 採否は編集部に一任の事

川柳塔の

川柳讃歌

⑬

上方芸能評論家 木津川 計

ネクタイを捨てて寂しげな顔を見た

前田 楓花

とうとう来た定年である。まだ元氣だ。働ける。だが会社は「いつまでもお達者で」と送り出してくれたきりである。俺はもう必要でないのか。空しさがこみあげてきた。第一線で活躍していた頃、ネクタイは人柄と人格の象徴だった。だが定年後、ネクタイを締める必要はなくなった。選び抜いたネクタイだったがいま捨てているのだ。人柄と人格を捨てればぬけの殻ではないか。楓花さん、彼は寂しいのです。讀んであげてください。

おおきにと有難うとの微妙な差

鈴木 いさお

「粋(いき)」と「粹(すい)」はどう違うか。「いき」も「すい」も渋味をベースにするが、「いき」には苦味があり「すい」には甘味がある。こう解釈したのは、宮本大阪学を構築した宮本又次大阪大学教授であった。言い得て妙、

絶妙の解釈だった。さて、「おおきに」と「有難う」である。どちらも感謝をベースにするが、「おおきに」には近接感があり「有難う」には距離感がある。いさおさん、こんな区別でどんなものでしょう。

惣菜の値引きシールを待つ夫婦

奥田 由美

この夫婦の生活は苦しい。二人合わせてもわずかでしかない年金を頼りに暮している。繁華街でのショッピングは随分昔だ。夫は煙草をやめ、カンビールも一日一本に決めた。妻の美容院も一カ月に一回が二カ月になり、三カ月に一回にする月もある。そんなつましい暮らしでも二人は明るい。「お父さん、一緒に行くかあ」で値引きシールを待ちにいくのだ。取り繕わない暮らしは世間体も構わない。由美さん、このご夫婦に拍手を送ります。

蕾よつぼみ今咲こうとする力

岩本 笑子

詩人・杉山平一に「蕾」という詩がある。「誰がつくった文字なのだろう／草かんむりに雷とかいて／つぼみと読むのは素晴らしい／とき至って野山に／花は爆発するのだ／遠い遠い花火のように／その音はまだ／この世にとどいてこない」。あの小さく愛らしい蕾は雷をかかえていたのだ。若者はみな蕾で

ある。とき至って爆発する。近年は女性の活躍が目立つ。今期の芥川賞、直木賞とも女性が受賞した。笑子さん、その蕾をお大切に。お隣の長唄流る曇さがり

松本 知恵子

稽古しておいでなのでしょう。三味線を弾きながら懸命です。知恵子さんは松江にお住まいです。由来、芸能文化の栄えた土地でした。今はなくなりましたが、昔は「花嫁修行」が盛んでお茶にお花は必須、加えて舞踊に三味線も習わせられましたから。修行は大変でした。町の稽古屋は繁昌し、出稽古に出向くお師匠さんは走り回っていました。大阪の戦前の話です。知恵子さん、昼下り、長唄の流れるええ所にお住まい。羨しいことです。

手の届く範囲リモコン 酒タバコ

加藤 茶人

歳をとるほどに外へ出向く体力がなくなると立ち上るのが難儀で、手の届く範囲に必要なものを置いておく。郵便物、筆記用具、ケータイ、原稿用紙、ビール、加えて川柳塔である。すべて私の身辺にある。あとつまみが少しあれば何も要らない。食欲もなくなっているのだ。茶人さんの「手の届く範囲」にも酒とタバコがあるので。言うことありません。

自選集

小島蘭幸

句碑までの坂を歩いて来たみどり

驗閉じるとひとりではない句碑まつり

句集「檸檬」供えて路郎師を想う

歳月の重さ文学碑の深さ

プレゼントとする御下がりのワンカップ

三浦強一

名は出ぬが顔はお馴染みグータッチ

被災地に万年を待つ核のゴミ

原発の結果はトイレなき館

中学は戦闘帽の戦中派

八月の空甦るキノコ雲

三宅保州

半分こ母は小さい方を取る

若気の至りと言えない歳になり

最寄りの駅からとことん歩くマイホーム

ご健勝のことと勝手に決めないで

ピカソよりうまいと褒めてくれたけど

村上玄也

コロナ禍中五輪やる意義見いだせず

アスリートまでも悩ませて五輪

すったもんだの五輪結局無観客

五輪間近高揚感が湧いて来ぬ

オリ・パラが終った後が恐ろしい

森山盛桜

優しさは柑橘系が良いのです

寒色の群れに成りたくない緑

点線を混せて記憶が繋がった

同色が国旗になると畦み合う

薔薇の字が書けずには賊は出て行つた

八木千代

朧おほろに招きつづける昔人

承知している錨はすぐに上げられる

船を出す順に登録したのだが

浮草の旅はなしなど耳にして

漂うもよしさざ波の舟溜まり

山本希久子

コロナワクチンきつと潮目を変えるはず

朝のみそ汁今日の元気を仕掛けとく

一病と命養うため食べる

私に従う老夫いて平和

ネジ一本とれた老後のおだやかさ

居谷 真理子

婆さんになって優しくしてもらう
世界中と仲良くなれよ蒙古斑
薫風に活字の毒を吐いている
無関心いつも静かに微笑んで
腐葉土にナイフうずめて森を出る

川上 大輪

とりあえず包丁だけは研いでおく
MRIが私を料理する
例えばの話で蓄膨らます
濡れ衣をまた着せられたアルコール
これも人生失敗もまた宝

北野 哲男

簡単と言われたスマホよく背く
肩の荷でバランスとっているのです
積み上げた良い思い出に支えられ
老けるゾ影が叱咤をするのです
灰色はあの世へ逝ってからのこと

木本 朱夏

お前そこに居たかと父は頷いて
さよならの瞬間父と目が合った
昼寝から覚めても父はもう居ない
今にして父の孤独な背を思う
父逝きし日を巻きもどす蟬しぐれ

新家 完司

てのひらにのせるとかわいらしいビワ
アザレアに負けずマスクの花盛り
スキップで転ける遊びがおもしろい
おとついの餃子だったらまだ食える
特選句キツネうどんじゃ閃かぬ

高瀬 霜石

友だちと旅行友だちみな無職
回復の兆よく鳴る腹の虫
免許証よりも大事な保険証
信念もないのに欠けてゆく奥歯
大伴は旅人 わたしくは旅人

竹治 ちかし

緑之助けあつていずもの一世紀
百周年目指す遥山亭の雛
郷に居る人より街で郷想う
日々命溶かし酷暑の日が暮れる
生かされて生きて弾んでいる余生

津守 柳伸

お早ようのひと声愛の潤滑油
国民の接種氣遣う美智子さま
土砂崩れ選挙五輪へ騒がしい
美しい夕日を愛でるころろざし
迷惑はかけぬ自肅のスケジュール

都 倉 求 芽

アルファードがだんだん消えていく体
オリンピックとコロナどちらが勝つ政治
ワクチンを二回しました なにもなし
ユーチューバー スマホ 別の世界があるらしい
お風呂まであともう一日の痒さ

西 出 楓 楽

ウィルスの生き方学ぶものがある
連れ合いの話と聞けば猫のこと
ごめんねいつも自分に言っている
独り居の食事買い過ぎ食べ過ぎる
ブランコを曾孫と漕いで風になる

仁 部 四 郎

憲法の前文を読む敬老日
連休の敬老の日はパーツです
敬老の日です秋の蚊生きのびる
敬老の日から断捨離始めよう
敬老の日です一茶の「さりながら」

福 士 慕 情

寝室の窓で雀が餌ねだる
成鳥になったか鶯谷渡り
遠郭公托卵の子を探してか
雨になるのだろうか山鳩が啼く
鳥鳴き悪く思っている人がある

松 本 文 子

ごめんなさい天に向かつてもう一度
拒否されても生きるものは生きる
叩いてくれる励ましてくれる
私を離れぬ線状降水帯
一人で飲む見えないものを見つめてる

麻生路郎語録

人類は悲しからずや左派と右派
という句を、某誌に

人生は悲しからずや左派と右派
と載せていたが、これではねえと云いたくなる。
「人生は」と「人類は」の違いをよく噛みしめて
みて欲しい。「左派と右派」と「右派と左派」に
されても困る。ソナタ大ざっぱなアタマで詩をい
じられてはたまったものではない。

老人はよく、思い違い、記憶違いで物を書いて
いる場合が多い。若い人にはこの詩語はワシの創
作などと豪語している場合があるが、たったそ
の一語で若いなあと鼻であしらわれていることを
ご存じないものもある。

（「川柳雑誌」NO・415より）

水煙抄

(つづき)

妻ヒステリーおいらの脳もヒステリー
妻となる勝手に耳が逃避行
不機嫌な妻の心よ開けゴマ
頑な妻を和ます梅雨晴れ間

髪型をほめられ次もこれにしよ
忘れていい電話番号覚えてる
ふくらんだ財布増えたのカネじゃない
選挙区回り不要不急じゃないらしい

(前月分) 横浜市 長 島 亜希子

沸点に届かぬ愛を抱いている
残火茫茫見果てぬ夢が起きてくる
昔ばなしが聞きたくなって森に行く
わたし一人を迎えてくれた風の駅

(前月分) 山口市 中 前 幸 子

第48回 東大阪市民川柳誌上大会

宿 題 (各題2句)

「朝」 中 蘭 清 選
「リハビリ」 山岡富美子 選
「ぞくぞく」 大堀 正明 選
「絞る」 西 美和子 選
「未 来」 岩佐ダン吉 選
「跳ねる」 小山恵美子 選

締 切 9月24日(金) 必着

投 句 料 1,000円

投 句 用 紙 指定用紙(コピー可)

投 句 先 〒581-0817

八尾市久宝園1-2-2

槐山 常男 まで

問合せ先 槐山 常男

電話

072-923-7421

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

太平洋越えて父子の初電話

主役への夢は捨ててるかすみ草

ドラマならここらで軽く肩を抱く

フリージア岩波新書読む少女

無職にはやはり無職のスケジュール

白岩文衛君死去

パレットに彩を遺して君は逝き

一人でも一日三度めしを食う

もともとは誰のものでもない地球

小さ目の椅子を選んだ二度の職

召集の老兵思う二度の職

独学で亡き碩学を恩師とし

鉄棒が重たくなった鬼の古い

モナリザの微笑は何の返事だろう

影武者の方が立派な髭生やし

エリート不幸 下積み知らず生き

跳箱をとり越せなかった少年期



川 上 大 輪 選

黒石市 石 澤 はる子

遺影にお茶今朝は小言もなく微笑う

棄てられぬサイズの合わぬシャレた服

良いことを数えなさいと欠けた月

ひとことに揺れてる脆い自尊心

八合目笑顔のスペア底をつく

ぬかるみを避けるマニユアルまだ探す

大洲市 花 岡 順 子

もう逢えぬかと七夕の空模様

まだ若いもう若くない崖っぷち

花模様から幾何学になった恋

言い訳をやめてすっきりしたお腹

殻を破ると蝶の舞う春だった

同居して百歳の母若くなる

大阪市 岡 田 恵 子

お日柄もよろしいようで接種する

一目惚れ八分音符が燥ぎだす

誤字脱字多くて愛が醒めてゆく

倦怠期隙間を埋める修飾語

ひからびた夢がゴロンと冷蔵庫

激辛のカレー独りでいく覚悟

貝塚市 吉 道 あかね

病んでから女の城は手抜きする

古稀過ぎてまだ初めてに出合う旅

やさしさをいっぱい知っている傷だ

失った場所から枝が伸びてくる

何もない日が大切な日々と知る

泣いて笑って二人いるからハーモニー

尼崎市 清 水 久美子

梅ジュースぐびぐび夏と四つに組む

食べるのが惜しい手塩に掛けた茄子

不機嫌な受話器が鬱を撒き散らす

今生の憂さを忘れてクイズ解く

フジコ・ヘミングのピアノを生で聴く愛猫

トラファンにでかい賞与のサヨナラ打

大阪府 奥野健一郎

平凡に生きてても果報たまにくる
抜け道を知れば元には戻れない
助けてと言えばすむのに瘦せ我慢
うぬぼれがあつて深追いしてしまふ
成るようにしか成らぬのにバカな夢
たて前を崩すとガード甘くなる

大阪府 森廣子

人間の不正を暴く土石流
豪雨干ばつまだA Iは手が出ない
聞きとうなかつた四波と言う言葉
駄目でした仕方ないねと汗を拭く
思い出の闇にふわりとホタル飛ぶ
今日も雨仏足跡の水溜まり

山口市 中前幸子

砂浜の伝説引き潮に残る
紙人形のつぶやきを聞く夜の底
残照に染まつて明日のビジョン描く
御破算にするには至すぎる影
神の鈴何度振つても響かない
女ひとり旅立つ夢の滑走路

尾道市 小川道子

ともすれば無い物ねだりするヒト科
口八丁いとも簡単そうに言う
偽物になりたくないという誇り

丸四角三角どれも個性的

正直な舌一枚で足りている
ああ言えばこう言う仲で睦まじい

伊丹市 延寿庵野鶴

だとしてもコロナが残る四コマ目
3密をいつも守って石になる
予告編なしで生きてるヒト科ヒト

ころねにはんまり染みる京ことば
足跡のマークに並ぶ年金日

梵鐘がこころを洗う遍路笠

西宮市 高橋千賀子

時々雲になりたい石地藏
カラフルにマニキュアされたかたつむり
雨女三人寄ればどしゃ降りに
見れば見る程味のあるブルの貌
人の世は四角三角丸である
やな上司マスクの下で舌を出す

松江市 中筋弘充

救急車のろのろだつていい復路
試着室の鏡お世辞ばかり言う
自由奔放楯円のような人が好き
円よりも融通性がある楯円
性善説を理解できないバラの棘
ダメでしよう運転中に眉を描く

大阪市 折田 あきこ

足腰の代わりに口が良く動く
もやもやを夫に吐き出し再起動
懸命に花を咲かせた草の意地
主語のない言葉がいつももう誤解
喧騒の祭の中で知る孤独

大阪市 阪井 恵子

味気ない活字で届くおめでとう
雨女雷連れて夏旅行
旅気分ガイドブックで終わる夏
外は雨弾まぬ会話重い息
家ごもり気がつけばもう蟬時雨

大阪市 中村 民子

間違いを認めて夫丸くなる
生きる知恵あれば人生変わった
何よりも今はワクチン済ませたい
補聴器で会話楽しむ老夫婦
どんとと話膨らむ長電話

泉津市 助川 和美

父惚ぶ父の形見の腕時計
君がくれた忠告今も胸にある
黄信号齢を忘れて走り出す
人影が無ければマスク外す道
こんなうちでも必要らしい声かかる

吹田市 西沢 司郎

そのうちに五輪株だというコロナ
リバウンド承知で五輪突っ走る
入れ替り財布で密になる論吉
三振をしても大谷なら許す
出ましたよ赤木ファイルは生きていた

高槻市 鳥居 宏

父の日に父の終章思い出す
汗だくで梅ジャムを煮る妻笑顔
亡き友と語る仮眠の夢の中
医療崩壊コロナに数歩負けている
ワクチンの軽い痛みが頼もしい

高槻市 三谷 白黒

いやなこと川柳にして吹きとばせ
子供等に長生きしてねと言われだし
おしっこが検尿なのに出てこない
父の日の孫の電話がプレゼント
用もなくナースコールを押す患者

豊中市 貝塚 正子

桃色の空気ふりまく女学生
空調が強い弱いで今日も揉め
お互いが空気のように無い刺激
何もなかった今日の頁は白いまま
ワクチンを打って口笛軽く出る

豊中市 齋藤 奈津子

願い事いっぱいあつて撓む笹
かる鴨移動道行く人も引き連れて
布マスク縫うのは飽きて買うことに
アベノマスク史上記念に置いてある
人怖じしない帽子マスクにサン格拉斯

豊中市 松田 蟻日路

ひまわりが虎視眈眈と夏を待つ
スクスクと育てひまわり夏はそこ
イップスカ脚が動かぬ菌科のドア
イノシシが防犯灯に浮かぶ町
花束が芳香剤を睨みつけ

寝屋川市 長尾 千賀

口当たり良すぎて嘘も癖となり
甘い記憶コンペイ糖の丸い棘
遠く泣く汽笛聴いてるマリア像
トロイメライ小雨の似合う異人館
紫陽花の青が流れる石畳

羽曳野市 黒木 ひとみ

雷鳴が轟き渡る初夏の宵
川の中じっと餌を待つ驚数羽
堀を越えノウゼンカズラ咲き乱れ
夕赤く何に酔ったか酔芙蓉
谷川にネオンの如く蛍の灯

大阪府 大浦 福子

無口だと言つてた妻は最初だけ
入籍を澄ませば女強くなり
不用品溢れる部屋の寝苦しさ
大好きなテニス奪った五十肩
慰めるつもり言葉さらに傷

大阪府 高木 道子

折り返し折り返し来る多事多難
張り付いて守宮に転た寝視かれる
郵便の湿りがつづく長い梅雨
水中花のままで老いてる七十路坂
汗拭いて拭いて空しい雑草を引く

神戸市 青木 公輔

恥じてなどない雑草笑つてる
乱調の愛ははしゃいだりしない
敗戦の夕焼け小焼け目に浮ぶ
助け合う隣人今日もお留守です
故郷の本音カバンにどっさりと

神戸市 米田 利恵子

釣れなくても良い今日の暇つぶすだけ
妻も暇らしいのかクッキーを焼く
東京に一年住んだ標準語
焼き芋を買いに行くのに引くアミダ
家ごもりイライラボタン踏まぬよう

神戸市 みぎわ はな

出会いサイト少女よ友は居ないのか

両の掌に収まる小さな頭蓋骨

頭蓋骨父似母似か良い形

数字にも弱い情に脆い脳

風に揺れ地に打ち伏すも折れぬ葦

明石市 瀬 島 流れ星

余命にもきつとまだあるワンチャンス

仲裁へ矛先が向き止む喧嘩

性善説幾度乗ったか尻拭い

顧客にはルール緩めて機嫌とる

人生にも一つおまけないかしら

尼崎市 宗 和 夫

巣籠りの話の種に髭伸ばす

この髭にあるはずも無し主義主張

問われればコロナ髭だと応えよう

マスクから食み出た髭のだからしなさ

伸びた髭落とし所が判らない

三田市 稲 角 優 子

ゆつたりと生きて野に咲く花でよい

悲しさも今は愛しきわが山河

蓋ずらし友の悩みをきいている

おもい嘘軽くながして友見舞う

萩の道しばし孤独を泳がせる

三田市 幸 田 厚 子

本文の余白に心隠してる

物要らぬ会いたい見たい触れたいの

ジオラマが昭和史語る暮れの街

下校時の夕立君と同じ軒

地平線夕日の湯舟独り占め

三田市 中 山 昭 美

飢え知らぬ子のダイエット麦ごはん

アイスクリン夏の思い出耳にある

まあいいか私の丈はこの辺り

コンビニの明りはいらぬ蛍の地

大災を画面で見てる気の咎め

三田市 森 玲 子

コロナ禍で友と会えずに長電話

ワクチンを打って少しは気も楽に

孫の顔ニタニタきつと何かある

幸運にも良き知らせあり頼つねる

無くした指輪畑で眠り一年後

宝塚市 太 田 としお

お金より大事なものが増えてくる

老人にも夢があります安楽死

肥えましたきつとコロナの所為です

ね お金では解決できぬことが増え

神さまですねありがたい縁つらい縁

丹波篠山市 藤井美智子

よく無事に生まれてくれた初ひ孫
久々の赤ちゃん肌に触れる幸

ガラケーがなくなると言う老いじめ

横文字と新語の世間へ白い旗

デジタルについて行けるか老い暮らし

丹波篠山市 横溝安子

待ちこがれワクチン接種やつと済み

コロナさえなければ旅に出る季節

曾孫抱き密になるよと叱られる

ゲリラ雨電話の音が聞きとれぬ

わいわいと話し上手に聞き上手

三木市 山口ヨシエ

包丁のリズムいのちを満たす音

足腰の屈伸をする庭仕事

くるくると整理しながら捨てる過去

二メートル離れ人情薄くなる

夕焼けに今日の答えは吉とする

奈良市 東定生

生ゴミで家の格付けするカラス

ボスターと似ても似つかぬ生の顔

下手でいい飾り気のないそこがいい

不満がち不安に変わる潮目時

大物に見られてますが鈍いだけ

生駒市 饗庭風鈴

敗戦の焼跡に立った母二十歳

ねむの花母のしあわせふしあわせ

引力がひきとめる愛引き離す

人住まぬ庭に紫陽花こぼれ咲く

時の流れは時限爆弾ドッカン

和歌山市 定松宏枝

便利さを買った家電が使えない

白髪も案外似合う派手な服

コロナ禍にのつぺらぼうの日が増える

幸せのヒント自分の傍にある

家中を捜すと仕事たんとある

和歌山市 西川千鶴

帳尻を合わせるだけはお手の物

手土産は零れるようなこの笑顔

ダイエツト君には既に死語である

ザギトワのような顔してアマリリス

ミルキーウェイ今宵は屋根で眠りたい

和歌山市 福島一雄

歳よりも若いと言われ歳を知る

八十路すぎジジババともにフィットネス

食べる寝る排泄までがバロメーター

戦中派海という字に涙出る

ポーナスは出たが袋が軽すぎる

鳥取市 吾郷天遊

境港市 藤原久直

いたずらも恋も時効のクラス会
割り算の余りにしがみつく余生
返せない恩がたまってくる八十路
短編で一話限りの片思い
痛点到ボトリと落ちてくる苦言

鳥取市 大前安子

脳活へ三食レシビ野菜から
曲がり角きつとあなたが待っている
急ぎ足後期ですよと風の声
鎧捨てなんと柔らか声になる
かくれんぼもうわたくしを出しましょう

鳥取市 山野すみれ

欲望の淵歩く今日もあしたも
いつも履くつつも好きな靴に穴
雨の日はルンルン歩くカタツムリ
点一つ打つか打たぬで迷う文字
叶っても叶わなくても夢は見る

倉吉市 若松由紀子

古い独り梅もラッキョも漬けて夏
皺しわの老いの腕にも蚊が止まる
くやしさを胸に包んで持ち帰る
出来もせぬ夢追いかけて八十路まで
コロナ禍に眉だけ書いてあとマスク

健康の秘訣やっぱり塩加減
胃カメラを飲んで発見ピロリ菌
コンビニでたまに時まで買っている
日に幾度笑いを捨てにガスをぬく
満州へ思い出探し海渡る

米子市 川本美津子

年老いて今日も明日も大事な日
水着には自信がなくて砂遊び
夏雲に想像してる亡母の顔
使い道決めてから買う宝くじ
猛暑日は金魚に嫉妬 昼寝する

鳥取県 下田茂登子

夜が来る寝るしか用が見えて来ぬ
朝が来た生きてることにありがとう
情けない立つも座るも出来ぬ体
他人様の言ってることはどうでもいい
食べるほど体力なくて情けない

鳥取県 田中重忠

自肅中庭でホタルが舞っている
財布の中いつも警笛鳴っている
女房の面影うかべ粥する
九十五歳釣りする腕はまだ確か
背が曲る働きすぎた罰ですか

安来市 原 德利

顎髭を伸ばす男の弥縫策

ミステイク引き摺る鎖もう三日

午後三時トトロ奏でる掛け時計

マスク慣れマスク外すと泣く子供

できた句の下五に掛ける辛子味噌

瀬戸内市 宮 宅 比佐恵

生きるってぐちも痛みも容赦なく

しんどいと言いつつ影もついてくる

自肅して丸い心も三角に

あじさいに心遊ばせ一休み

生真面目な女で橋が渡れない

美作市 岡 本 余 光

大まかに余生描いて急がない

いい言葉メモして見ない備忘録

自販機でガソリンよりも高い水

捨てるもの決めたら覚悟躊躇せず

写真から処分断捨離事始め

広島市 常 國 喜 好

恍惚の一步手前が丁度よい

ああ自由ライブしているキリギリス

自助共助限界線が見えてきた

あの人があると空気が和みだす

平凡を生きて味濃いいのち

広島市 松 尾 信 彦

憶測を重ねてみれば真実味

駄目なこと逆手に取って誉める母

そのうちに介護待ってる歩かねば

辻褄を合わせたつもり茨道

カジュアルでホントの自分浮きあがる

竹原市 若 年 幸 子

幸せはご近所さんの温かさ

緑陰の深さ私を染めあげる

ワクチンを済ませ久々紅を引く

老いの知恵文句の後にゴメンネと

一七四ミリ断りもなく床下へ

竹原市 土 井 輝 恵

小説が教えてくれる人生訓

人的災害後から解るお役所の

百人不起訴何とこの世の不公平

無観客五輪の意義を考える

三十年母の代りをした婆で

府中市 岸 田 武

初対面マスクを取ってくださった

梅雨晴れ間家族の傘を干している

遠吠えをしてみたくなる月の夜だ

も一人の僕よゆっくりついて来い

お手本になる歩みにはほど遠い

山口市 兼崎 徳子

血管をあなたのハートにつなぎたい

過ぎし日を紫蘭と語る庭散歩

福耳の様な大きなイヤリング

会話せぬ日が増えていくセルフレジ

ドキドキをバッグに詰めて初デート

松山市 郷田 みや

お願いをひとつ減らして笹飾り

すつきりとするはずでした筒条書

選ぶならしつかり揺れてからにする

見つめられニヤリその気になりました

首振って話聞いている扇風機

高知市 三谷 松太郎

他所の猫うちに来たので籠絡す

ハエトリグモ遠出の車に乗っていた

電子辞書たまに手抜きもやるんだね

ご老体なんだ君かい同級生

したり顔何かいいことあったでしょ

唐津市 前田 廣幸

国民と認めてくれた接種票

贅沢な悩みと友を突き放す

お茶の間の笑うサブリで充電す

断捨離へうしろ髪引くストーリー

意に反し駆足で来る支払日

佐賀県 真島 久美子

玉虫は玉虫色を誇らない

人文字の一部は人でないらしい

紙粘土むぎゅっと夏は変形す

利き手ではない方で摘むクレマチス

素通りの夏です浴衣干しただけ

宮崎県 恵利 菊江

テレビだけ話続ける台所

しがみつく劣等感に喘ぐ夜

御披露目に声だけ聴かすホトトギス

移り気をアジサイの花色で出す

過保護から枯らしてしまふ植木鉢

宮崎県 黒木 栄子

泣きたくばおいでおいでと母の胸

追い抜くも一緒信号赤になる

墓磨く思い出話かたりつつ

熱々の芋に猫舌ハヒフヘホ

メガネ拭く涙を隠すように拭く

弘前市 小山内 真由美

ねぶた無し津軽の夏はまだ静か

紫陽花がのんびり咲いて平和です

ひとまずほっ やつと来た来た予約券

平凡は私にきつと似合っている

確実に未曾有が増えた温暖化

青森県 月波与生

正論を言うのだいたい勇み足
もうあなた以外はマスク顔でいい
欲しいけどいらないうというレジ袋
まあまあのカタチで六十になった
人生のこれからアミダクジ作る

東京都 高岡弥生

子育ての楽しい日々は思い出に
同級生ワクチン打った予約した
控えめな妻がいいのは日本だけ
雷でおへそ確認する子ども
最後まで長い友達白髪染め

横浜市 長島亜希子

ワクチン接種ちよつと冒険してみよか
感謝の言葉増えた夫が気にかかる
終点です起こしてやろかほつとこか
水蓮に見入り歩数が増やせない
九十三歳聖火のための八千歩

富士見市 中島通則

揺れている命か金かやじろべえ
テレワーク脇にうっかり缶ビール
遣伝子は嘘をつかない蛙の子
自由さに縛られている自由人
可能性一つずつ消え老いている

岐阜県 喜多村正儀

ふる里の味はどこにもないサブプリ
似顔絵の眼差しにある母の慈悲
大好きと分かる頭の傾斜角
年輪のところどころにあるへこみ
形見分け済んで思い出ちりぢりに

浜松市 中田尚

年金はマイナス米代はプラス
米を研ぐ今日のいのちと向き合つて
土砂崩れたつた一度の人生が
もう少し生きようワクチン接種して
予定では百年先も生きている

名古屋 富田末男

傘立てが今日のドラマを知っていた
信号が変わりドラマになってくる
言訳を叩くと弱さ見えてくる
有頂天そこに我慢の跡がない
本心を見抜く経験出してみる

豊橋市 西郷紀美代

花束を待つが届かぬ記念の日
また茄子が野菜嫌いの不満顔
5歳児にケンカやめと叱られる
野良仕事終えて落ち着く棒アイス
言い方で損をします嫁姑

大阪市 東 敏 郎

神様にブレッシャーかけるお賽銭

御辞儀して信号渡る奈良の鹿

黄信号都会の犬は渡り切る

目出度いが鯛にとっては大厄日

大阪市 今 村 和 男

茅葺の屋根は静かに雨を受け

方言の頑固に主張鼻濁音

この人生迷いはないと思うけど

外階段カナブン一つ転がって

大阪市 大 沢 のり子

雨の午後付箋貼りかえ読み返す

友人はケチつける人除外する

ミゼットが映ると夫はしゃぎだす

まだまだまだ終活なんてするものか

大阪市 尾 崎 文 子

骨のない魚を食べて意見なく

子の声がネットできこえほつとする

赤木ファイル妻の愛は負けてない

医者帰りホットコーヒー独り飲み

大阪市 近 藤 風 羅

稲光追い立てられて走る街

厨房に入らぬ男子用はなし

なるようにでなつたためしありますか

せきをしてあたり見渡す電車内

大阪市 阪 本 秀 子

オリバラは殊更なつを熱くする

今どこでどうしているかあの背中

水際を変異ウィルスかいぐぐる

仏前の祈りが今日をかるくする

大阪市 中 村 峰 子

古稀すぎた関係全てリセットか

気にしないこれからずつと自分軸

テリツヤが年を重ねて増してきた

要らぬもの助言説教おせっかい

大阪市 降 幡 弘 美

アレアレで話通じるオバちゃんら

ケンカはね感情的になれば負け

ハートつきラインですぐにホレてまう

ジイちゃんにスマホ教える七歳児

大阪市 前 川 善 之

人間は知恵と努力の二刀流

原発の恐さ忘れる再稼働

ワクチンは自分の為と人の為

ワクチンで希望の光見えて来た

大阪市 松 田 聰

コロナ禍にワクチン頼る菅総理

政治屋の悪さかげんにただ呆れ

いかづちの音に起こされ夜中の茶

こんな時期国会休み気楽過ぎ

大阪市 宮 本 千恵子

交野市 山 野 双 葉

ゴミ出し日カラスと競う知恵比べ
ワクチンの話題が弾むご近所さん
やっぱりな上昇してた血糖値
コロナでも梅干し作り欠かせない

堺市 古 川 光 雄

自肅馴れ家ですとしています
朝昼晩竹の子ごはんに溺れてる
勇気はある思い切りがないだけだ
立ち飲みも座り飲みもないコロナ居て

池田市 上 山 堅 坊

辛さなど知らない軽い恋がいい
些細なこと軽く白旗振っておく
人並みに医者に通える有難さ
老い独りああ伸びやかに生きようぞ

池田市 倉 本 一 弥

ルーティーン型から入るこだわり屋
娘の名かな文字にした優しなれ
あほちゃうの君に言われりや笑顔出る
コーヒープレイクあなたを想う朝十時

泉佐野市 樫 葉 良 子

目で合図そろそろこの場抜けましょか
喉に骨刺さったように出ぬ言葉
内心は嫁と料理競ってる
老い二人心も家もすきま風

分かつてるでも騙されていてあげる
主人亡き寢床の下にサロンパス
もぎたてのトマト供えて月命日
かいらしかひとだったねと骨納め

河内長野市 穂 口 正 子

手の染みが語る女のあれやこれ
老眼鏡替えて見えるぞ文庫本
マスク取りつくづく見入る老い模様
おばあさんになった私も魅力的

四條畷市 西 川 ひろし

八十路の日構えてみたが普通の日
朝ドラで天気予報を学んでる
ワクチンを2回打ったと言いまくり
無言だが五輪実施は言う首相

吹田市 岩 口 のぞみ

梅雨明けは望むがその後うだる夏
無観客画面の奥で大声援
ワクチンが済めば宴会できますか
仕事ジムビール飲みつつ寝落ちする

寝屋川市 川 本 信 子

接種後もマスク外せぬ変異株
図書館に睡魔出没午後三時
晴れの日は心ピョンピョン弾んでる
独り居の味を覚えて老い楽し

寝屋川市 坂本 ミヨノ

父の日に息子の便りパパ泣ける
金魚掬い友に勝ったと子がさけぶ
かき氷夫婦仲良く又もめて
梅干の香るおいしさ茶漬け食べ

東大阪市

秀 爷

弟がせせら笑ったわが投句
丸暗記スピーチばかりわが総理
健康でいてこそやれる川柳よ
いつからか人は言葉を忘れたか

八尾市 田邊 浩三

素晴らしい瞳だけだと何故綺麗
三密が無ければ腹の虫鳴かぬ
別人かマスク外した子の写真
退院日さて折り鶴はどうするか

神戸市 青山 ひろし

うわばみのランクが知れた家飲みで
予定表コロナ次第の附記ばかり
ネオン消え行先探す蝶も蛾も
花束は退職以来縁が無い

神戸市 石川 克美

何もせず毎日過ぎてゆく感じ
ゆつたりと泰山木の白い花
お相手はまだ見つからないのホーホケキョ
ザアザアと降る雨音に気もそぞろ

神戸市 興水 弘

初孫の万灯の笑みスマホ揺れ
立ち枯れの我慢の草木のびるつた
口角に泡りモートですよ茶を飲む
巣ごもりでボヤキ袋はリサイクル

神戸市 櫻井 崇史

暑くなる蟬の初鳴き響いてる
レシビないあの塩加減舌に訊く
かき氷今年もやはり抹茶から
雨雲リーダー片手に持って散歩する

神戸市 田本 古鈴

どしゃ降りの雨がコロナを流すなら
大声で笑い合ったはもう昔
マスクとは便利なものよ化粧せず
古稀祝い回してみたい走馬灯

芦屋市 荒牧 孝子

寝て食べて体重計に乗る怖さ
コロナに負けず爪は元気に伸びてます
白内障ボールが消えた白い空
嫌な癖同じ血流れ苦笑い

芦屋市 新阜 義明

笑点が一週間の分岐点
家族葬安価保険も一理あり
G7から菅さんの目がパチリ
アクセルとブレーキ記録逃げ場なし

伊丹市 岡村 風琴

マニユアルのない人生が面白い
富士下山膝がだんだん笑い出す
そういえば賞味期限がちっと切れ
涙腺が少しゆるんでよく笑う

伊丹市 平井 富夫

口下手は酔いが回ればカタカナ語
めくるめくいつまで続くマスク顔
批判され季節外れの味を出す
玉の汗弱みを突かれ言い訳を

三田市 生田 えい子

ポチとタマ愛情受けてちゃんも付く
お互いにかばい動かす車イス
指くつ下同じ所へ入りたがる
殺虫剤浴びたゴキブリ水を飲む

三田市 辻 開子

待合はマスクと病色色で
持病持つワクチン早く予約しよ
沢山のカード作って後悔だ
老いてきて早い目覚めのいらん事

三田市 馬場 貴美江

気のゆるみりベンジ怖れ接種する
接種終え笑顔の裏は副反応
巣ごもりで時間たっぷり呆け誘う
政治家の舌のスペアはいかほどに

丹波篠山市 澤 良子

あいさつは心の花がポツと咲く
すき間から覗く愛犬愛おしく
断捨離ができなくてあれいつ着るの
子供たち同じく手塩でも違う

西宮市 高瀬 照枝

あじさいの挿し木も出来て梅雨も良い
ほどほどに梅雨も大事でお静かに
雨上る庭の掃除に元氣出す
怪我もなく垣根の中を守る日日

西宮市 藤原 みよし

ベット来て部屋の空気がおいしいね
定番の三角にぎり我家風
一日に三度も搜すメモノート
梔子が匂の幅を独り占め

三田市 住吉 美和子

貧富の差はあれど同じに齢をとる
夫婦でもテレビの音は大と小
尻こそば嘘とわかっているお誉め
掃除機の音に合わせて愚痴つてる

神戸市 近藤 勝正

水害を恨むが雨に罪はない
梅雨明けて夜の冷気も連れて行く
白鵬は強いなどが悪かった
砂かぶり泣いた本場所無観客

宝塚市 岸 田 万 彩

やつと傘寿平均寿命に王手

父の日の花束母の日に勝った

気がつけば何かつぶやいている自分

ワクチンのために久々腕まくり

奈良市 尾 畑 なを江

古ビデオ三十三歳の我が姿

コーヒーは飲めぬがビール人並に

やりたいが諸事に時間が掛かりすぎ

元氣良く明日をめざして今日を生き

奈良市 仲 西 賛 郎

異常気象天気予報も読みづらい

地方選近隣候補騒がしい

接種済みどこか行きたい気分だが

タイガース首位が揺らいで気が抜けぬ

生駒市 児 玉 規 雄

故郷は子供相撲の地藏盆

土石流貫一お宮の海辺まで

夏バテの防止対策鰻鰻

店頭で叩かれ役の大西瓜

奈良県 室 田 行 久

改革案ほめて無視する古狸

そんなもの達観したかあきらめか

合唱で終える昭和の青春歌

裏世界良からぬ遊び脈々と

和歌山市 北 原 昭 枝

ながかった道程だけどもまだふたり

まだ少し苦勞足りぬと母の声

パンの耳苦勞話をなつかしむ

引いてみてよく見えてくる胸のうち

和歌山市 倉 橋 悦 子

客のない舞台で叫ぶアスリート

気休めに飲んだサブリが効いてきた

縁側に一升瓶とすすきの穂

人生を生きて退屈しないこと

和歌山市 佐 藤 ま き

温暖化もう待ったなし気が揉める

頼もしく頭の下がる救助隊

私は何も出来ずに祈るだけ

真剣にエコ生活をしなければ

和歌山市 鍋 嶋 澄 子

自粛どきインスタ覚えニューライフ

緑の香ドライブ風が身を洗う

曇天の薄日明日への希望かな

好奇心川柳のぞき十年が

和歌山市 まつもと もとこ

ゴキブリと目が合い頭脳戦になる

無邪気ってスゴい才能だと思う

疑問符を無視して決めていくルール

イイネだけ押してるわたし無責任

岩出市 村中悦男

五臓六腑くすぐつたいと言うビール
めばなも咲いたしばらく雨よ止んでくれ
自肅中この時ばかりと五七五
嫁の骨抱いてやってと墓に入れ

和歌山県 三枝 眞智子

女から女を盗む華の道
釣りに行く朝は目覚まし出番なし
エリートのコースは避けるハイヒール
栄光を欠番とするユニホーム

和歌山県 森下 よりこ

いつからかわが家に醬油さがさない
老いの身にマスク苦しい夏がくる
友達の絆もうすくなるコロナ
七月の声に茗荷が顔を出す

京都府 北野 クニオ

場の空気上手に読める名司会
ワクチンの入荷次第で接種止め
コロナ禍で娯楽観光ドン底へ
時計草陽差しがなくて花閉じる

八幡市 武田 悦寛

宅急便朝から届く酒2本
手を振って信号渡り人違い
守備範囲狭くなつてもするエラー
蟹さんが裸足で歩く夏の海

鳥取市 上山 一平

百ミリを超す豪雨にも上げぬ腰
雨の中長靴小さくお蔵入り
トマトの実雨が悪さし傷物に
一滴の雨が恋しい穂孕期

倉吉市 伊藤 嘉昭

まだ楽し炊事せんたく一人でも
冠水に犬猫たちもちちんでる
いねむりが目立った会合マスク顔
詐欺手口五億当たったメールくる

倉吉市 堀 かずこ

夏が来る暑さに弱い恐怖です
わたくしの若さ返して鏡見る
杖二本歩けるだけはうれしいよ
帰宅して水をキューツと生きかえる

倉吉市 宮田 風露

父の日のケーキ転んでべっしやんこ
豪雨とは電話のベルも聞こえない
洪水あとニヨキニヨキ草が立ち上がる
床下で水浴びしているダンゴ虫

境港市 中井 虎尾

梅雨去るに災害をおこすわるいくせ
切抜きを集めてじやまと捨てられる
ガースーは代理政治で自政なし
コロナ来てコロナ土産の五輪かも

米子市 妹 能 令位子

せかせかとするなど猫が膝に乗る
ただいまと声出し亡夫捜してゐる
一人漕ぐ舟も進路も揺れ止まぬ
外出の許可をくれない体温計

松江市 相 見 柳 歩

体重に重量税はかからない
あの世での幸せ望み今生きる
青白い顔して未来だけ語る
お迎えが来るまえ恩を返さなきゃ

松江市 山 根 邦 代

テレビから目がはなせない情報よ
優しさがかくれていますその言葉
会話からヒントをもらい夕食に
大あばれしないと梅雨もあがれない

出雲市 黒 目 ひでお

賽投げて苦勞続きの四十年
G7結束深め灯を灯す
バイデンの力も借りて春を待つ
終りのない世直し旅に終止符を

雲南市 永 見 安 子

よくばらずただ平穏を願う朝
上等の耳がときどき聞きもらし
おもいつきり安来節でも歌いたい
生きるなら痛い所をゼロにして

津山市 高 橋 由紀女

生き延びる枝を摘み取る花鉄
耳打ちのマスク外せぬ内緒言
テレワーク続き小言のレスポンス
ワイパーのフル回転に急かされる

広島市 田 桑 恵 子

誕生日テイクアウトで祝い膳
探り損ね一夜できゅうり肥満体
久しぶり孫はすすく見上げる背
夾竹桃焦土に咲いた希望の灯

尾道市 小 畑 宣 之

七回忌過ぎて忘れぬ恩人は
心地良い嘘も時には潤滑油
あと一年生きて平均寿命です
無理強いる男の意地は見苦しい

尾道市 村 上 和 子

すべて許して楽に生きよう八十路坂
忘れなきゃどんどん重くなる心
妻の留守寡黙になった台所
最大の敵はわたしの意気地無し

沖縄県 禰 毛モト

不揃いの指一本にブライド可
寄せ植の花それぞれを引き立てて
学生はサバ缶二個の昼飯に
戦場の御霊弔う涙雨

沖繩県 宮 すみれ

べったりと梅雨の湿気がからみつく
雷雲にいそぐ小股の小学児

しつぱりと雨の美音に嫉妬する
高声で青春してゐる初老さん

福岡県 本田 さくら

庭の隅植えもしないが花乱れ
古時計ゆるりゆるりとときざむ
学校田植えの何とにぎやかな
コロナ禍にもとせずに花は咲く

黒石市 北山 まみどり

子どもには負けるが親に勝っている
一日をだらりと過ごし妥協癖
うなずいていても納得できぬこと
数年で乏しくなった理解力

南アルプス市 小林 金剛

さようなら終の都に辿り着き
何処までも妻と居ようと決めている
川柳は真摯に生きる人生歌
しあわせの妻から貰うバラ一輪

白河市 鈴木 たけし

鉛筆を削ると匂う木の校舎
すつと立ち一斉に咲く彼岸花
座る気になれない椅子の×印
老いの菌に寄り添っている爪楊枝

横浜市 巖田 かず枝

惚ける前あの世の切符頼んどく
夢に出る言いたいことのあるらしい
コロナさんばちばちお引き取りなさい
男女共茶髪化粧で皆きれい

横浜市 加藤 佳子

向日葵が夏の日差しにスタンバイ
最高齢で今年もトライコンサート
日常を離れレディの顔になる
思うことあつて体幹整える

静岡市 渡辺 芳子

七夕や空襲の日は忘れられ
よく生きて来られた事に今感謝
押し車つえも一緒に辛多し
八畳間一人でくらす姫御殿

江南市 脇田 雅美

チャイム音待つ身になつて早く出る
土地もあり家もあるけど居場所ない
モンブランケーキ頂上目指し食べ
こっそりとエステ通いに妻のツヤ

豊橋市 小松 くみ子

おつき合い年金だけになるパンク
体によい聞けば飛びつく歳ですわね
古いナビ見えない道を走らせる
何もかも可愛ゆく見える山野草

(堀本のりひろさん、長島亜希子さん、中前幸子さんは41頁にあります)

英語 de Senryu⑪

麻生路郎句集『旅 人』

英訳 吉村 侑久代 Kim Horne

古希はよし 弟子に 孫弟子 ひまご弟子

*my seventieth birthday is bright
pupils, grand pupils, and great grand pupils
gather for the celebration*

親船を離れて きりきりと舞ひぬ

*a small fishing boat
floats up and down on the sea
leaving from father's ship*

seventieth birthday 70歳の誕生日 *bright* 輝いて *pupil* 弟子 *grand pupil* 孫弟子
great grand pupil ひまご弟子 *gather* あつまる *celebration* 会合 *fishing boat* 釣り船
float 揺れる *up and down* 上下に *leaving from* から離れて

〜リバーウィローのため息〜世界の詩歌⑤ 世界の詩歌：カルタで学びと遊び

わたしの子供時代は、「いろはかるた」や「百人一首」が学校でも家庭でも遊び道具として身近にありました。特に「百人一首」は好きな札をいくつか暗記して、必ず取ろうと心に決めていたものでした。英語教育の世界でも「俳句」「川柳」を英訳し、読み札に英語が書かれ、取り札には英語の一部と絵が描かれたものがあります。百人一首と同様な方法で遊びます。例えば、夏目漱石の英語俳句カルタでは、読み札の表に (*Pumpkins falling/ on their butts/ heavily like stones.*)、裏に (どつしりと尻を据えたる南瓜かな) が印刷され、取り札には (*Pumpkins*) と (南瓜) の絵が描かれています。読み手が英語で *Pumpkins falling* と読むとすぐに取り札に手が伸びるのが想像できます。(野菊一輪手帳の中に挟みけり) は、(*A wild chrysanthemum—/Between the pages/ Of my pocketbook.*) と訳されて読み札に入っています。百人一首方式は自然に日英両語で俳句や詩を学べるようになります。同じ方法でシェクスピアの劇中の台詞から取られたシェクスピアルカルタ (吉見あやこ作) があります。例えば、取り札に絵と (*That is the question.*)、そして読み札の表に (*To be, or not to be that is the question. Hamlet III.1*) が、裏には (生きるのか死を選ぶのかそれが問題だ: ハムレット) が印刷されています。大人も子供も楽しめるカルタは、詩や言葉を学びながら、取得数を競います。工夫次第で娯楽にも学習にもカルタは役立ちます。



シニアパワー（2）

団塊の世代は4年後に全員が後期高齢者（75歳以上）になり、我が国もいよいよ超高齢化社会に突入して行きます。

このような時世に肝心の高齢者が弱っているのはこの国の土台も揺るぎかねません。チンタラしている若者たちに「もっと元氣を出せ！」と逆にエールを送りたいものです。

バンダナをキュツキュツ再出発を誓う

川島 良子

若い氣がまだ燃えている麦藁帽

奥澤洋次郎

門を出た途端ウキウキ顔になる

矢倉 五月

大股で歩けるうちは大丈夫

大内 朝子

自転車でアンパン買いにまだ行ける

森下よりこ

歎持と「元氣ですね」と誉められる

藤田 悦子

「おじいちゃん！」脚立の上で叱られる

桑名 孝雄

コロナ禍の自粛鬱を晴らすためにも、たまにはバンダナでビシッと決めて、或いは麦藁帽子で身を守って外に出てみましょう。混雑するところを避ければ大丈夫です。

大股で闊歩できる、自転車でアンパンを買いに行ける、その当たり前のことが嬉しく思えるのは心身が充実している証。

畑仕事も庭の手入れも「私の仕事！」と思えばヤル氣が出てきますが、歳を考えて無理をしないのも肝心です。

言いたいこと言って血圧正常値

田賀八千代

思いいきり笑って老化遠くする

福井 菜摘

鮮度なら毎に負けぬ触れてみて

永見 心咲

食べる人あつて頑張るおさんどん
ちよつと徘徊大根が煮えるまで
星を見た御馳走食べたさあ寝よか
寝て起きて楽しいことをまた探す

倉益 一瑤
鎌田 京子
大島ともこ
辻内 次根

腹に一物を抱えていたり言いたいことを我慢していると血流や胃腸などに良くありません。言いたいことを吐き出して、朗らかに笑っていると疫病神も退散するでしょう。

食べてくれる人の顔を思い浮かべると食事の支度にも張りが出てきます。大根が煮えるまでご近所を「徘徊」するユーモアも余裕。美味しい食事を頂いたら後はグッスリ眠るだけ。明日はまた充実した楽しい一日が待っています。

呆け防止もつ折鶴が箱いっぱい

福島 弘子

髪染めて米寿の氣力まだ落ちず

山本 八葉

百までの予定を詰めて暦吊る

岩崎 公誠

年金日ステーク所望する白寿

能勢 利子

コロナ明け見越し頑張るスクワット

西出 楓菜

百歳の姉がしつかりせいと宣わく

宮崎シマ子

ひと休みするとまだまだパワー湧く

田中 重忠

最高に頭の体操になるのは「川柳」ですが、折鶴など指先を使うのも呆け防止になります。また、髪を染めたりお洒落を忘れないのもいつまでも氣持ちを若く保つ秘訣です。

何時までこの世で頑張れるのかは誰にも分かりませんが、一応は百歳までの予定を立てておきましょう。コロナ禍が終息するのもあと少し、そろそろ羽ばたく準備です。

シマ子さんは96歳、重忠さんは95歳。お二人とも元氣に句会に出席されています。喜寿や傘寿で負けてはおれません。

誹風柳多留二三篇研究 13

れ、思いとどまった。おかげで上杉家は安泰となった。

出過た杉へ釘をさすい、家老 九五二

御家老が悪ひと杉も枯ル所コ 五〇三〇

伊吹 賛。上杉家を杉の上と表現。

小栗 賛。天狗のことかと思わせる技巧。

101 釣かねをもちやそびにする雨やとり

細井 俄雨に遭って釣鐘堂へ走り込んだが、なかなか降り止まないのて退屈まぎれに、つい、軽く撞いてしまったりする。

伊吹 賛。ひまつぶし。

102 だいでこまり入ル鹿を鎌で切り

細井 大化元年（六四五）六月十二日のことだった。中大兄皇子と中臣（藤原）鎌足は事前に大和国多武の峰で謀議をしたとおり、大極殿で朝敵・蘇我入鹿を誅することができた。入鹿の「鹿」、鎌足の「鎌」のことは遊び。

年号の始メ鎌にて鹿を切り 四四二七甲

てふてきの鹿を忠義の鎌で切り 九一三六

翠簾近ク紅葉をちらす鹿退治 新二五二三

高野 「だいでこまり」「こまりいるか」江戸っ子の駄洒落では。

98 鳥おいをよこにひかせて申しれ

小栗 鳥追いは、女太夫を正月に呼ぶ称。編笠をかぶり手甲・日和下駄の姿で三味線・胡弓を弾き、正月向きの唄をうたつて錢を乞い歩く。平常は編笠ではなく菅笠を被る。非人の女房・娘などがこれをなす（「江」）。

正月風景。年礼に来た人が、三味線を弾いて門付けをしている鳥追いをちよつと横にどかせて、年賀の辞を述べている様子。

門礼にとりおひまけてひみて居ル 舊四一九
清 賛。

99 日の出より日の入迄に下戸の礼

小栗 年礼に出ると、上戸はあちこちの振る

舞い酒に引つかかって、途中でダウンしたり、なかなか一日中歩き回ることができない。そこへいくと、下戸はせいぜい雑煮を強いられる程度だから、日の出から日の入りまでびっちり廻るのである。もつとも、句の作者はそれを誉めているわけでもなさそうだが…。

上下で旅程あるく下戸の礼 安二二三

清 賛。むしろ小馬鹿にしているのだろう。

100 杉のうへからもすんでに出るところ

細井 出羽匠米沢城主（十五万石）上杉綱憲は吉良上野介義央の実子であるが、元禄十五年（一七〇二）十二月十四日の赤穂浪士の討入りがあって、実父の変を知り赴援しようとしたが、家老の千坂兵部と本庄近江に諫止さ

山田 賛。右の駄洒落はないでしょう。
清 賛。

103 大門へつけ人をしてこしをかけ

細井 吉原では、性悪の馴染客が無断で他の遊女の許へ通うのを知ると、遣手に指揮を頼んで、新造や禿に命じて、大門口で朝帰りを待伏せ、引つ捕らえたら茶屋の連判のあやまり証文を書かせ、その上、惣花の大散在をさせたり、鬘を切つて「ざんざり」にしたりの制裁を加えたりした。その待機中の様子で、腰をかけているのはおそらく遣手だろう。

ゆふへにきいて大門にあしたつけ

天二天1

めのわらハ大きな門ンにつけておき

一五3

大門であわれ端武者二生どられ

四一38

伊吹 賛。遣手ばかりでなく遊女も。

高野 遣手は行かないのではないか。女郎でしよう。

山田 禿や新造はともかく、遊女や遣り手が出向くとは考えにくいのですが、川柳では、
礎引（拾四24）の他に、

かんさしと巾着が出てはしられる 一六27
七文字へらして客を追かける 二四4

など類句が多くあり、伊吹説が妥当となるようです。

小栗 まだ来なんせんかとゑんへこしを懸

五3

仲の町おつこちさうにこしをかけ

拾七11

仲の町腰をかけてる待女郎 田草一29

などなどの句から、「腰をかけ」はてつきり「仲の町張り」の句と思つていた。「つけ人」は「告げ人」で、禿を大門で見張らせて、客が見つかったら遊女に知らせに来させる。

見へなんすならバ曹人りは先へ来や

安六正25

は、二人禿を行かせて、「一人は私に知らせに帰つて来るように。一人は客を案内して」ということだと思つていた。ところが、礎説

を見てビックリ、更に柳雨「吉原志」にも卯木「江戸砂子」にも、待伏せの句とあるのに二度ビックリした。これはカブトを脱ぐ外ないが、諸兄も論じておられるように、誰がどこに腰かけているのか。礎稿のいわれるように「朝帰り」を待伏せているとすると、そんな時刻に何時あらわれるかわからぬ相手を遊女や遣手が茶屋の縁台に腰かけて待つてゐる

とも思えないのだが……。待伏せは、暇な禿や新造を派遣して発見したら妓楼へ注進させるものと思つていたのだが、どなたか実態を

教えて下さい。

清 柳雨氏や卯木氏は待伏せの句としているが、小生は「腰を掛け」に緊迫感がなく、のんびりした風に感じられるので、小栗氏最初の七行説。但し「告げ人」かどうかは不明。実態もよくわからぬが……。

104 いくらともなくむこの出るこわい事

細井 丙午生まれの女性の句か。

ある家では罽入りがあつて暫くすると、その罽が半死半生の態で出て行くというのが繰り返し幾度も続いている。此所の家付きの娘は丙午に違いない。

丙午たね午に来るむこかなし

明元智4

高野 雨譚註「ろくろ首、ひのえ午」

山田 雨譚註通り、「ろくろ首か、ひのえ午でしよう。」

小栗 尻理屈でいえば、丙午は夫を食い殺すのであるから「罽が出る」ことはない筈だし、さりとて「ロクロ首」に驚いて罽が逃げ出す句も見あたらないので困つてしまふ。夜中に何か「こわい事」が起こるのだろう。

清 嫁の荒淫に恐れおののいて、という説は、余りに飛躍しすぎるか。

愛染帖

新家 完司選

(投句274名)

脱ぐだけでスターになれたのはむかし

宇部市 平田 実男

(評) 浜美枝がボンドガールで脚光を浴びたのは54年前のこと。裸体氾濫で食傷気味の今では肉体美だけではすぐに飽きられる。

Tシャツはもう卒業のシルエツト

鳥取県 齊尾くにこ

(評) パスト・ウエスト・ヒップのラインが明確に表れるTシャツ。去年頃までは自信があったが、そろそろ卒業する時期かも…。

親友と名を挙げられて気がついた

唐津市 仁部 四郎

(評) そう言われればいつの間にか無二の友になっていた。簡単にはそのように思って貰えない、どんな肩書よりも嬉しい「親友」。

朝の茶は施設といえどうまいなあ

大阪市 宮崎シマ子

(評) 朝のお茶を「うまいなあ」と味わえるのは健康の証。どのような環境にいても、その楽しみを末永く続けたいものである。

Amazonの鰐に食われる無駄遣い

笠岡市 藤井 智史

(評) 巨大IT企業GAFAの一つアマゾン。そのジャンглの奥には食欲な鰐がウヨウヨ。あの手この手で購買欲を刺激してくる。

たつぷりと小言を聞いて難聴に

大阪市 津村志華子

(評) 「くどくどとまた同じことを」と耳が拒否反応を起こしているのだ。「ミミ日曜」のジョークが通じる相手ならいいのだが…。

豚マンを頬張り開く歎異抄

神戸市 敏森 廣光

(評) 食欲と同時に知識欲も満たそうとするその意欲は買うが、「ご馳走さま」と手を洗って襟を正してから開くのがベター。

哲学は無いが真面目に生きている

美作市 岡本 余光

(評) 単純な真理を小難しい理屈で分析している哲学などに興味はないが、則を外さぬように天に恥じぬよう、真っ直ぐ生きている。

サラサラと清く正しい私の血

大阪市 折田あきこ

(評) 欲得や不正にまみれてドロドロしていない。まだまだ正邪の判断はできる。そのような健康な血肉をいつまでも保ちたい。

どこにある美人おかみの小料理屋

弘前市 高瀬 霜石

(評) 例えば、健康家の吉田類に「よくお召

し上がりですねえ」と微笑みかけるCMの女将。近くなら毎晩でも出かけるのだが…。

三田市 北野 哲男

百歳へ引き算したら九つに

三田市 福田 好文

百までも生きていけど金がない

尼崎市 宗 和夫

半夏生白寿を前に恩師逝く

和歌山県 森下よりこ

自転車へ派手な服着る八十歳

兵庫県 川本 信子

八十歳八十年もよく生きた

神戸市 奥澤洋次郎

八十で男日傘のデビューする

池田市 奥園 敏昭

祖母よりも祖父がお洒落な日傘さす

高槻市 初代 正彦

スリッパを脱いで階段上り下り

松江市 梅瀬みちを

もう大人黒いバナナの味を知る

大阪市 岡田 恵子

偽ダイヤ騙され続け五十年

三田市 堀 正和

徘徊じゃないぞと妻を連れ歩く

藤井寺市 鈴木いさお

妻は僕なしでもきつと生きたる

大阪市 高杉 千歩

サンングラスかけず一生終わります

松江市 石橋 芳山
曜日さえ忘れて生温いうどん

寝屋川市 長尾 千賀

人目避ける快感を知るませた恋

神戸市 山口 光久

家飲みも妻のお酌でクラブ並

佐賀県 真島久美子

幸せは中毒性があり怖い

三田市 谷口 修平

贅肉がついて骨身に沁みません

河内長野市 山岡富美子

スーパ―の列に外国語が増える

医者通いしてるが美容院も行く

米子市 成田 雨奇

テレビ切り自分に向かうウイスキー

よく嘔んで食べるんだぞと金魚に言う

大阪市 小野 雅美

果たし状まずは便箋選びから

水戸黄門きつと大人の話集

大阪市 今村 和男

傘の群れだあれも空を見ていない

変人と言われにつこりアーティスト

黒石市 北山まみどり

待ちぼうけするほど余力ないので

反射材だらけで認識ができぬ

河内長野市 森田 旅人

可愛いと自分騙して翔んでる

高い壁やる気起こせば突きあたる

榎原市 居谷真理子
わたくしもカメメも籠にいれちゃダメ

伊丹市 延寿庵野鶴
ボンゴレのアサリが染みる現在地

奈良市 大久保眞澄
悪知恵だけ残してしばひ知恵袋

唐津市 山口 高明
猫舌の上司へ熱い茶をいれる

西千市 黒田 茂代
悪筆を自認いつでも楷書体

大阪市 山本加お里
冷蔵庫いっぱい飢餓の子を思う

息子まで老眼鏡をかけはじめ

堺市 奥 時雄
食べ残しせぬよう高い方を買う

落着いてできる投句句会の選

広島市 羽城 裕子
ときめきを五分チンして恋になる

幸せのボタンは黄色押してみる

朝イチの膝ボン今日もいい日だな

男鹿市 伊藤のぶよし
懲悪は任せてくれと時代劇

大阪市 谷口 義
カラスがカアと鳴いてワクチンの接種

だんだんと幼稚になって老いていく

神戸市 松岡 正美
ポスト菅脱んで狐狸のせめぎ合い

一人だけ人民服の独裁者

堺市 村上 玄也
良い友が居て良い本を薦められ

高槻市 富田 保子
プライドの一部捨てたらゴミが減り

南あわじ市 萩原 狸月
和やかなお顔になれる貯蓄額

海南市 小谷 小雪
長寿へのメンテナンスを欠かさない

鳥取市 岸本 宏章
通販の八割引きが笑わせる

大阪市 横山 里子
家族葬パンフ貼ってる冷蔵庫

尼崎市 山田 耕治
牛井の小盛りが丁度よくなった

大阪市 大沢のり子
小雨降るばやいても蕎麦打っている

人見知りの薔薇だ素手になり手入れ

沖繩県 宮 すみれ
目がさめて夢の続きを映像化

三原市 鴨田 昭紀
極めれば広がるストライクゾーン

弘前市 小山内真由美
思考回路どんどん軽く天然化

羽曳野市 吉村久仁雄
古文書が読めて歴女の目がハート

地球十二支の神仲違い

沖繩県 禰 モモト

東大阪市 佐々木満作
パールな気分で路郎忘を偲ぶ

島取市 福西 茶子

句会の日ひと月振りの紅を引く

島取市 谷口回春子

久し振り6B持つて考える

防府市 坂本 加代

深読みをされ深い句になりすまし

大阪市 坂 裕之

再開の句会笑顔で会えるよう

堺市 澤井 敏治

五輪よりリアル句会を夢に見る

大阪市 平賀 国和

参加することに意義あり投句会

米子市 妹能令位子

選者とは波長が合わず没ばかり

津山市 高橋由紀女

句会後の頭を冷やす赤ワイン

尼崎市 清水久美子

綿棒で眉毛の白髪染めをする

島取市 前田 楓花

右側の眉を描いたら客が来た

宝塚市 岸田 万彩

久しぶり洗車任せる梅雨豪雨

岡山県 藤澤 照代

廃車決めいとおしく拭くこすり傷

大阪市 江島谷勝弘

他府県へ「なにわ」ナンバー行きにくい

貝塚市 吉道あかね
ない胸を張って歩くは難しい

奈良県 室田 行久

ばあちゃんも翔平聡太追っかける

岩国市 上村 夢香

追っかけはDVDでがまんする

松山市 栗田 忠士

まだ元氣昭和生まれの扇風機

岡山市 大石 洋子

カビはえるハイヒールまだとつてある

土佐清水市 辻内 次根

寂しそう量販店にあるテレビ

黒石市 石澤はる子

スーパーへ片道5分今日の旅

今治市 永井 松柏

政治からブンブン臭う加齢臭

横浜市 川島 良子

特別な日ではないけどお赤飯

神戸市 近藤 勝正

うちの庭花よりトマト茄子きゅうり

島取市 田賀八千代

土の機嫌いいのか旨いナスができ

寝屋川市 富山ルイ子

ミニトマト胡瓜脇芽に出来過ぎた

岡山市 丹下 凱夫

シヨンボリしている雨曜日のカラス

吹田市 西沢 司郎

眼が合ってカラスの群れに睨まれる

松山市 柳田かおる
草刈機買ってトリセツ苦戦中

宮崎県 惠利 菊江

お互いからだ気遣う電話口

河内長野市 梶原 弘光

心してネジを締め合う老夫婦

豊中市 上出 修

悔しいが妻のかたちに染まりゆく

島取市 奥田 由美

天空の銀河に家族二つ三つ

寝屋川市 伊達 郁夫

ニュース見て出し入れしてる防災具

大阪市 森 廣子

シャキンと目覚めふらふらと二度寝する

大阪市 阪井 恵子

セピア色のあなたやつぱり好きでした

八幡市 武田 悦寛

糸たらしブランコ遊びクモの子ら

堺市 内藤 憲彦

キムタクも値段に入っているマクド

生駒市 飛永ふりこ

ステーキの柔らかさから出るやる気

島取市 山下 凱柳

人生を右往左往し生きて喜寿

岡山県 高岡 茂子

失ったもの多いが命残ってた

松山市 郷田 みや

フルスイング空振りなんて気にしない

大阪市 津守 柳伸

晴れやかな笑顔ワクチン2回済み

神戸市 能勢 利子

マスク取り食べまたマスクしてしゃべる

接種2回そろそろ街へ出てみるか

高槻市 片山かずお

通せん坊笑顔忘れているマスク

岡山県 田中 恵

ワクチンを打って余裕を取り戻す

横浜 加藤 佳子

マスク好き上手く騙してくれるから

高槻市 原 洋志

ワクチンを打った打ったと同年

府中市 岸田 武

気がつけばマスクの中で口ポカン

大阪市 笠嶋 恵美

天皇も接種したから打つと言う

堺市 今井万紗子

コロナ鬱激辛食べて吹っ飛ばす

倉吉市 大羽 雄大

得意げに二度目終えたと来たスマホ

塩竈市 木田比呂朗

コロナ禍の刺激の一つ会の役

大山市 金子美千代

ご近所で「ワクチンすんだ」の合言葉

丹波篠山市 長谷川善輔

自粛してうんと進んだ惚け具合

池田市 上山 堅坊

無事にワクチン接種したけどまだマスク

東大阪市 北村 賢子

あいうえお唇体操する自粛

大阪市 大川 桃花

ワクチン接種受けて断捨離先延ばし

豊中市 齋藤奈津子

ナンプレにはまり自粛も苦にならぬ

大洲市 花岡 順子

接種終え柔らかなる骨の芯

三木市 山口ヨシエ

外出着袖通さずに衣替え

八王子市 川名 洋子

ワクチンを万能薬と思ひ込む

横浜 菊地 政勝

三密を犯して帰宅落ち着かず

西宮市 福田 正彦

接種記録残り記憶早やおぼろ

豊中市 松田蟻日路

ワクチンが済んでも来ない呑む話

米子市 竹村紀の治

ワクチン済みマスクそろそろ夏仕立て

香芝市 山下 純子

黙食で無言の酒は身に悪い

大阪市 岩崎 公誠

猛暑日のマスクにほしい保冷剤

箕面市 中山 春代

縄のれんぐりほっこり久しぶり

枚方市 谷 英也

大阪市 宇都満知子

嬉しい日どっぷり浸かりますお酒

酒二合までは善人保てます

三田市 野口真桜子

雨続く焼酎飲んで微予防

三田市 村田 博

程々がステキ雨も日本酒も

浜松市 中田 尚

女一人何があつたか絡む酒

江南市 脇田 雅美

身に覚えないと昨日の酒が言う

大阪市 平井美智子

亡き友は夢の中でも飲み助で

高槻市 松岡 篤

酒飲めぬ血統崩すはぐれ者

鳥取市 副井ゆたか

紙コップの中で揉めてる遺産分け

明石市 糀谷 和郎

炊き出しの鍋は大きいほどが良い

米子市 後藤美恵子

詐欺被害魚に及ぶ疑似撒き餌

唐津市 前田 廣幸

間違えて乗ることは無い救急車

鳥取県 竹信 照彦

ガタビシヤンガタガタクン日本丸

尾道市 村上 和子

虎の威を借りていないかタイガース

神戸市 上田 和宏

共選欄

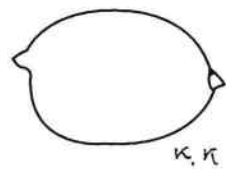
檸檬

檸檬

抄

(薫風書、カットとも)

(投句352名)



「漂 う」 乗原道夫選

うなぎの香漂う店を通り過ぎ
ほっとした空気漂うデイ仲間
ひとり酒しみじみ独り雨やまず
菜の花の海に漂う母の舟
各論になると漂う不協和音
漂っても薬に縋ったことはない
ゆらゆらと海月を真似ている暮らし
水面下妖気漂う蓮の華
御浄土へ漂って行く花筏
青い海どこかで会える信じてる
窓際に漂っている梅雨の鬱
スマホオフふわりふわりと漂って
触れないでクラゲになった熱帯夜
私をしばし漂わせよ地球

島取市	永原 昌鼓	堺市	源田八千代	箕面市	酒井 紀華	島根県	伊藤 寿美	堺市	村上 玄也	堺市	柿花 和夫	貝塚市	吉道あかね	大阪府	阪井 恵子	伊丹市	岡村 風琴	枚方市	栃尾 奏子	岡山県	田中 恵	島取市	倉益 一瑤	和歌山市	まつもととこ	豊中市	きとうこみつ
-----	-------	----	-------	-----	-------	-----	-------	----	-------	----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	-------	------	--------	-----	--------

「漂 う」 久保田千代選

ふるさとは遠くにありてなお遠し
郷愁の梅花藻揺らぐあの小川
白檀の亡母の扇子の蟬しぐれ
身を任せ未練を切った花筏
焼け跡の路地に漂う人情味
巢ごもりを終えて歩幅が定まらず
ウイルスに世界征服などさせぬ
コロナ波に世界が揺らぐ五つの輪
ストレスが漂っている自粛部屋
不気味さが漂うコロナ変異株
漂流の果てに我が家が一番と
海岸のペットボトルの多国籍
ブラゴミが漂う神聖な海に
無力感漂っている無投票

弘前市	高瀬 漱石	和歌山市	佐藤 まき	西宮市	福島 弘子	岡山市	工藤千代子	堺市	澤井 敏治	塩竈市	木田比呂朗	鳥取市	福西 茶子	芦屋市	竹山千賀子	寝屋川市	伊達 郁夫	羽曳野市	藤原 大子	奈良県	室田 行久	土佐清水市	辻内 次根	大阪市	川端 一步	松江市	中筋 弘充
-----	-------	------	-------	-----	-------	-----	-------	----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	------	-------	-----	-------	-------	-------	-----	-------	-----	-------

海岸のベットボトルの多国籍
 漂着のプラスチックに罪はない
 コロナ施策民は漂うばかりなり
 どこへ行く舵をなくした海賊船
 コロナ禍で敏感になる風の向き
 漂うばかり何も出来ない一人者
 沈黙が漂う二人という孤独
 限りある命の中で漂うて
 行雲流水老いには老いの過ごし方
 浮き草が漂いながら生きのびる
 風船のいのちをのばす春の風
 蒲焼の漂う列について並ぶ
 逆らえぬ空気漂う会議室
 下巻から漂う犯人の気配
 飛行機雲は一つと未練漂わせ
 漂う海月住むべき場所を心得る
 漂いて月の光が海を越え
 香水がいつも変わらぬ人である
 漂って挑戦続くエンドレス
 漂っておこう誤解のとけるまで
 漂って自由になった現在地
 正論が漂うしがらみの樹海

土佐清水市	辻内 次根
大阪市	田中ゆみ子
米子市	後藤美恵子
倉吉市	牧野 芳光
尼崎市	清水久美子
鳥取県	下田茂登子
横浜市	川島 良子
大阪市	横山 里子
西予市	黒田 茂代
和歌山市	北原 昭枝
橋本市	石田 隆彦
和歌山市	定松 宏枝
尼崎市	近兼 敦子
明石市	梶谷 和郎
池田市	上山 堅坊
鳥取県	池澤 大鯨
大阪市	大治 重信
鳥取市	岸本 孝子
生駒市	飛永ふりこ
大阪市	立蔵 信子
岡山市	工藤千代子
三原市	笹重 耕三

無党派に媚びて漂う主義主張
 亡母の味漂う路地の赤のれん
 エスプレッソほのかに今日が起きてくる
 地場産の香り漂う道の駅
 木の芽の香漂う妻の若竹煮
 惑わした月下美人の下心
 加齢臭をシャネル5番に包み込む
 潮の香が誘ってくれる散歩道
 風船のいのちをのばす春の風
 鈍色のジャズだ出会いもサヨナラも
 全没の気配漂い貝になる
 涙目に漂う無念肩落とす
 ただならぬ空気思わず息をのむ
 幕仕舞い漂いよぎる千の風
 子に残す伏せ字だらけの漂流記
 はつきりとすれば傷つく人がある
 ちっぽけな悩みに水平線ゆらり
 彷徨うてわたしを晒す月の影
 漂うポーズで括られているブイ
 薔薇の香の漂う風呂に鬱が飛ぶ
 あの香り未練が糸を引いてくる
 ヒーローの気配漂う「ショータイム」

札幌市	小沢 淳
枚方市	藤田 武人
大東市	小川賀世子
寝屋川市	川本 信子
富田林市	山野 寿之
沖縄県	宮 すみれ
尼崎市	清水久美子
鳥取市	岸本 宏章
橋本市	石田 隆彦
枚方市	栃尾 奏子
明石市	瀬島流れ星
吹田市	西沢 司郎
堺市	村上 玄也
大阪市	岩崎 玲子
岐阜県	喜多村正儀
宝塚市	太田としお
松山市	柳田かおる
三木市	山口ヨシエ
堺市	奥 時雄
米子市	後藤美恵子
横浜市	川島 良子
鳥取市	谷口回春子

付度が漂う部下へ咳ひとつ
 馴染めないネット漂うキスマーク
 クラゲ館漂うている珍奇
 シャッター街哀愁帯びるピアノ曲
 あせるなとポツカリ漂う昼の月
 夫の背に老い漂いて遊園地
 漂っていたのは狭い水たまり
 ちっばけな悩みに水平線ゆらり
 浮き雲に乗って沈むか漂うか
 行きよりも不穏漂う帰り道
 幸福感漂う重みあるヒップ
 満ち引きの河口あたりでぶつかぶか
 百合の香が漂う庭に梅を干す
 浴槽で今日一日を漂わす
 うつらうつら漂うている木魚の音
 戯歌を詠い此の世を浮遊中
 オカリナの音は土の香漂わす
 匂わないトイレ 匂ってくる疑惑
 子に残す伏せ字だらけの漂流記
 雨あがり漂う雲に目をみはる
 一匹残った金魚漂う友のよう
 不惑すぎ漂う方向見えてきた
 梵鐘の余韻竹林を彷徨えり

鳥取市	加藤 茶人
山口市	兼崎 徳子
京都市	都倉 求芽
豊中市	上出 修
高槻市	富田 保子
たつの市	江尻 房子
神戸市	富永 恭子
松山市	柳田かおる
鳥取県	竹信 照彦
奈良市	高橋 敬子
奈良市	大久保真澄
大田市	森 廣子
交野市	山野 双葉
川西市	山口 不動
西宮市	亀岡 哲子
大阪市	平井美智子
三田市	北野 哲男
弘前市	高瀬 霜石
岐阜県	喜多村正儀
大阪市	田中 廣子
堺市	矢倉 五月
唐津市	仁部 四郎
奈良県	中原比呂志

そこはかとなくオーラ漂う風格だ
 行間に漂う想い抱きしめる
 托鉢で名歌残した山頭火
 消えて湧く空の雲なる山頭火
 下巻から漂う犯人の気配
 古書店の薄暗がりにある匂い
 凜とした空気漂うにじり口
 オカリナの音は土の香漂わす
 勇壮のようで軍歌にある悲壮
 愛されていたのねいつもと違う声
 梵鐘の余韻竹林を彷徨えり
 天平の空気を嗅ぎに法隆寺
 魂がふわり三途の川にある
 宇宙葬久遠に漂う星となる
 漂うてわんど暮らしの雑魚となり
 ふらり来てふらふらと逝くいのち抱く
 漂えば葦は孤独な月の舟
 漂う海月住むべき場所を心得る
 行雲流水老いには老いの過ごし方
 人間も舵がなければ浮遊する
 行く末は引くも寄せるも波次第
 愛を抱き漂っている修羅の海
 青春の彷徨あつて現在地

尾道市	小川 道子
奈良県	渡辺 富子
堺市	坂上 淳司
広島市	松尾 信彦
明石市	梶谷 和彦
河内長野市	中島 一彌
高槻市	島田千鶴子
三田市	北野 哲男
高槻市	初代 正彦
芦屋市	上野多恵子
奈良県	中原比呂志
三田市	村田 博
和歌山市	柏原 夕胡
札幌市	三浦 強一
寝屋川市	長尾 千賀
堺市	内藤 憲彦
青森県	月波 与生
鳥取市	池澤 大鯉
西予市	黒田 茂代
大阪市	平賀 国和
富田林市	中村 恵
八王子市	川名 洋子
男鹿市	伊藤のぶよし

潮の香が誘ってくれる散歩道
職安で漂う昼の月をみる

ノートパソコン持つ漂泊の詩人

コラムから漂うているエゴイスト

なんとなく百均文具見て廻る

雨の日は雨に漂い雨を聴く

天の川蜚一匹漂って

炎天に漂うだけの羽である

漂うているの溺れてはいません

漂流をしながら保つ自然体

漂うて見えなくなつて来たわたし

漂つて小さな楽しみ見つかった

漂つてゆつくり見ると横並び

タコ糸が絡まつたので宙ぶらりん

ゆつくりと待ちますゴンドラに乗つて

ノアの方舟いま産道を抜けました

吃水線を漂っている赤いバラ

消毒のにおい漂う花の下

秀句

大らかなO型だろ浮浪雲

常識にこだわり過ぎた漂流記

石の中にも漂うものが有るわ

鳥取市 岸本 宏章

阿南市 小畑 定弘

奈良市 米田 恭昌

和歌山市 上田 紀子

神戸市 櫻井 崇史

寝屋川市 廣田 和織

大阪市 今村 和男

佐賀県 真島久美子

神戸市 みぎわはな

三原市 鴨田 昭紀

三木市 山口ヨシエ

堺市 齋藤さくら

海南市 小谷 小雪

黒石市 北山まみどり

鳥取県 斉尾くにこ

青森県 月波 与生

松江市 藤井 寿代

東京都 川本真理子

安来市 原 徳利

東大阪市 西村 哲夫

鳥取市 吉田孔美子

検索のネットサーフィンは続く

ふわふわと浮かぶヒントが掴めない

ぶかぶかと浮いているのも楽じゃない

ゆつくりと待ちますゴンドラに乗って

漂つておこう誤解のとけるまで

漂つていようそのうち海に出る

ため息が深くて森を出られない

漂うてわたしの根性座らない

空想に漂う点滅の黄色

漂うているの溺れてはいません

羊水でタツノオトシゴだった頃

運命の河を漂いつつ浄土

浄土へと漂いながら歳をとる

戯歌を詠い此の世を浮遊中

仮の世の居場所求めている途中

幸福感漂う重みあるヒップ

微くさい男を晒す梅雨晴れ間

秀句

感懐が漂う記憶の森のなか

炎天に漂うだけの羽である

流木のあしたはきつと花が咲く

岡山市 永見 心咲

櫻原市 居谷真理子

三田市 上田ひとみ

鳥取県 斉尾くにこ

大阪市 立蔵 信子

長岡京市 山田 葉子

黒石市 北山まみどり

寝屋川市 森 茜

三原市 鴨田 昭紀

松江市 石橋 芳山

神戸市 みぎわはな

和歌山市 まつもとこ

香芝市 大内 朝子

豊中市 水野 黒兎

大阪市 平井美智子

大阪市 小野 雅美

奈良市 大久保真澄

神戸市 山崎 武彦

枚方市 藤村 亜成

佐賀県 真島久美子

安来市 原 徳利

「受ける」

鳴 田 昭 紀 選

(投句 241名)



先で情けを受ける老いの旅
受け継いだ梅もラッキョも農業も
小吉も分相応と受け止める
一枚の紙の重さを受けとめる
接待を受けた報いの落とし穴
儚げな彩の方から受け止める
痛いほどキャッチミットに君の愛
受け入れて笑顔に戻す第二章
花束を貰い御蔵箱になる
授かった定め受け継ぐ墓掃除
左から右へご意見受け流す
受け入れてむっつり顔で嫁にやる
厚意だけ受け取っておく差し出口
受け答え上手に出来てランドセル
知らぬ間に舌が受け継ぐ母の味
現実を受けとめ今日は発泡酒
孫の球ミットの芯で受け止める
真に受けたばかりに臍を囁んでいる
大爆笑させてなんばの大舞台
出世払いの恩まだ返せないままに

犬山市 関本かつ子
藤井寺市 太田扶美代
三田市 堀 正和
大阪市 平井美智子
堺市 村上 玄也
岡山市 永見 心咲
河内長野市 森田 旅人
横浜市 川島 良子
大阪市 田中ゆみ子
津山市 高橋由紀女
明石市 桃谷 和郎
尾道市 村上 和子
富山市 伴 よしお
豊中市 松尾美智代
羽曳野市 吉村久仁雄
大阪市 岡田 恵子
河内長野市 梶尾 弘光
岡山市 丹下 凱夫
大阪市 内田志津子
大阪府 米澤 俣子

受け流す大人の流儀身に付けて
挑戦を受ける覚悟でノーと言う
向日葵の負けず嫌いを享受する
中国はパンダ 日本は秋田犬
日々妻の豪速球を受け傘寿
真っ直ぐな人ほど受ける向い風
一本のバラ真に受けて上の空
幸せを受け止める皿準備する
アドバイス受けてハードル三つ上げ
真に受ける話を探すユーチューブ
夢にまで追っかけてくる受けた役
無防備な言葉に受ける向かい風

佳 句

受けて立つぶっつけ本番の老後
さり気ない気付かなかった愛だった
受け取った手紙友達でいましょう
受け流すことを覚えたミズスマシ
キャッチボール五歳の球にある重み
とりあえずポストは受けとめてくれた
まなざしの一つが致命傷だった

人 地 天 軸

防府市 坂本 加代
奈良県 渡辺 富子
大阪市 石田 孝純
弘前市 高瀬 霜石
豊中市 水野 黒兎
高槻市 富田 保子
広島市 羽城 裕子
笠岡市 藤井 智史
和歌山市 三枝真智子
宝塚市 丸山 孔一
奈良市 大久保眞澄
羽曳野市 藤原 大子
東京都 川本真理子
神戸市 みざわはな
豊中市 松田蟻日路
松山市 栗田 忠士
堺市 澤井 敏治
樺原市 居谷真理子
黒石市 北山まみどり
松江市 中筋 弘充

「ガード」

(投句 242名)

岸 本 孝 子 選



大切に双子のバンダガードされ
シルバーが守ってくれる通学路
カミさんのガードが堅い奇数月
詐欺防止録音しますこの電話
ガードマン制服脱げばお爺さん
贅肉が軋んだ骨をガードする
夫婦ゲンカ子等はガッチリ母ガード
陽焼け止めたつぶり夏をガードする
お金持ち固いガードで隙がない
通学路ガードレールが命綱
水際のガードすり抜け変異株
紅葉の手帰っちゃ嫌と通せんぼ
ワクチンを二度打ちやと安堵感
お互いをガードふたりでいる強み
子守した孫のガードで渡る青
オーラ持つ深紅の薔薇の強い棘
お互いにガードしあって老いの日々
ヨチヨチを見守るガード皆笑顔
失恋の度にガードが固くなる
闇市の面影消えたガード下

池田市 奥園 敏昭
神戸市 能勢 利子
松江市 中筋 弘充
海南市 小谷 小雪
三田市 北野 哲男
米子市 中原 章子
大阪市 磯島福貴子
羽曳野市 藤原 大子
河内長野市 黒岩 靖博
大阪市 宇都満知子
富土見市 中島 通則
鳥取市 谷口回春子
大阪府 大浦 福子
貝塚市 吉道あかね
鳥取市 福西 茶子
和歌山市 まつもとこ
鳥取県 山下 節子
豊橋市 西郷紀美代
明石市 瀬島流れ星
西宮市 福島 弘子

おねだりに爺の財布はノーガード
悲しいほどガードのゆるい国日本
箱入娘のガード潜ってくるスマホ
亡き父母にガードされてる喜寿の道
三十路半ばガードきつくてまだひとり
高架橋矛盾感じる歳になる
整然とガード五輪のおもてなし
9条は守らなければなりません
父さんを陰で支える母が居る
名人が着てる余裕というガード
にこやかな笑顔で作るバリケード
免許返納今日から付ける万歩計

佳 句

隙だらけだからあなたをほっとけぬ
相続の争い避ける遺言書
子を庇う傘が小さくなっていく
2メートル寄るな触るな声出すな
花東がガードレールのない道に

人

盲導犬ボディーガードの面構え

地

嫁がせて親のガードを折り畳む

天

ワクチンを二回打ったし旅プラン

軸

交番の灯りが街をガードする

南あわじ市 萩原 狸月
藤井寺市 太田扶美代
香南市 桑名 孝雄
津山市 高橋由紀女
豊中市 松尾美智代
土佐清水市 辻内 次根
三田市 尾崎 一子
大阪市 江島谷勝弘
唐津市 山口 高明
大阪市 古今堂蕉子
大阪市 平井美智子
弘前市 高瀬 霜石
神戸市 富永 恭子
可見市 板山まみ子
富田林市 中村 恵
奈良市 大久保眞澄
橿原市 居谷真理子
堺市 矢倉 五月
犬山市 関本かつ子
丹波篠山市 酒井 健二

初歩教室

題一 ボタン

高瀬 霜石

この原稿を書いているのは、7月上旬。

先日、第1回目のワクチンを打った。7月下旬には第2回目も打ち、8月いっぱい静かにしていれば、9月には依然のように動き回れるのかもしれない。でも僕は、今年いっぱい絶対に動かないと正月に誓いを立てたので、9月はなんとも不義理の月になってしまった。

9月25、26日。仙台・宮城野川柳社、雪石隆子主幹からのお誘いで、木本朱夏編集長との鼎談の企画があったのだ。大恩ある隆子さんのご指名に加え、敬愛する朱夏さんとの名誉の鼎談というのに――涙を飲んで断った。

ほしたら、9月19日に、岩手県北上市にある「日本現代詩歌文学館」で、「現代川柳の集い」が開催され、選者に小島蘭幸主幹も。そして、新家完司理事長の「第7回日本

現代詩歌文学館館長賞受賞記念講演」もあるというではないか。これには正直参った。

大恩ある完司さん。まともなら、すぐに駆けつけるところだ。しかも、開催地は隣の県。そんなこんなで、僕はもう、宮城にも、和歌山にも、鳥取にも足を向けては寝られない身になってしまったのだった。

前置きが長くなったついでに、編集部に一言。題がよくない。初歩教室には不向き。想が広がらないものさ。読めば分かりますよ。

①まずは、上と下を入れ替えてみよう。

(▼は原句。▽は参考句)

▼背のボタン誰に頼もう今夜から 双葉
色っぽくていいですなあ。でもこっちは。

▽今夜から誰に頼もう背のボタン

▼三つボタンタンスの奥で出番待つ 勝正

▽出番待つタンスの奥の三つボタン

②もっと適切な表現はないか。大袈裟にした
り、ドラマチックに仕立て変えたり、抽象
的な言葉をカットして、具体的な言葉を持
ってきたりして、読者の視覚効果を高める。
▼優しさに胸のボタンが外れそう 道子

▽優しさに胸のボタンが弾けそう

▼戦時中七つボタンにあこがれた 光雄

▼戦時中、少年たちはみんなこうだったはず。

▽軍国少年七つボタンに憧れた

▼食べ過ぎてボタンを外す罪悪感 のぞみ

▽バイキングボタンを外す罪悪感

▼ボタン一つ変えたら心華やいだ (豊) 良子

▽ボタン一つ換(替)えたらバツと華やいだ

▼いい夢をスイッチオンで床に入る 弘

これはこれで悪くはないが「床に入る」が固い。ここは「スイッチオン」をいかして。

▽スイッチオン明るい明日が待っている

▼印象が変わるボタンの幸不幸 裕子

下五の「幸不幸」。分からんではないが、もっとインパクトを付けたい。例えば、

▽印象が変わるボタンの赤・青・黄

▼少年の胸のボタンに昭和見る 一平

▽少年の胸のボタンが抱く昭和

▼降車ボタン押すサヨナラ言えぬまま 和夫

この句、とてもいい句なのだが、いかんせんリズムがねえ。僕はこっちの方がいいと思うが、和夫さんにはおおきなお世話か。

▽降車ボタン押したサヨナラ言えぬまま

▼胸ボタンあげたあの娘も今じゃ古希 蟻日路

▼第2ボタンあげたあの娘も今じゃ古希

▼指先を動かしボタンボケ防止 ひでお

▼ボタンつけ器用にできてまだ元氣 ひでお

▼どっちも中途半端かなあ(失礼)。なので、

こは、2句のいいとこ取りをして1句に。

▼ボタン付け器用にできてボケ防止

▼指すゆびが宇宙の窓を開かせる さくら

▼AIが回転イスで世界知る さくら

同じように、2句を1句に凝縮してみよう。

▼AIの指が宇宙の窓開ける

今度は、1句に詰め込み過ぎていたので、

逆に、1句を2句に分解?してみよう。

▼科学の進歩ボタン戦争阻止をする 風露

▼科学の進歩ボタン戦争阻止をする

▼鶴を折るボタン戦争阻止をする

▼既製服ボタン変えればイメチェンにくみ子

これはこれで、悪くはないけれど、例えば、

▼既製服のボタンを換(替)えてオリジナル

▼ボタン外しかっこつけてた過去の恥 のりひろ

▼ボタンを外しかっこつけてたほぐいた

▼断捨離で残るボタンを見詰めてる 睦子

断捨離とボタンの組み合わせは多かった。

▼断捨離で残ったボタン見詰めてる

▼どの指が原子爆弾落としたの 風鈴

一読、ドキッ。これで充分なのだが、でも、

ここまできたら、もう一押ししたい。

▼あの指が原子爆弾落としたの

▼人間もボタン一つで操られ 尚

この句はこれで1000点なのだが、人間と

いう大ざっぱなくくりよりもっと具体的に、

▼わたくしもボタン一つで操られ

(○は佳句、◎優秀句)

○怖いのは地震コロナに核ボタン 令位子

○家庭料をさばった報いボタン付け あぐら

○思い出のボタン一つに生かされる 眞智子

○ボタン緩めてあなたの愛を確かめる(甘)和子

○引き出しの第二ボタンにキユンとする 誓子

○ボタン鍋これを食べなきや冬越せぬ 義明

○結婚後気付くボタンの掛け違い 行久

○スイッチがたぐさんあつてうるたえる 千代

◎押したくてたまらないんだ赤ボタン 不二夫

川柳だから、これくらい破天荒でもいいん

じゃないかなあ。次の句もそう。

◎窮したら非常ボタンを押してみる 通則

こんな人、そうそういないだろうけども。

◎エレベーター非常ボタンの側に立つ(川)信子

今回、「掛け違うボタン」の句は、わんさ

かあったが、その中で最優秀句がこれ。

◎掛け違うボタンに明日が狂いだす 菊江

今月の卒業者は2人。まずは、たつの市の

江尻房子さん。房子さんは、きちんと定形を

守り、句に格調もある。ただ、その分、ちと

固いかなあ。これからの課題は、もうちよつ

と肩の力を抜いて、時には(3句に1句は)

ユーモア句にも挑戦をしてみても如何?

○引き出しに忘れさられた貝ボタン 房子

◎ボタン穴覗けば過ぎし夏の朝 房子

◎人生を飾りボタンで終えた母 房子

もう一人は、広島市の有田澄子さん。いつ

も言ってるけど、房子さんも、澄子さんも字

がきれいでグッド。これ大事なこと。伝達力。

達筆なのかもしれないが、なんじやいなこ

の字?なんてーのもたまにあるからさあ。

澄子さんも、きちんと定形を守り、基本は

ばっちり。これからの課題は――視野をもつ

ともっと広げて――冒険もして下さい。

○若き日の思い出語る金ボタン 澄子

◎オーダーのドレスにボタン13個 澄子

○制服の第一ボタン持っている 澄子

川柳塔鑑賞

同人吟 福士慕情

― 8月号から

食べ過ぎを許してしまうゴムベルト

富田保子

腹が強くなつてベルトを緩めることもあったが、ゴムベルトだとそのままでいい。ダイエットを考えている人は少しきつめのベルトをお勧めしたい。食欲とベルトの見付が面白い。

物忘れだけは誰にも負けません

九村義徳

こんなことを自慢してはいけません。度が過ぎると認知症に間違えられてしまいます。かく言う私も二階へ上がった下がつたり探し物をしています。

何のための付箋か思い出せない

鈴木 木 いさお

後々の為に貼って置く付箋、柳詒や本の読み差し、自分の記憶に遺したいと思っているのに、時間が経つと必要なものが何所にあるのか見つからない。

メモにない物買つてきて叱られる

早川 遯行

叱ってくれる人がいるということは幸せなことです。一人ポツンとテレビを観たり本を読んでいると、他人から見れば自由で良いと思うかも知れませんが……

雷のサマーライブが始まるよ

斉尾 くにこ

季節の変わり目には雷のパーカッションがある。梅雨前線が日本列島に爪痕を残して去って行った。コロナが収束して夏のライブを楽しみたいものだ。

温暖化旨くなったぞ北の米

小沢 淳

地球温暖化が確実に進んでいる。植生も種を守るため北上。寒冷地では考えられなかった特A米が取れるようになった。後何年かすると南の果物も北海道産になるかも知れない。

ギブアップ除草剤へとタッチする

亀岡 哲子

抜いても抜いても生えてくる雑草には手を焼く、まして、これから炎天下での草取りは大変な労働であり腰の痛さも半端ではない。そうだ除草剤という手があった。

カタカナ語増えて年寄り生きづらい

岸本 清

パソコンが普及し始めた頃からカタカナ語が氾濫するようになった。子供や孫と同居して教えてもらえる人はまだしも昭和生まれには辛い。

ベイベイも仮想通貨も無縁です

宇都宮 ちづる

ケータイで何でも出来る便利な世の中にはなっているが、それをたくみに操つての犯罪紙上を賑わせている。ケータイやカードでの決済など華麗に操作しているのを見ると、なんとなく時代遅れを感じている私。

冠婚葬祭要素になった昨日今日

吉田 弘子

コロナの影響で冠婚葬祭は殆んど身内だけで済ませるようになった。大勢の人から祝福されることもなく、恩あるひとのお別れも味気ないまま見送ることになる。

好きなもの出ない施設の朝昼晩

高杉 千歩

施設では本人の健康を重視、栄養のバランスを考えて食事を作っている。千歩さんには辛い事でも、食事は薬だと信じ健康を維持するため完食しましょう。

転けるなど念押す声を背に受ける

片山 かずお

後期高齢者は骨が委縮し脆く折れやすくなっている。ちよつとした転倒で骨折寝たきりになる人が多い、声を掛けてくれる人は有りがたい。

二回目で不死身になっている気分

伊達 郁夫

大病を患ったのでしょうか、しかも二回も、病院から無事生還してホッとしているかと思いきや、苦しかった病氣との戦いから開放され、生命力と運の強さを感じる作者。油断は出来ない。

初盆にあの日流した涙なし

西村 哲夫

時間は悲しみを遠くへ連れて去っていく。忘れた訳ではないがもう涙を流すことも無くなった。過去を引き摺るより、前向きに生きてゆく。

晩酌の佳境へ数値水を差す

木田 比呂朗

もう一杯飲みたい気分には血糖値や尿酸値を思い出してセーブをする意志の強さ、一方、体のことを考えてこの辺で止めたらと傍から言われて、渋々杯を伏せるか、私は何時も後者。

バツカスに感謝今宵も夢心地

村上 直樹

バツカスと肩を組んで気分良く飲んでいる。夢心地のうちは良いが度を過ぎると次の日が大変、自分の適量を知っている作者。

貧しかった昭和を何故か恋しがる

大内 朝子

戦後の貧困から現在は経済大国として世界に肩を並べている。あの貧しかった時代には人と人との繋がりがあった。温かい人情があった。一生懸命生きていた。

断捨離を僕の昭和が邪魔をする

米田 恭昌

私は今、身の回りの物から断捨離を考えているが、特にアルバムや手紙、句集などに合うとそこから進まなくなる。昭和九十五年の重みがある。

マスク美人やつぱり素顔見てみたい

稲見 則彦

口紅を塗らずにいつもマスクする

藤田 雪菜

折角の歯並び蓋をするマスク

梶原 弘光

マスクせず生きるにや一人無人島

丸山 孔一

マスクから貧富の格差知るコロナ

三好 専平

服装に合わせて付けるマスク柄

酒井 紀華

新型コロナウイルスが収束の後も当分はマスクが必要。右の句を考えながらマスクを見るのも楽しいかも知れない。

その内に笑顔で逢える五七五

榎本 舞夢

今年も川柳塔まつりは誌上大会となった。二年続きで柳友との談笑もないまま時間だけが過ぎてゆく。今は我慢しかないがきつと再会出来る日が来る。

グータッチ握手もハグももう少し

古今堂 蕉子

健康に充分留意して笑顔で逢える日が一日でも早く来て欲しいと祈る。

水煙抄鑑賞

— 8月号から

小 谷 小 雪

髪伸びて生きる力が湧いてくる

吉 道 あかね

いつも首の後ろ辺りの髪が伸びてきまして、うっとうしく感じる私ですが、この句では、大歓迎の髪の伸びです。精一杯生きていますねと、言われているようで元氣が出てきます。髪にも感謝です。

紫陽花はすこしお酒を飲んでいる

今 村 和 男

同じ株でも青、赤と多彩です。真っ白の花房がだんだんピンクになって、出来上がったのか、少し揺れています。和やかに宴会でもしていたのでしょうか。

バレットの白様な案を練る

青 木 公 輔

白は微妙な色調を創りだしてくれます。手の中のバレットには、多くのアイデアが盛られているようで楽しくなります。

雨音は常に新曲なのです

真 島 久美子

雨音は、いつも新曲を奏で、使いまわしはありません。それを意識して聴きますと心に沁みてきます。爽やかで明るい曲調がいいのですが。

テレワークのまま明日は退職日

月 波 与 生

在宅勤務のままの退職は、無味乾燥です。顔を突き合わせての送別会も開かれません。社会が猛スピードで変化し、慣習も変らざるを得ないのですが、割り切れない気持ちです。

非常食チラシ見るたびほしくなる

小 谷 くみ子

災害時にあったらいいなと、いつしか購買意欲も高まります。普段の何気ない生活の一コマで、同じ気持ちになってチラシを見ていて、親近感を覚えます。

遠足へ靴揃え寝る一年生

近 藤 風 羅

かわいいサイズの遠足用の靴が並べられている情景が浮かびます。ピカピカの一年生は、張り切っていて、初遠足にわくわく。どんな夢を見るのでしょうか。

ドクダミの十字祈りの庭となる

山 野 双 葉

ドクダミは、花卉が十字の白い花をつけます。荘厳な美しさから祈りと表現されています。凛と咲く花に、祈らずにはいられません。

バイデンがアクセル踏めば世が回る

黒 目 ひでお

米大統領は、困難な課題を抱え、パランスよくアクセルを踏み、明るい社会へと漕ぎ出してほしいものです。踏みすぎにはご注意ください。

座ったら覚悟を決める歯科の椅子

中 島 通 則

歯科での治療は気が重く、延ばし延ばしになってしまいがちです。その椅子に座ると、組板の鯉状態になり、それなりの覚悟を決めているのです。

手を伸ばし宇宙の無音さわりたい

響 庭 風 鈴

空にして詰めなおしたい脳の中

折 田 昭 子

天地の静寂に触れたいという、壮大な願望。脳内の宇宙を、きちんと詰めて取り出しやすくなりたいという願望。

二〇二一年（令和三年）

路郎忌本社誌上句会

投句者249人

兼題「うるおう」

梶谷 和郎 選

GOTOでうるおい「まんぼう」で潤れる
ばあちゃんがにこにこしてる年金日
老い二人うるおい呉れる孫の声
久びさに妻と静かにロゼワイン
アフガンの砂漠潤す日本医師
こころうるおう人と人との思いやり
うるおうとすぐ懐が油断する
一杯の水細胞に染み渡る
人生のうるおいもらう五七五
全快を信じる友の見舞い状
おはようの声でうるおう通学路
思いつき出し切る汗のさわやかさ

愛媛 永井 松柏
兵庫 能勢 利子
大阪 藤原 大子
兵庫 緒方美津子
埼玉 中島 通則
大阪 太田扶美代
広島 鴨田 昭紀
大阪 阪井 恵子
大阪 榎本 舞夢
兵庫 米田利恵子
広島 村上 和子
和歌山 三枝眞智子

酒代の足しにと子からお小遣い
待ちわびた雨期サボテンがおどり出す
夕立ちにゴーヤも背伸びしています
新緑に脳をうるおす散歩道
孫の笑顔心うるおう魔法だよ
枝雀聞き米朝も聞く雨の午後
蓮の葉の雫うるおう朝の使者
潤っていますか恋をしていますか
ワクチン打ちやつとあなたに会えました
ハーモニカ吹いて空気を弾ませる
殺伐な世の息抜きをする親父ギャグ
山菜を摘んで夕餉の足しにする
一坪の庭家計うるおうナスキュウリ
潮入りの音でうるおうお亀汁
さようならの涙は明日の美容液
心足る写経の筆がよく進む
大谷のニュースに朝が満たされる
一冊の出会いに空が広くなる
一冊の本がうるおすばくの喉

大阪 鈴木 栄子
大阪 栃尾 奏子
大阪 齋藤さくら
山口 坂本 加代
兵庫 荒牧 孝子
兵庫 堀 正和
岡山 高橋由紀女
大阪 平井美智子
大阪 内藤 憲彦
広島 小川 道子
大阪 伏見 雅明
青森 福士 慕情
大阪 今井万紗子
大阪 伊藤 寿美
鳥根 伊藤 明美
大阪 島田 明美
大阪 片岡恵子
大阪 石田 孝純
大阪 伊達 郁夫
青森 高瀬 霜石

久びさの帰省ですねと蛙鳴く

蓮の花生まれる音を聞きにいく

暮らしからうるおい奪うIT化

ステイホームすこし余裕の小銭入れ

うるおいをちりめん皺が恋しがる

古里の空気を持って帰りたい

平和日本蛇口ひねれば水が出る

僕はピエロ君の心を潤わす

男だつて保湿クリーム使います

ひとしづくあればうるおうのにこころ

長旅の朝はたっぷり水をやり

乗る車種で潤う家か査定され

潤いには遠いお湿りほどの利子

女ひとり月のしづくを浴びている

はらぺこあおむし心うるおす絵本

驟雨からうるおう山が垢抜ける

陽の恵み生きて感謝の種を蒔く

距離とマスク救ってくれるのは笑顔

うるおった空です紫陽花が似合う

和歌山 小谷 小雪

大阪 田中 俊子

大阪 村上 玄也

和歌山 木本 朱夏

奈良 大内 朝子

和歌山 三宅 保州

鳥取 門村 幸子

大阪 吉村久仁雄

青森 稲見 則彦

広島 田辺与志魚

大阪 高杉 力

奈良 高橋 敬子

奈良 大久保真澄

大阪 中村 恵

大阪 米澤 俣子

宮崎 恵利 菊江

兵庫 尾崎 一子

兵庫 敏森 廣光

鳥取 斉尾くにこ

日に一善豊かになって日が暮れる

空想に耽りうるおう詩ごころ

佳

猛暑でも柳誌こころを枯れさせぬ

千の月呑んでうるおう千枚田

加齢ってうるおいの引き算だなあ

語彙の森さ迷い歩く至福感

とき水で花を咲かせている寓居

人

うるおいが欲しくて路郎句集読む

地

風と居るかけがえのないこの時間

天

忙中閑ゆつくりお茶を立てている

軸

花に水ハートにジョーク注している

鳥取 大羽 雄大

大阪 澤井 敏治

大阪 初代 正彦

奈良 渡辺 富子

岡山 大石 洋子

北海道 三浦 強一

大阪 両澤行兵衛

大阪 西出 楓楽

兵庫 上田ひとみ

愛媛 黒田 茂代

兼題「嘘」

新郎を立派な嘘で磨きあげ

金子美千代 選

兵庫 岸田 万彩

正直な人だ嘘だと分かる嘘

身に覚えあるから嘘を笑つとく

きらきらと未来見る子に嘘つけず

嘘でもいい好きの一言欲しかった

永田町嘘が行進しています

神様もたまには嘘をつくようだ

口下手でも嘘のないのが救いです

あなたには嘘をつけない鏡です

嘘つけない人で悲しい沈黙

嘘もつかず憎み切れない人が去る

病む母へ作り笑いも板に付く

必ず呼び戻すからと飛ばされる

飲み込んだ嘘が鳩尾出てゆかぬ

突然の計報思わず嘘でしょう

きれいやと妻喜ばす軽い嘘

楽しげに振舞っている虚栄心

来世に持ち越す嘘を一つもつ

にんげんよりも正直な植木鉢

自分には嘘をつかずに生きてきた

奈良 居谷真理子

大阪 柿花 和夫

和歌山 石田 隆彦

大阪 今井万紗子

静岡 中田 尚

富山 伴 よしお

兵庫 山内 迪

山口 坂本 加代

大阪 太田扶美代

大阪 松田蟻日路

大阪 小川賀世子

愛媛 永井 松柏

大阪 西出 楓楽

大阪 藤原 大子

大阪 鈴木 栄子

大阪 樋口 眞

島根 岸 桂子

広島 野村 賢悟

鳥取 成田 雨奇

男の嘘全部信じた頃ピーク

騙し合いしつづ駆け引きしてる恋

梱包が破れて嘘が転げ出る

槌の子がいる看板をかける村

野アザミのちくりと痛い軽い嘘

二時間もそうかそうかと聞いた嘘

嘘一つ混せて皆の角立てず

嘘を吐くやつと大人になったんだ

嘘少し振りかけてある武勇伝

AIに女の嘘は見抜けない

嘘つけぬ監視カメラの世が怖い

おばあさんになっても嘘を吐いてます

嘘の中ホントを見つけちゃいました

美しい嘘です夜の観覧車

わたくしの心の氷溶かす嘘

女です実年齢はすぐ変わる

サバを読み忘れてしまう誕生日

嘘吐いて忘れんうちにメモっとく

嬉しい嘘残して帰る見舞客

大阪 原田すみ子

大阪 大島ともこ

広島 鴨田 昭紀

岡山 大石 洋子

大阪 酒井 紀華

兵庫 富永 恭子

奈良 飛永ふりこ

兵庫 村田 博

鳥取 竹村紀の治

岡山 藤澤 照代

大阪 三好 専平

大阪 谷口 義

大阪 枋尾 奏子

山口 中前 幸子

岡山 藤井 智史

岡山 工藤千代子

兵庫 能勢 利子

大阪 穂口 正子

兵庫 福田 好文

お互いにやさしい嘘がいる老後

さらさらの嘘私を輝かす

嘘でもいいしばらく夢を見させてね

ごめんなさい母よるこばす嘘でした

母の嘘見破られずに背を押され

強がりばかり言つてた母の七回忌

不器用に嘘つきました不整脈

嘘一つがんじがらめになっている

もう少し酔うと白状致します

親友のまっかな嘘に救われる

真実のつめたさ嘘のあたたかさ

生きるため小さい嘘は常備薬

透明になるまで嘘を掻き混ぜる

佳

おやおやまあ嘘のしつぽが出てますよ

ワイシャツは白 積み上げる机上論

ブライドのひび割れ嘘で補強する

信じたい優しい嘘の優しさを

偽りもカラフルに混ぜ生きのびる

大阪 吉道あかね

大阪 山本希久子

京都 山田 葉子

兵庫 近藤 勝正

大阪 西村 哲夫

大阪 石田 孝純

兵庫 上田 和宏

愛媛 黒田 茂代

大阪 美馬りゅうこ

兵庫 敏森 廣光

埼玉 久保田千代

大阪 平賀 国和

大阪 伊達 郁夫

大阪 きとうこみつ

青森 高瀬 霜石

島根 石橋 芳山

広島 村上 和子

奈良 渡辺 富子

人

始まりはほんの小さな嘘だった

地

騙されてあげよう君が好きだから

天

本当は泣きたかったし辛かった

軸

子孝行してます減らず口たたき

兼題「生きる」

生きる価値見出し挑むベンの冴え

美しく生きる継ぎはぎの人生

忘れるが特効薬と言う長寿

ガレ場にも一筋の道生きのびる

いくばくの命燃やすか蟬しぐれ

被災地の一本松が生きのびる

卒寿なお生きるぞという力瘤

ひこばえに急かされているわが余生

元気で喧嘩も恋もしています

宮城 木田比呂朗

大阪 石田ひろ子

兵庫 上田ひとみ

村上 玄也 選

宮崎 恵利 菊江

島根 原 徳利

兵庫 北野 哲男

大阪 森田 旅人

奈良 渡辺 富子

大阪 酒井 紀華

大阪 山本希久子

大阪 柿花 和夫

兵庫 敏森 廣光

楽しいから一人より二人で生きる
年波とがつぷり四つに組み生きる

奈良 山下 純子
大阪 内藤 憲彦

いい目覚め手足が動く目が見える
ハンドルをまた切り換えるまだ生きる

兵庫 梶谷 和郎
青森 高瀬 霜石

明日へと命をつなぐ夜の酒

鳥取 竹村紀の治

敗戦後母の着物で生き延びる

大阪 坂上 淳司

生き残る脳細胞に酒をやる

広島 田辺与志魚

生き様が納得できた母の通夜

大阪 折田 昭子

盗塁を成功させた得意顔

大阪 大浦 初音

捻子巻いて巻いて独りを生きている

広島 村上 和子

生きるため振り逃げもするしたたかさ

大阪 初代 正彦

生きがいのそれぞれ違う預金帳

岡山 古山はつ子

ときめきをビタミン剤にして生きる

和歌山 石田 隆彦

地殻変動地球が生きている証

青森 福士 慕情

今出来ることをしようと思っただけ思う

京都 山田 葉子

じいさんが独りちいさなゴミ袋

兵庫 山田 耕治

夕暮れて帰るところのある命

大阪 森中恵美子

ラッシニアワーマンな必死に生きている

大阪 矢倉 五月

長寿プランをコロナ揺さ振る

宮城 木田比呂朗

添書きに生きているかと書く賀状

大阪 高杉 力

生きている甘い辛いと言いながら

奈良 山本 昌代

生きてきた証の一句まだ出来ぬ

大阪 西出 楓楽

生き下手を冷めた目で見る檻の猿

大阪 横山 里子

お借りした命磨いてから返す

大阪 田中 俊子

しなやかに生きる女の舞台裏

大阪 岡田 恵子

サヨナラは言いませんので悪しからず

兵庫 上田ひとみ

生きている実感くれる大ジョッキ

兵庫 村田 博

生い立ちのすべてを見た鬼瓦

大阪 澤井 敏治

ゆったりと歩む私の第二章

兵庫 稲角 優子

もつれ糸解いては結び生きる日々

大阪 富田 保子

生乾きの瘡蓋はがし生きている

大阪 島田 明美

生き辛い都会の空は鉛色

大阪 内田志津子

心臓が生きる生きろと脈を打つ

兵庫 福田 好文

一日の始まり朝刊待っている

大阪 谷口 義

笑ったり泣いたり生きている証

広島 嶋田 昭紀

汚染土に育つひまわり陽を仰ぐ

兵庫 野口真桜子

寄り道をせずに生きてくなんて野暮

大阪 中島 一彌

長生きで喜怒哀楽も薄くなり

大阪 奥 時雄

生き恥を曝して生きる長寿です

神奈川 加藤 佳子

しっぽにも生きる未練があるトカゲ

兵庫 瀬島流れ星

膝をつき父の轍をたしかめる

大阪 栃尾 奏子

清貧に生きる余生はユートピア

大阪 山野 寿之

ビバルディの四季聴いている生きている

愛媛 永井 松柏

佳

懸命にアスファルト這う虫たちよ

大阪 藤村 亜成

芸名に生きて計報で知る素顔

兵庫 萩原 狸月

無器用で頑固本音で生きた靴

兵庫 みぎわはな

しなやかに生きさわやかに大往生

兵庫 生田 頼夫

使い方次第言葉は生きている

兵庫 富永 恭子

人

たくましく生きたしるしの火炎土器

兵庫 岸田 万彩

地

存分に生きた顔あり棺の中

大阪 長高 俊雄

天

生きている実感爪を切る髭を剃る

大阪 田中ゆみ子

軸

おおらかに生きる持病を道連れに

兼題「うかうか」

西 美和子 選

四島も拉致もうかうか過ぎていく

大阪 田中 俊子

謝罪会見コピペの誤字を読み上げる

大阪 澤井 敏治

洗濯機の中で財布が大暴れ

大阪 富田 保子

煽てられ乗った御輿は良く揺れる

兵庫 宗 和夫

客のない定時のバスに乗り遅れ

兵庫 稲角 優子

カタカナ語解らぬままにした返事

広島 村上 和子

気が付けばぬるま湯だった玉手箱

大阪 両澤行兵衛

うかうかと平均点の中で錆び

岡山 藤澤 照代

絶滅種予備軍となる地球人

大阪 東 敬朗

ブライドがネックとなつて蒔いた種

和歌山 三枝眞智子

青空が続くうかうかしてしまふ

岡山 藤井 智史

満腹になると油断をする脳波

広島 鴨田 昭紀

あと一段の油断を悪魔逃がさない

大阪 小川賀世子

ダイエツト弾みたいけど目眩する

兵庫 福田 正彦

失点のうかうか悔いるノーサイド

兵庫 萩原 狸月

煽られてうかうか詰めた車間距離

兵庫 村田 博

迂闊にも昼寝で午後を失った

大阪 奥 時雄

気が付けば我が家ボツンと一軒家

窓際の席にもあった肩叩き

人波に押され目標見失う

よく読めば時効で権利消えている

うかうかと鳥獣戯画の中に居る

一言が油断の鍵を握ってた

一秒の差で始まった下克上

うかうかとしているくせに聞き直す

おうち女子コロナが変えたモチ基準

人生のト書きをうかつにも漏らす

うかうかすると幕が引けなくなる気力

傘寿だものうかうかしてもいいでしょう

うかうかと生きてもちゃんと年はとる

うかうかと乗った列車の冬景色

人生百年うかうかしておれぬ

手袋の片一方がふたつある

ラップしたままで期限の切れた恋

ローン完済へえまだ要るの二千万

ID言いましよパスワードも要りますか

鳥取 斉尾くにこ

大阪 伊達 郁夫

大阪 村上 玄也

大阪 樋口 眞

大阪 廣田 和織

兵庫 青木 公輔

静岡 中田 尚

兵庫 山内 迪

大阪 栃尾 奏子

愛媛 永井 松柏

大阪 藤村 亜成

島根 中筋 弘充

奈良 大久保眞澄

大阪 中村 恵

愛知 金子美千代

大阪 平松かすみ

大阪 平井美智子

奈良 長谷川崇明

兵庫 中岡千代美

昨日まで追ってた雲を見失う

うかうかしない朝顔の蔓の先

死神の誘いにウンと言っちゃった

気がつけばわたしひとりが踊ってた

半分こすると約束だったのに

風見鶏飛んで世間の風を知る

うかうかと生きてきて死ぬのがこわい

うかうかとシャボン玉から転げ出る

「誰かやらねば」言ってしまつて幹事役

手を出せば届くところにあつた花

夕焼け小焼けスマホの電池切れたまま

騙されるタイプの人と違うのに

発酵をしすぎて手にはおえぬ仲

今行けば酒の肴にされるだけ

油断から生まれた恋で楕円形

正直に不味いと言えば角が立つ

佳

箸置いた途端に別れ告げられる

浮気など出来ない人と信じてた

広島 田辺与志魚

和歌山 小谷 小雪

鳥取 竹村紀の治

和歌山 木本 朱夏

兵庫 上田ひとみ

大阪 水野 黒兎

東京 川本真理子

島根 石橋 芳山

兵庫 敏森 廣光

兵庫 岸田 万彩

大阪 美馬りゅうこ

兵庫 上野多恵子

兵庫 富永 恭子

奈良 中堀 優

大阪 島田 明美

兵庫 斎藤 隆浩

大阪 小野 雅美

大阪 鈴木 栄子

つり銭が多いですねという日本

我がことが信用できぬうかつぶり

まだ蓄えらい錯覚してました

人

飛び石を飛ばないなんて忘れてた

地

戦力外通知が届くこの世から

天

紫陽花寺であじさいになりました

軸

オッチャンの声出てオンナ忘れかけ

兼題「無理」

ゴリ押しの五輪へ第5波のうねり

ドライフラワー一滴の水を恋う

高齢者に予約しろとはお上だな

お姫様抱っこいまさら言えません

無理ですと言ってしまえば楽なのに

あの時の助言が無理を変えていた

無理もない寂しいときは騙される

広島 野村 賢悟

兵庫 奥澤洋次郎

大阪 柴本ばつは

京都 山田 葉子

青森 高瀬 霜石

大阪 森中恵美子

小島 蘭幸 選

兵庫 清水久美子

大阪 片岡智恵子

大阪 江島谷勝弘

兵庫 梶谷 和郎

兵庫 山田 耕治

愛知 富田 末男

兵庫 横田 次郎

無理強いをされて磨いた座敷芸

無理の字を煮たり焼いたりしています

無理という婚活終えて春が来た

鉛筆が折れる わたしを知っている

詰め込んだ知識ははみ出したアンコ

隅隅の掃除は無理と言うルンバ

お金では買えないものが欲しくなる

オリンピックもルミナルエも無理するな

いつだって無理をしているのし袋

もう正座無理お叱りは受けますが

二人目は貴男が産んで下さいね

妻はすぐ高倉健を引合いに

選手団もウィルス連れて来る五輪

皆勤賞無理をした日もありました

無理は無理だんだん丸くなりました

無理だとは一度も言わぬ母でした

頑張るな無理をするなと懐手

せっかちな妻に漢方薬は無理

目標は全種類ですバイキング

大夕焼け 無理難題はまた明日

兵庫 村田 博

大阪 島田 明美

岡山 藤井 智史

奈良 植野美津江

島根 石橋 芳山

島根 中筋 弘充

大阪 吉道あかね

兵庫 青木 公輔

大阪 榎本 舞夢

岡山 工藤千代子

大阪 西出 楓楽

兵庫 宗 和夫

神奈川 加藤 佳子

和歌山 三宅 保州

青森 稲見 則彦

大阪 鈴木 栄子

大阪 柿花 和夫

岡山 藤澤 照代

大阪 藤田 武人

大阪 岡田 恵子

年金のおかげ無理せず灯を守る

路郎忌の会いたい人を遠くする

無理するなかが二センチ足らぬとて

無理もした人間らしく生きた汗

無理ですか待っておりまます介護ロボ

生きるため無理せず弱音吐きなさい

無理という母は可愛い二度童子

無理をして買った五輪の切符だが

健さんを真似ての無口無理がある

おばあさんが行ける学校でええやんか

AIの世に神風を期待する

無理してる自分に気付くクラス会

もう一度母さんの肩叩きたい

無理言える友がいつでも側にいる

二十年前のわたしに戻る春

無理言うて言われて長いお付き合

好評でした無理のないスケジュール

祝い酒まっすぐ帰る訳がない

無理せずに生きてくればいいのです

飲むな動くな無理ばかり言う国に居る

兵庫 吉村めぐみ

大阪 森中恵美子

大阪 内田志津子

兵庫 尾崎 一子

大阪 松本あや子

大阪 伊達 郁夫

大阪 石田ひろ子

兵庫 北野 哲男

青森 高瀬 霜石

大阪 谷口 義

大阪 澤井 敏治

大阪 阪井 恵子

兵庫 敏森 廣光

大阪 川端 一步

大阪 折田 昭子

兵庫 富永 恭子

山口 中前 幸子

広島 田辺与志魚

大阪 今井万紗子

大阪 内藤 憲彦

あなたには無理と言われたかすみ草

梅田まで出るのも無理になって来た

観客入れてオリンピックをやりなさい

無罪だと言うが二度とは票入れぬ

もう無理と言うまで飲んで目が覚めた

佳

鳥の絵を描いて鳥にはまだなれぬ

百二十歳までの予定を立てている

芋焼酎で無理難題をクリアする

自粛生活もう限界の赤い靴

無理強いが赤木ファイルとして残る

人

すこし無理しようかコロナ禍のレシピ

地

呆けと呆け夫婦漫才にもならず

天

カモメにも標にもなれず本を読む

軸

無理ばかりしていたみんな笑っていた

和歌山 倉橋 悦子

京都 山田 葉子

大阪 井丸 昌紀

兵庫 上田 和宏

鳥取 竹村紀の治

大阪 平井美智子

鳥取 新家 完司

岡山 折鶴 翔

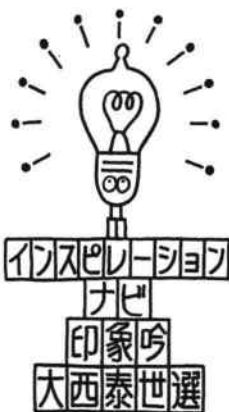
大阪 山本希久子

鳥根 伊藤 寿美

大阪 山岡富美子

北海道 三浦 強一

奈良 居谷真理子



(投句208名)

賛否が別れたオリンピックも、いざ始まって見れば選手の活躍に応援したくなるし、感動的な場面では貰い泣きしてしまったりしました。



片方で、コロナの感染は留まることを知らず、二度のワクチン接種では安心できないと言う変異型に脅かされています。二年ぶりの高校野球も無観客で始まり、球児たちの表情の明るいこと。日々の中で楽しい事を自分で見つけた、つくづくそう思うようになりました。では、ナビを。

将来はオオタ二さんになるつもり

(評) 大谷クンの大活躍で野球に憧れる子が増えそうです。バアサンだって、あの子カワイイから大好きです。

安全安心聞く度に増す不安

(評) 首相が「ナントカの一つ覚え」のように繰り返すたびに、棒読み口調が気になる、ますますアカン思います。

達人の域に達した物忘れ

(評) この勝負なら参加して勝つ自信あります。忘れていることを忘れるようになれば、かなりの達人と言えましょう。

少年もふつと忘れるバスイード

(評) これは達人とは言えませんが、しかし、自分よりずーっと若い人が何にしる忘れていたのを見るのは快感！

どの薬効きましたかとお医者さん

(評) この薬が効いたらあなたの病気は〇〇です。と、私も言われたことがあります。それが、それって何なの？

接種終えまた疼き出す恋心

(評) 恋心を「思い出す」のではなく、「疼き出す」に、深く感銘いたしました。お元気で何よりです。

恥じらいをどこに忘れたのかわたし

(評) 〈恥じらい〉っていつころから忘れてしまうのでしょうか。置き忘れ、なら拾いに行くことも出来るのですが。

どうしよう線状降水帯の下

(評) 大雨が降り続く状態を拡大解釈すれば、逃げたくても逃げられない状態でもあります。早く帰りたいのに、とか。

猫ならば寝顔だけでも誉められる

(評) 寝ようがひっかこうが、はたまた猫パンチを頂こうが、ありがたやのひと言に尽きますよ、猫好きには。

右側の心隠して恋逃がす

(評) やはり、恋と言うものは全身で勝負ということでしょうか。全てをさらけ出さないと相手の心には響きません。

輪を抜けて時とき外の空気吸う

自分ファースト一人はつちも悪くない

性別は死語ニンゲンという括り

微笑みで何時も男は騙される

恋ころ帽子は僕の恋仇

桐の箱さくらんぼうもうれしそう

花ピラで占う恋をなつかしむ

津山市 高橋由紀女
照れくさい時にはそっぽ向いている

唐津市 仁部 四郎
心臓とハートの重さ別のもの

黒石市 北山まみどり
待っている慌てなくても大丈夫

河内長野市 辻村 ヒロ
初恋も思い出せない点と線

松山市 郷田 みや
待ち合わせひとり笑いをしてしまう

堺市 澤井 敏治
ジエンダーフリー考えている家籠り

大阪市 山本加お里
よろよろと立っても開く自動ドア

神戸市 富永 恭子
片方の言い分だけを通して耳

大阪市 石田 孝純
もてたなあ野球少年だった頃

松山市 柳田かおる
いつせいにスマホ角度になる電車

大阪市 平井美智子
痩せんでもええよふつくらさんが好き

熊本市 杉野 羅天
恋心ハートの形だった頃

弘前市 高瀬 霜石
しっかりと食べてゆつくり考える

大阪市 古今堂蕉子
余裕余裕愛も知力も体力も

藤井寺市 鈴木いさお
失礼ですがリモートでプロポーズ

尼崎市 藤田 雪葉
幸運な出会いがあつて弾む球

東京都 川本真理子
青い空二兎も三兎も追えた頃

東大阪市 佐々木満作
少年の遙か彼方にある野望

三木市 山口ヨシエ
この恋はアウトと知って秋に入る

土佐清水市 辻内 次根
何と申しましようか真空管のラジオ

可見市 板山まみ子
五輪にのぼせ日本中ワヤですワ

枚方市 山口弘委智
煩惱に帽子かぶせて世を勘ねる

青森県 月波 与生
お迎えがいつもトイレに立っている

箕面市 酒井 紀華
燃え上がる高校野球帽子投げ

大洲市 花岡 順子
猫かぶり止めると女爪を出す

岡山市 永見 心咲
じゃが芋の恋は歪で真っ直ぐで

札幌市 三浦 強一
図体の割に小さい肝っ玉

富士見市 中島 通則
ハートブレイクホテルで一人泣いている

大阪市 江島谷勝弘
コロナ禍の星は愛するタイガース

豊中市 藤井 則彦
帽子までずれ落ちそうになるジョーク

三田市 堀 正和
極楽の見学ツアーおまへんか

佐賀県 真島久美子
多摩川の土手に二軍として座る

豊中市 水野 黒兎
かくれんぼ隠れたまんま日が暮れる

尼崎市 近兼 敦子
初心者にとってもよく効くホレ薬

大阪市 平賀 国和
良寛さん老いらくの恋生き甲斐に

横浜市 菊地 政勝
この帽子鳩は出ないが恋が出る

奈良市 山本 昌代
口笛を吹きたくなった僕の自負

寝屋川市 川本 信子
初恋の彼女は今も十五歳

大山市 金子美千代
辛口の世に寅さんは生きにくい

豊中市 松田蟻日路
昼寝にも飽きたな散歩でもするか

神戸市 奥澤洋次郎
アホ言うてこんなもんやる幸せは

11月号発表 (9月15日締切)



(平本 霧石人 画)

柳菱に2句

みづのうた

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。
編集部

大山滝句座(鳥取)

新家 完司報

若いとき一度は罹る都会病
東京で買えないものがたんとある
手話の声届き一つの色になる
わたくしの悪態指数100である
ゴキブリやカラスもメタボ歌舞伎町
眼裏に消えない山がひとつある
受け止める十指は蓮の花に似て
手の甲に書く血圧と体温と
サンクラスかけたウサギのいる東京
小中大隠れても富士日本一
師の山は高過ぎ登る目処立たず
大山さんうち家の庭の借景よ
なよなよしてもおれず明日を向く
山を削るもつてのほかだツケがくる
手の内を明かせば負けが追って来る

余光 紀の治 八千代 芳山 寿代 楓花 正人 くにこ 照彦 ゆたか 雄大 幸子 けいこ 風露

おーいお茶昭和生まれは手がかかる
議論伯仲一匹の蚊を手で叩く
きな臭い都会の水は飲めません
なよなよの柳が「しゃんとせい」と言う
大都会の真ん中で買うよもぎ餅
手のひらの皺がわたしの履歴書だ
ワクチンをするしかないか天に訊く
太り過ぎ手首輪ができアセモでき
手も足も口も出さずに自肅中
人間が邪魔東京も大阪も

川柳塔みちのく(青森) 稲見 則彦報

きつい風折れずに惚れたコンピ傘
百均のビニール傘にあるゆとり
折りたたみ傘を同伴に半世紀
雨が止み忘れられ泣くアンブレラ
ドロドロなポケットパラソルチョコレート
メイクして日傘の出番真夏日に
公園の瓶の傘入れカラッポです
気を遣う男相合傘で濡れ
相合傘隣にやせてほしい人
縄文の雨優しかる露の葉も
紫陽花に傘はいらない雨似合う
シナリオの通りに進まぬ傘寿坂
せつかな僕にびったりジャンプ傘
カラフルな日傘も好きな男です

石花菜 麦青 小鹿 順子 美ツ千 重忠 希楽良 コスモス 規雄 完司 義明 柳子 京子 龍馬 ちづ子 友二 澄子 慕情 規子 隆樹 真由美 ふさゑ 洋子 則彦

気に入った傘の順から消えていく
男いつびき傘の雫をピツと切る
その昔傘を忘れた振りをした
ロマンスに相合傘は欠かせない
彼が来るランフシエイドを替えましょか
つき進むオリンピックよ傘が無い
雨音にスイングします傘の花
日が昇る街を殺菌するように
おおらかな気分になった接種二回
太陽の日の出は僕の心意気
太っ腹見かけだけでもおおらかに
啄木の小鳥の磯にある東
体型はおおらか頭ガツガチ
クヨクヨは無し咲いたなら散る覚悟
美しさの本音が見えぬ花鏝
どの花も終息願う顔で咲き
ふところの深いところで許してる

豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

ひよっとして振替忘れ請求書
自然破壊ひよっとしてツケこれからも
ひよっとして世話やきすぎてダメ夫
あたふたと気付いて帰る空財布
補聴器とマスクめがねの三重苦
閉店の張り紙寂しきぎれ雲
じゃあまたね絡めた小指まだ疼く

ひろ 霜石 ひとし 霜石 英子 和香子 風来坊 吹喜 美鈴 重虎 孝子 一呑 初枝 のぶよし 花峯 脇 黙人 多美子 憲央 真理子 時子 健二 英三 公子

願い事途中まで聞く流れ星

夫と子を守る武器です組板は

太陽は神のギフトじゃありません

守備よりも攻撃好きな草野球

はがらかな人だみんなが寄ってくる

万緑の色の深さに溺れそう

ひよっとすると本当かもねその噂

この道を曲がればひよっと良い事が

白紙にはとつてもなれぬ九十坂

目が合った苦手な役が来る予感

いい人が出来た様だね爆いである

生真面目なけじめをつける句読点

ひよっとして藤井二冠が三冠に

忘れ物ひよっとしたらと確かめる

ひよっとしてあの握手から気にかかる

あと二キロさあこれからが試される

縁側でスイカあの里あの山河

素晴らしい夢ほどこつても途中で

秒さざみ命と対峙防護服

熱中症ひよっと気になりアイズノン

あと一人拙守で逃すパーフェクト

残せるか一句をもとめ道半ば

ひよっとして天才かもと思つた子

大丈夫か百まで生きる算段は

道半ばなお拾うもの捨てるもの

守られているなと思う目の配り

北 玲子

公 輔

敏 昭

野 鶴

弘委智

英 旺

忠 子

求 芽

千賀子

福正彦

洋 志

一 歩

ふりこ

手を挙げるたとえひとりであらうとも

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

ご自慢でしようが何度でもその話

孫自慢言いたい放題聞き放題

さりげなく指のダイヤをお見せする

すこく細いの私の千切りキャベツ

子つばめの飛び出る勇気新世界

反戦への勇気ならば確と持つ

拳ふたつ勇気を溜めているのです

ふりしほる勇気夢へとまっしぐら

頂上の勇気をほめる風がある

入道雲のガッツポーズに湧く勇気

夕食を忘れて野球したあの日

孫達とスポーツジムで汗をかく

応援はテレビの前で正座して

老いてなおスポーツ仲間ほ飲み仲間

バラリンピック人間何も怖くない

引き際の美学アスリートの笑顔

アスリートの悩みなおみの声を聴く

夢の中大胆なこと言う私

ワクチンの待合室に百合の花

無き実家あの日に還るゆすら梅

シャボン玉やさしい風よ吹いて欲し

退院の報告まずはお仏壇

ひとみ

白 狐

千代美

昭 紀

比呂子

弘 子

慶 子

蘭 幸

淑 子

鬼 焼

和 子

節 夫

榮 香

丹下凱夫選

日の丸の赤いところに僕も居る

廃校も知らず桜は咲きほこり

時効まで笑わぬ顔を刺つている

むしめがねあればいたんていになれる

疲れたと牡丹の花は散りました

憎まれることは覚悟で否と言う

白黒をはつきりさせる質である

ほつといて私の好きにさせてくれ

五十年空気のようになれました

茶柱を見て買いに行く宝くじ

佳句地十選

(8月号から)

籠島恵子選

予定の無い旅で気分は山頭火

振り向けば茨の道が消えている

驚の声はみどりに溶けていく

僕は負けてないタオルを投げないで

アメリカはいつもはつきり君のよう

もう一枚とれぬと意味のない切符

断捨離で見つけた母からのエール

ジャズの降る街に二十歳の忘れもの

「真実の口」にときどき手を入れる

真っ白に洗うと僕が消えていく

紀の治

徹 子

黙 人

ち か

くにこ

久仁雄

楓 花

堅 坊

かずお

正 和

ひろ子

富 香

節 生

小 鹿

孔 美子

亜 成

満 作

和 子

崇 史

信 二

せんたくきがおこつてからとまったよ

ああいいきもちおひるねのあとは

小一さや

川柳塔打吹(鳥取) 齊尾くにこ報

包んでもほどけて落ちた秘密ごと

花は我にもあつた咲きました

分がよくも兄貴の手前花持たせ

花好きな友の命日偲ぶ花

庭中に四季の花咲き老い忘れ

さっぱりと受け入れ出来ぬ補聴器だ

散髪を終えて夜明けと似た気分

冷蔵庫きれいさっぱり空にする

考えて考えぬいて冷やっこ

さっぱりだ流す涙が実にならぬ

早朝に草刈響き寝ておれぬ

空き缶の音が轟く荒れた町

妻の声頭に響く二日酔

靴音を響かせ違いに行つた日よ

指揮棒が集めて響くハーモニ

お世辞だらう心に言葉響かない

ハイヒールの音響かせてまだ女

悲しさ苦しさ響かぬ都市砂漠

飲みながら話も出来ぬ変な世だ

シャイな人お酒を借りてよく喋る

龍枝

ワイドショーのコロナ話に飽きてきた

つらい話してくる人になる

舌癌の友との会話筆談で

いろいろな話の種を蒔いてきた

聞き捨てにならぬ話で盛り上がる

話題にもならずこの世の隅にいる

長生きのサブリメントだ馬鹿話

あちらとこちら同じ話の裏表

和歌山三幸川柳会

西川

千鶴報

子のために二度と聞きたくない軍歌

三本の矢では足りない民の声

盟友と悪友もいて生きる張り

嘘ひとつ抱いて見舞いの重い靴

迷いますワクチン打つか打たないか

実山椒夜なべ仕事か策いっぱい

心配をさせた子が押す車椅子

仲間から放り出された雨男

心配はするなと母からの便り

百歳が見えたくよくよいしない日々

ワンチームブルータスなど見当たらぬ

ワンコイン仲間も同じ幕の内

天秤に載せた女の恋ころ

賞味期限切れた仲間と日向ぼこ

星影のワルツで締め同期会

ハチ公も愁う渋谷の交差点

富隆

紀子

重忠

石花菜

紀の治

芳光

完司

くにこ

敏照

智三

菜摘

純子

一雄

理恵

起世子

俣子

当代

昇

碧

宏枝

昭枝

富香

ひろ子

日出男

仰ぎ見る人も仲間と無礼講

心配はマスクマスクの失語症

小走りに走る姿に艶がある

研ぎ汁が澄んで家族の輪が戻る

ごほうびに頂く今日と言うチャンス

きつちりと鍵掛けてある非常口

卒寿記念マナスルへ行くと父

ビギナーズラックで釣りの仲間入り

懐かしい歌声喫茶青春譜

お金がありすぎて夜も眠れない

鼻歌が出ている妻に身構える

陽性の数を仲間にしたくない

きらつと生きるタップダンスのいい仲間

ああ青春だったあの日のビートルズ

心配を背負いチビチビ薬漬け

結局は呑みたいだけの釣り仲間

心配は気付かぬふりで妻まかせ

湯の町的情緒ギターの弾き語り

ママ友のボスに逆らい蚊帳の外

はびきの市民川柳会(大阪)藤原

スーパ一閉じ町の中心失われ

医師会がコロナ治療に背を向ける

東京に一度は住んでみたくなる

背を伸ばし体の中心へそ廻り

年とれば首腰ひざが弱ります

まさ

和子

准一

幹子

八重子

保州

みつ江

義泰

彦弘

知香

眞智子

悦男

あき子

明子

美枝子

和美

康則

剛

千鶴

大子報

正義

冬のト

さくら

フジ

かつ美

中心の役退いて固き取れ

隠れるように中心にいる母でした

中心打者が打つとだいたい勝つ野球

中心からはじき出された流れ星

中心にあんが居るとややこしい

軸足をしっかりと民に向けて欲し

中心がぶれると円が描けない

うかと乗り甘い囁き共白髪

どなたにもちよつと甘えて生きて

甘い汁吸つて本音を言いかねる

色気とは甘いもんなの知らなんだ

甘く見た付けたと思う空仰ぐ

性善説詰めめ甘さが治らない

自尊心甘える事に躊躇する

アンパンにこだわっている粒餡派

エアポート甘い別れもあつたのに

菅総理自分自身に甘すぎる

少々の塩が甘さをひきたてる

水際の甘い施策で変異株

甘い香を放ち人呼ぶバラの園

南大阪川柳会

松岡

太陽を一杯受けて愚痴を言う

菜園へ話しに来ては持ち帰る

質問をいつも独占するマニア

ご自由にどうぞ全部ひとり占め

大子

理恵

宏造

シルク

いさお

一歩

まつお

久仁子

みつこ

専平

千鶴子

ダン吉

久仁雄

扶美代

勝弘

瑠美子

一文

こみつ

ちづる

ひとみ

篤報

柳右子

穂夫

国和

加代

店員に値引きシールをせかす人

厚かましき詫びる手紙がほろりさせ

アクリルの向こうの皿へ箸を出す

一つやりうちは二世帯ですと言う

雑音を入れたオムレツ焼きあがる

どこに居ても有象無象が騒がしい

世間ざわざわ話は接種するしない

ざわざわわキナ臭い風基地の鳥

誰がかかわった一億五千万

水子地蔵母には辛い悔と罪

フエイクニュース拡散させるのも罪

恩讐の彼方であつた罪と罰

過誤の罪背負つて懺悔する旅路

やさしさも時に罪かも冬いちご

何の罪息子が先に逝くなんて

罪数多偏に詫びる遍路笠

急に妻身ざれいにしてよく出かけ

疑うと個人差ありと逃げられた

疑心暗鬼ばつと蹴散らす青い空

凝った人に詫びてる胸の内

このヘネシー5ミリ残っていた筈だ

検査後はみなが優しくなりました

疑いから未知のとびらに辿り着く

毒見ならお酒に限り引き受ける

ただいまと大きな声に猫がくる

バック詰め母の下段不揃いに

直子

大子

一筒

東風

ばつは

亜成

一歩

いさお

勝弘

ひさ乃

蕉子

柳伸

満作

常男

楓楽

寿之

克己

篤

志華子

よしみ

憲彦

実

敏治

博

峰子

弘子

糠床を買つて一年夏を食べ

兄弟でなすりつけてる幕終い

体温計オデコに当てて六度五分

言葉尻濁すマスクのせいにして

大概是妻に理がある内輪もめ

川柳塔わかやま吟社 小谷

心にも野原いっぱい広げよう

前もって質疑応答擦り合わせ

飲み込んだ嘘探つて内視鏡

質問があるから前に向いている

包丁を握り変身鬼女の顔

原点は同じ歩幅であつた筈

新緑の筏下りに冷や汗も

質問の鋭さすきを突いてくる

何気ない質問地雷踏んだよう

原点に戻るといつも母の顔

子のスリルへいつもネットを張っている

棚田に見る原風景の美しさ

先達は独り原野に鉄を打つ

ガン治療スリルだった丸坊主

深海はきつとスリルに満ちている

最大のスリルは生きていることだ

原子力叢智錯綜した揚げ句

激流にスリル求めて夏終わる

暗闇を通るスリルは二十代

ルイ子

あや子

通江

弘委智

俊雄

小雪報

夕胡

タカ子

俣子

ほのか

晶子

精子

光

悦男

佳子

よしこ

小雪

節子

日出男

あかね

秀夫

保州

蕉子

信勝

尚美

スリリング検査結果の告知の日
滑り込みセーフいつものことですが
送迎会スリル満点コロナ禍で
原生林熊野古道へ追うロマン
おとぼけの振りで質問切り抜ける
谷底へバンジージャンプする株価
質問を重ね大きくなった耳
糊代を少し残して向かい合う
擦り抜けたスリルも楽し回顧録
質問の途中クシヤミが止まらない

富柳会(大阪)

山野 寿之報

まわり道味方ばかりという驕り
切腹の傷を繕い生き延びる
情念が野望となつて行く怖さ
悲しくて覗いた柩から笑顔
エモーション心の襷に纏いつく
音のない雨にも募るあなたの香
六月の梅酒の瓶の底に母
晩鐘が這ううちに手に手を合わす
どの店もコロナウイルス大ショック
さしすせそ舌丸め込む味な奴
優しさとお世辞の中にある刃
うらみ節来世までへも持つて逝く
言の葉に潤う愛のひと滴
ショックだが此処が内助の見せ所

和 宏 知 香 敦 巳 寿 子 紀 子 八 茶 徑 子 准 一 富美子 大 輪 大 輪 惠 武 人 和 子 高 鷺 壽 峰 あかり か こ 欣 之 清 文 重 きみ子 由 夏 乾 和 奏 子

人の話ただじつと聞くじつと聞く
信じてた愛が背いた日のショック

川柳ふうもん吟社(鳥取)山下 凱柳報

あらくたい怒号で網を揚げさせる
あらくたい野党のヤジはいただけぬ
楚々として作る手料理あらくたい
東京五輪ゴーサインとはあらくたい
言うとおりのオリンピックはしてあげる
父の日は深い皺にも有りがとう
お手製のパンでもてなす仏様
コロナ禍も横着もんに喝入れる
返り点打つてあしたの彩探る
真心が等しくなつたボランテア
何事も分け合いまししょうが家訓だ
シャボン玉同じ大きさにはならぬ
直線を引いて等しくなる領土
価値観が等しい人と飲み交わす
一番の難儀等しい遺産分け
婆ちゃんには婆ちゃんなりの役割が
腹割つた協議出来ずに五輪くる
竹割つたような政治家探してる
失政が民の信頼打ち壊す
酒飲みわたし割り勘が大好き
腹を割る心はとうに割れている
割り込みをしても得たいと欲の皮

優 寿 之 蟹 郎 紫 陽 惠美子 回春子 龍彦 紀美江 昌 鼓 大 一 瑤 重 忠 親 洋 宏 章 賢 吾 月 満 金 祥 みつ子 何 事 綴 蠟 枯 天 翔 厚 子 修 子

割り切れぬ思いが一つ胸に住み
割り切れぬ思いに揺れる愛と憎
好きだよとひとこと言えば許すわよ
人柄は嫌だが意見には同意
類染めてそつとうなずくプロポーズ
延命に同意するなと妻に言う
同意書にサインしたけど手術イヤ
麻酔医師が因幡言葉で直ぐ同意
夏休みお帰りチャイム午後六時
同意などいらぬ阿吽の二人です
同意書の長い文章小さな字
同意なく突然妻は先に逝く
ブラゴミが散乱砂丘泣いている

川柳茶ばしら(愛知)

金子美知子報

一杯を電車が酔わす夢心地
思い切り転んで年寄りを自覚
やっと本音撤回しても謝罪ない
コロナにも負けずどっこい生きている
創造と史実ごちゃ混ぜ原田マハ
目も耳も塞ぎたい情報の海
倉吉川柳会(鳥取) 竹信 照彦報
井を育ち盛りが平らげる
この財布みるみるうちに激やせに
知恵袋みるみるうちに空になる
三樹夫 かつ子 雅 美 週 行 まみ子 美千代 紀美恵 次 男 麦 青 紀美恵

コロナ禍でみるみる街は錆びて行く
 入園しみるみる大人びたひ孫
 梅雨時はみるみる雑草のびてくる
 長電話みるみる時間過ぎて行く
 古い独り私は自由な婆あです
 自由すぎて自由の良さがわからない
 自由とは我との戦果けもくる
 自由自在動ける時は金はなし
 言論の自由も時に叩かれる
 自由の女神一度はお目にかかりたい
 ここ掘れと教えず逝つたうちのボチ
 政治家も次々墓穴掘っている
 木の掘り開いた畑が老いの枷
 ツルハシが有れば何とか生きられる
 根掘り葉掘り聞いて納得取め
 芋掘れば迷路が続く土竜業
 トンネルを掘りその奥に秘密基地
 鈍くさくなった自分に耐えている
 脳味噌も五臓六腑も耐えている
 耐えないでヤングケアラ一声挙げて
 妻の愚痴次から次と耐えるだけ
 貧乏と思わず耐えた幼き日
 認知症手前で耐える物忘れ
 プラザ川柳(大阪) 穂口 正子報
 沖縄戦無念刻んだ懺悔

寄り道で渴いた池で菱拾う
 咳一つ視線が痛いバスの中
 若い日の求愛胸に書き付ける
 夏休み自粛自粛でおもろない
 コロナ禍に泣きたいけれど微笑みを
 微笑みの下に隠している苦衷
 涼しげに食欲そそる夏野菜
 物干に雲と白さをきそうシャツ
 棕鳥が黒みを帯びて解せぬ顔
 温度差で夏だけ別居しています
 モナリザ真似て顔面歪み出す
 のり弁にされた文書が泣いている
 遺影だけ微笑んでます通夜の席
 きやらばく川柳会(鳥取)後藤 宏之報
 リメイクではめられ弾む八十路行く
 潮風にあたり悩みは二割引き
 草に愚痴聞かせ遊んで小半日
 免疫の予約しました旅します
 ローン済み心にゆとり春が来る
 まだ喉が乾いた感じがわかります
 ダメ押しのもりのギヤグで二度スベル
 吠えるもの残して家を出る難儀
 コロナ禍でじつとがまんの食事会
 断捨離に勿体ない横槍が
 ホタル舞う幻想かいや現実だ
 靖子 和代 靖子 五月 悦夫 一彌 景子 政夫 園子 清乃 淳司 弘光 克三
 菜々

没句にも言いたい事はたとある
 見守ってくれてる神がいる気配
 何食わぬ顔の貴方は何か有る
 こまりごと空いてる箱に投げ捨てる
 空は青天気ごちそう遠足日
 アプリにもクーボンにもくたびれた
 ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒免報
 冷蔵庫から出てきたような石頭
 ご苦労さん冷えたジュースを宅配に
 冷蔵庫内自動表示をさせてくれ
 窮屈そうに箱に並んださくらんぼ
 軒並みに物価上昇火の車
 蚊の羽音明るい方へおびき寄せ
 町内に十年ぶりの呱々の声
 パンダナをきりりリュックの背に汗
 冷汗も水分補給忘れなない
 冷え切ったオリンピックの味如何に
 手をつなぎ歩いた昔懐かしむ
 カウンターからだ斜めに譲り合う
 城北川柳会(大阪) 近藤 正報
 生と死を隣り合わせにするコロナ
 どう考えても無理なオリンピック
 バワハラを指導のためと勘違い
 半生を運も不運も相半ば
 美穂 宣子 ひろし 宏之 瑞枝 美緒 則彦 正子 堅坊 黒兎 奈津子 順子 宏造 郁子 純子 一弥 守啓 賢子 満知子 正 俊雄

失敗を重ねて大きくなる器

何もかも頼み頼まれ旅行中

ここ三日隣の戸を開いてない

隣の会話はいつもゴミ置き場

お隣に沢田研二が住んでます

いい考え浮かぶはずない暑い夏

柔らかい考えくれる広い海

まず一杯理屈は後で考える

なーんにも考えていないから転ぶ

考えると結婚なんて出来ません

前向きのプラス思考に日が当る

バワハラに勝つも円形脱毛症

優勝旗バワハラの声押し黙る

やっぱりなあれはバワハラ今気づく

バワハラはきつと心の寒い人

コロナコロナで暦半分折り返し

半半の賛否結論先送り

給付金医者に半分持つてかれ

魂の半分亡妻が持つて逝き

今日も一日お疲れさまと酒が言う

妻が古稀優しさ増やす訳があり

頑張ろう石の上にも三年だ

蝶はなぜ飛ぶのと問うた児の未来

ダイケアで派手目のシャツで若作り

コロナからの抜け道地図に載ってない

私が口説きそこらずつと弱いまま

野 鶴

ルイ子

万紗子

洋 志

昌 紀

廣 光

堅 坊

郁 夫

恭 子

和 夫

朝 子

久美子

肇

峰 子

志華子

福貴子

満 作

一 歩

千 賀

弘委智

義 明

正 彦

優

集 一

博

かずお

六月は紫陽花色の雨が降る

爺ちゃんもやれとぬり絵をくれる孫

自宅勤今日も残業皿洗い

コロナ禍でへそくり少し増えました

乗り越えた汗が明日を引き寄せる

川柳塔さかい(大阪)

内藤

御免ねが言えた一人になってから

過疎の郷たつた一人の発車ベル

今年また柳友一人星になる

ひっそりと独りぐらしの小さな窓

目が覚めて今日から一人気付く朝

道祖神に道を尋ねる一人旅

妻不在即席麺の一人めし

君に逢う郷の祭りは一人旅

一人居に気楽と孤独混ぜ込んで

お互いのゴメン気まずさ吹っ飛ばす

ラブレター送った人とクラス会

親友を抜いてレギュラーになった

挨拶をしたが話題が続かない

十分も話をしても名が出ない

若作りの美女の年齢言い当てた

貸したのにもろたつもりでいるのかな

どちらかが折れれば元に戻るのに

核のない地球幻にはさせぬ

まほろしと消えた昭和の理想論

宏 造

黒 兎

五 月

利 子

信 子

信 子

信 子

和 夫

堅 坊

いさお

ばっは

舞 夢

進

光 雄

清 治

志津子

敏 治

憲

ゆみ子

満知子

美津子

扶美代

蕉 子

勝 弘

ひろ子

満 作

幻か妻が御免と謝った

指揮棒がいざなう幻の調べ

眼裏に亡母の幻今も棲む

幻でいいの逢いたい夫です

戦なき世界平和は幻か

幻の絵画にみとれ時が経つ

湯ノ峰の霧にホタルが乱れ舞う

サウンドに温み感じて聞き惚れる

先知った盗み聞きから気落ちする

さらさらと脱いだ着物の衣擦れよ

さりげなく脱いだ靴見て決めました

さらさらと温めの出しで京茶漬け

支え合い泥濘抜けて希望の灯

然りげなくぬくもりもらう聞き上手

里山のぬくもり求め帰農する

さよならに濡れた涙の君の頬

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西

茶子報

君ガ代の合唱声は出せません

大御所も年には勝てず施設入り

大御所が最後に唸る大演歌

心折れ会いたくないと逃げ惑う

日本酒をずらり並べてご満悦

終宴を大合唱で締めくくる

大御所のそして小さくなる背中

墓守りもきつい戒名板二枚

としお

俣 子

朝 子

みつ江

敬 子

廣 子

唯 教

雅 明

五 月

瑠美子

さくら

憲 彦

みつこ

万紗子

時 雄

玄 也

茶子報

宏 章

孝 子

甚 禄

草 文

ゆたか

楓 花

美ッ千

孔美子

山彦の輪唱響く青い空

歌唱力あるが歌ではヒットせず

指笛が合図だったネ友侶ぶ

書き切れぬほど肩書がある名刺

早乙女を迎えた棚田大合唱

惑わずに宇宙の星になれ君よ

ヒキガエル農道に座した犬も除け

惑わないここまで生きた覚悟する

はてっ腹合図をくれる怠けるな

家飲みで酒瓶ずりり壮観だ

昨日見た女に悪い眠れない

万歳三唱やと男になれました

惑うなよと思う道をば突き進め

パンザイは唱えるよりも叫ぶもの

学校唱歌うたう真面目な酔っぱらい

目配せでお店閉めたら裏で待つ

言葉では言えない事を目で合図

千手観音百ではとても足りはせぬ

虫食いのキャベツ無農薬の印

はつきりと吐いたら罪を軽くする

異常気象地球の悲鳴合図なり

熟睡は充実してる合図です

家族葬ずらり顔役名前だけ

大御所が居て進まない近代化

崖の上念仏唱えて助かった

面会制限順番待ちの列ずらり

すみれ

小鹿

弘子

盛桜

一平

茶子

白周

俊幸

友真

正昭

文道

重忠

弘六

照彦

完司

恒

かおる

大鯨

八千代

蟹郎

慎二

睦子

実満

ちかし

茜

律子

川柳ねやがわ(大阪)

龍島 恵子報

棒読みの紙に入れ知恵まで加筆

謝罪文一文字拗ねてまだ書けぬ

割り勘を自分除いて割る男

欲という悪魔を飼ってくだびれる

手放して笑える明日を待っている

ダンゴ虫に入れ知恵されて丸く住む

入れ知恵を実行したら落し穴

入れ知恵をされて素直になりました

入れ知恵に揺れて自分を見失う

入れ知恵を信じ違えた人の道

歳月をくすぐず拗ねている齢

やはり女性だ拗ねるにしても色がある

気まぐれに投げた駄洒落で拗ねられる

はちばちや本気にははいけません

でたらめな奴が本音を語りだす

でたらめもやり方次第愛される

人間を飼っているぞと檻の外

搾乳の両手つたわるありがとう

餌は電池ロボットの猫飼うている

持て余す夢食う糞を飼っている

自棄中同じ名画も再度見る

すったもんだに揉まれて人はまるくなる

匙加減ひとつで転ぶ右ひだり

咲くことのなかった夢の樹木葬

欣之

寿子

寿之

博

高志

常男

かすみ

さち子

仁

壽峰

麗

かずお

一文

弘子

武人

武彦

秀雄

弘委智

賢子

鈍甲

尚世

弘一

高鷲

和織

雨の午後客は僕だけ古本屋

待つことはもう慣れました猫のひげ

ワクチンで後進国になりさがる

計画は無茶でも通る袖の下

いい顔をせずにびしやりと言ってくれ

コロナ禍の街に難問ぶら下がる

胃の中は日中韓も仲が良い

ほめてもらえなかつと貴方が楽になる

崩れてもいい何度でも積む積木

今日もまた感謝で歩く足の幅

ワクチンが済んでやれやれ茶がうまい

朝子

川柳塔なら

大久保眞澄報

ロング缶だけで酔いますひきこもり

油売るコツを覚えたテレワーク

立ち寄った先で油を売る雀

充実の七日間でアブラゼミ

味噌醬油長屋貸し借り温い情

まあひとついつもの酒が潤滑油

友との軋み酒を油にして直す

火に油注ぐかのように焚きつける

嫌いだと書けば消せない油性ペン

食い違う意見にちよつとさす油

妥協した夢に泥油がこびりつく

油絵の下に数多のストーリー

紛争の後でオイルうごめいて

千賀

郁夫

勝弘

彰一

亜成

堅坊

一步

茜

かこ

あかり

朝子

勝弘

則彦

珠子

武人

寿之

研三

かずお

裕之

雅美

恵美子

(平)美智子

みつこ

篤

義理の葬喪服が重い油照り
処世術付度お世辞潤滑油

克己
行久

まっすぐに帰りたいくない日の男
正解はないのに今も揺れている

ひとみ
敦子

九条で守るガラスの平和論
ぶらぶらと散歩をしたい回復期

俊雄
堅坊

お呼びじゃない人がにこにこ付いて来る
お気の毒ににこにこできぬ間魔さん
愛想よくににこにこ寄ってくる詐欺師
いい人になににこにこされて骨抜きに

比呂志
いさお
すみれ

丸洗いたい男と住んでいる
悲しみは涙で洗い立ち上がる
ぶらぶらやせかせかも吐く改札機

いわず
武彦
洋次郎

髪薄く洗う乾かすエコになる
直木賞ぶらぶらしてた奴みごと
不器用に生きた男のガラス張り

新録
健彦
弘委智

肩書を脱いで布袋の腹になる
あの笑顔で鯛釣り上げたえべっさん
モナリザの微笑タビンチの極み
白寿の母ににこに語る苦い過去

満作
富子
俊雄

終活の絵馬がぶらぶら風に揺れ
耐えて知る必ず朝のくることを
幸せは人それぞれと瘦せ我慢

野薫
千代
一徳

世間知らず苦勞知らずの新人社
世間という言葉に縛られ息ひそむ
こ三日話したのは妻とだけ

義明
利恵子
真桜子

満面の笑みで隠した胸の傷
ににこにこ介護仏の手になって
ギリシヤ語に不安が募る変異株
この指止まれ女子会今日も開かれる

眞澄
満作
富子

貧しいが心はいつもガラス張り
終活の絵馬がぶらぶら風に揺れ
耐えて知る必ず朝のくることを

盛夫
恭弘
勝弘

我よりも常に世間に気を掛ける
世間知らず苦勞知らずの新人社
世間という言葉に縛られ息ひそむ

義明
利恵子
真桜子

危機感の無さに危機感募る奈良
我武者羅が募る失敗盛り返す
夏ごとに懺悔が募る募参り
二次募集かけても寄らぬ過疎の嫁

崇明
ふりこ
良岩

大雨がきれいに洗車してくれた
わだかまり洗い流して沙羅双樹
梵鐘が心を洗う遍路笠
勝ち負けも損得もない泥遊び

（偏）
弘子
野鶴
富次

手厳しい言葉も言うて夫婦です
辛い辛いそこそこもつとつとそこ
近道をしないと決めた万歩計
土壇場でいつも役立つ妻の知恵

隆浩
恭子
狸月

若き日の決断いまだ悔い残る
ビターチョコそんな思いの募る恋
コロナ禍が募るとヒト科が試される
ダン吉

史郎
榎子
ダン吉

虫もわたしも朝のサラダは無農薬
ひと駅の手窓の緑うれしくて
強化ガラス女心もハルカスも
淋しい心木木の新芽に洗われる

紀華
美香
哲子

側にいる夫のことは後回し
補ってくれてる大家族の我ケ家
枯れ木にもピンクのリボン補足する
補聴器が鳥の囀りキャッチする

ひとみ
光久
ヨシエ

西宮北口柳会(兵庫) 緒方美津子報

口角の泡に我慢の跡がある
教会に命を洗う歌がある

修
千賀子

死神を待たせて書いた遺言書
当てのない旅こそ真の醍醐味だ

邦男
りこ
真桜子

欠点を補い合ってマイホーム
朱を足して自粛の日々に彩りを

正美
次郎
堅坊

ワクチンの効果待ってる大ジョッキ
和宏

和宏

ぶらぶらと歩けば浮ぶ五七五

利子
義明

バーボンとジャズでうつとり君の側

盛夫

六甲川柳会(兵庫) 梶谷 和郎報

うつとりとシヨパンに沈む雨の午後
富士の山時の流れに七変化

大らかな泰山木の白い花

伎芸天僕にうつとりしてござる

誕生日笑顔を妻にプレゼント

婆さんも昔は可愛かったのに

アナログの亡母がわたしの中にいる

息災の証し便りのない息子

注射針なぜか左の腕が好き

立ち位置を変えたらみえた真の顔

心底の本音が残る殴り書き

大丈夫まだ書けますと本籍地

うふふふ内緒話は袋綴じ

川柳塔まつえ吟社(鳥根)相見 柳歩報

フラフープわたしのエリア確保する

デザインは悪いがころかッコいい

死ぬまでに一度バリコレ着てみたい

デザインも気にせず古い服という

作戦は練った生たまご飲んだし

午前三時プリンVS血糖値

行政も理屈ばかりの無精卵

たまごにも行間読めと無茶話

まだ卵自立するにはほど遠い

オムレツにひとつ本音を入れました

収まらぬままにつぶれた目玉焼き

逃げ足はすぐにスイッチオンになる

逃げまくっても位置情報でみなバレる

逃げる場所シナリオどおりとはいかぬ

逃げ切るぜ俺は唇窃盗犯

結局は逃げたと思うかぐや姫

それぞれにいろいろ魅力たくましい

古里の四季いろいろと想いあり

いろいろとあつて絆が強くなる

飛んで来て不愉快ミサイルと黄砂

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

母さんが目を吊り上げてどなってる

風鈴よ少し静かにしておくれ

吊り橋の途中で気付く人の道

靴下の横にマスクが吊るされる

女ひとり窓にひっそりつりしのお

吊り革につかれた顔の終列車

気怠げな風鈴音を忘れたか

春夏秋冬風鈴が鳴っている

釣忍吊って昭和の風に逢う

窓あけてみて見えない物に見えるはず

同窓会よくぞ生きたと盛り上がる

あざやかな虹もあいにくすりガラス

いい人だ心の窓の目がきれい

回想の時は決まって立つ窓辺

無防備な姿が映る高い窓

病窓に花火うつすら色と音

雨3日通行人を眺めてる

車窓から海だ海だと子がはしゃぐ

他人から受けた痛みは大袈裟に

大袈裟な地球は俺が救うだと

大袈裟に見出しで売れる週刊誌

大袈裟に騒げば黒も白になる

大袈裟に美味いうまいとグルメルボ

たかが下痢ぐらいで呼ぶな救急車

靴履かせ帽子被せたお大様

CMのサブリメントに落ち穴

ストレスの解消ならぬ一人酒

お風呂場の窓から覗くやもり君

終着駅皆ストレスを捨てにくる

ストレスとドクター軽い口で言う

母ちゃんのストレスはくのせいなんだ

満面の笑顔の裏にひそむ鬱

我がままな僕にととききキレる妻

連れ合いがストレスの種今無職

川柳ささやま(兵庫) 北澤 稠民報

酒でのむ葉があるぞ玉子酒

やり直し生まれ変わってからにする

友の死を報せるメールけせなくて

二割負担までに梯子の歯科眼科

義泰

信子

和美

ふさあ

康信

みつ江

日出男

常男

玄也

いさお

保州

浩子

一雄

清

香代

ダン吉

昌代

世紀子

秀夫

俊雄

稠民報

北澤

稠民

男

善輔

剛

幼少の門前小僧喪で覚え

開花待つ八十路の春の曲がり角

なるほどねさすが天位句心読み

スーパーマで新品の靴出番あり

両親のうしろ姿が道しるべ

耳目歯と人工器具で生かされる

ばあちゃんの自慢の梅干立派だな

親友と遠い昔を語りあう

長柳会(大阪)

辻村

ヒロ報

歩む道難路の中でみきわめる

庭仕事時間忘れた川柳会

もうええわコロナの記録もうあきた

いつか行く遠くて近い極楽へ

鳥インフルで生埋めなんて酷いこと

ゲリラ雨リーダー付けて干すふとん

アーメンと懺悔を済ませ身を清め

選べない親に悲運の兄らの闇

断捨離を最初にしたい体脂肪

マスクゲーム一糸乱れぬ怖い過去

背伸びした暮しをやめて得た余裕

ダイエット出来る国に我ら住む

連弾の乱れ楽しい爺の午後

列並び私の前で売切れる

髪の毛と記憶が薄くなるばかり

恐る恐るワクチン接種梅雨晴れ間

感染の話は止そう青葉風

良子

良哲夫

美智子

智恵子

几代

凜繪

すみえ

照代

出稽古はキャバクラ部屋四股を踏む

待ったのに行けない五輪座席券

鯨折り手にご機嫌さんの千鳥足

性差別うちでは女性トップだが

そつと手が触れた相合傘の中

ひさびさの妻のお酌でうまい酒

夫婦で散歩出来た昔を懐かしむ

差し向い苦楽ともどもラストまで

完全の薨を先に虫が食う

絵手紙のなすの花咲く夏至の朝

自分史に悔いめくるめく恋もなく

あどけない黄金に優る吾子の笑み

産声はボール二つの健康児

背伸びして世相論じるあつい孫

たおやかな美しい所作感じ入る

道草もやがて血となり肉となる

川柳あまがさき(兵庫) 大浦

初音報

ぐいぐいと押してきたのは彼女です

雑談をして帰るだけ元気出る

ニアミスで自転車さけて溝に落ち

クーラーの下だ極楽舟を漕ぐ

ライバルが不思議な事にいつもいる

年金日財布の中は小銭のみ

バック美人前に廻って顔を見る

遠い耳近くによれずマスク越し

純風

由夏

淳司

正美

正博

弘美

和代

隆彦

孝代

澄子

直樹

隆明

たけし

千代

ともこ

福子

元カノと子連れ同士で擦れ違ふ

カミナリ親父惚けた妻の手を引いて

片思いあの手この手のアブローチ

ペアルック同志気まずいすれ違い

氾濫の手前で雨が止んで虹

勝つよりも求めよ品位国技なり

美人には積極的に声かける

もう無敵ワクチン二回打ちました

かわいいと顔を寄せたらネコパンチ

大丈夫裏の顔ならたんとある

言い訳は嘘だと顔に書いてある

アナログな顔が居並ぶ縄のれん

ビールなら言うことなしのお中元

積極に出たがる裏はきな臭い

ニアミスはお断りだよ核ボタン

一生に一度一歩も引かぬ愛

君の横一目散に席を取る

表面張力張るまで入れる升の酒

おっとっと天敵が来る向き変える

自分史を書けば会いたい人ばかり

川柳さんだ(兵庫) 酒井

健二報

見本より大分小さいエビフライ

裏切りが勝敗決めた関ヶ原

三振の方がまだまし併殺打

どうみてもあっちの方がいいもんな

新録

菊江

千賀子

紀恵

真桜子

修平

美籠

健二

耕治

雅美

純

良種

宏造

正彦

堅坊

久仁雄

厚江

こみつ

勝弘

修平

高千賀子

高志

勝弘

勝弘

俊昭

歴だけはかじり介護を拒否する子
裏切ったソ連の卑劣忘れない
七夕の星降る夜は又豪雨

泣き相撲面白がつて悪い親

面白いお方でしたが目じやないわ

自分史は自分で読めば面白い

面白い話にしてる辛い過去

美人の湯ずっと美人を待っている

面白い事思いついたかロダン君

グループを抜ける勇氣はありやしない

グループと聞いて思わずブルーシャトウ

呑み会にいつも集まる反主流

グループに入り込めない僕が有る

グループ分け彼女と一緒祈ります

人間はつながりがあると耐えられる

わちやわちやとポツクリ寺へ参ります

一人ずつ欠けてちっちゃなこめの輪(竹)千賀子

グループを外れたとたん苛められ

思い切り布団を叩く梅雨晴れ間

菜園を叩く雨でも手は動く

ゴキブリは叩くが子には手を出さず

孫の肩ポンと叩いて頑張りや

トントんと打診する医者減りました

まかせてと叩いた胸が痛くなる

始発駅椅子取りゲームの列並ぶ

幸せはこの子の母になれたこと

五輪の輪五つの柳に見えて来た

地も空も続いているからまた会える
少しずつあなたを知っていく風と
三代を生きて多彩な走馬灯

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

新色の口紅見せてみたい夏

色とりどりの錠剤並ぶ老いの膳

恋すれば風の色までバラ色に

白か黒決着つかぬまま夜明け

色どりを刻んで母のちらし寿司

コロナ橋の街は無色になつていく

セピア色父の形見の辞書繰って

許せない肌の色にて差別する

マンネリも忘れずできるだけで良い

夕焼けの赤は明日への希望

50年に一度の雨が増えてくる

熟女やし当然増えるシミ白髪

愛すれば愛するほどに辛くなる

増えたつてこれも身のうち笑い皺

可能から不可能増えていく加齢

ありがとが増えてまあるくなつた母

同じこと毎日書いてある日記

昨日と同じことして今日が終える幸

洋食は一つ覚えのハンバーグ

ああまたかと思き流される避難指示

マンネリの池に小石を投げてみる

マンネリの無難と読んで差し向かい

利尚
ひとみ
はな

雅美

福貴子

一歩

満作

シマ子

ひろ子

里子

としお

大子

朝子

こみつ

理恵

進

満知子

寿之

佳子

玄也

久仁雄

たかこ

眞澄

堅坊

萌

老い夫婦マンネリズムに日々感謝
悪いこと知っているのはヒト科だけ
ベットにも敬語を使う人がいる
雄弁なオウムを飼ったばかりに
犬派でも猫派でもなく孫派です

(矢)五月

チャウチャウを散歩に抱いていく美人

五黄の寅やっぱり母は強かった

考え方変えたら増えた笑い皺

太陽と北風サンブルにされた人間

四つ足も二足歩行もみな仲間

人間という害獣が棲む地球

もう少し寿命が欲しいセミしぐれ

なぜなぜが増え重くなるランドセル

八尾市民川柳会(大阪) 中園 清報

いびきかき生きているよと母は告げ

夕焼がとつてもきれいな島の海

楽でない自分が自分を生きるのも

みくびられた虎視眈眈と人磨く

険悪なムード和ます吾子の笑み

角砂糖まあるく溶けて輪が和む

舞台から和みタダ漏れ新喜劇

お下げ髪解し開花をする蕾

百歳の遺影囲んで和む通夜

カーテンを透ける夕陽の片想い

童謡が笑う父子の温い風呂

梅雨空をひらり捲れば八月忌

鉄心
勝弘
克博
昌紀

万紗子

舞夢

哲夫

行兵衛

俊雄

寿子

ゆみ子

清報

和雪

清

常男

卓郎

高鷺

寿之

涼子

壽峰

恵

あかり

欣之

かこ

川柳藤井寺(大阪)

鈴木いさお報

雑草のように生き今の幸せ
雑草の緑悲しい休耕田
宮仕え雑草として生きて来た
雑草の中に可愛い花がいた
雑草と知らずたつぷり肥料やる
生き残るために雑草にもなろう
露草の碧は故郷の空のいろ
弱点をさらしそれでも立っている
逞しい腕がワクチンを痛がる
避難所で笑いを誘う高いびき
雨にも負けず新聞少年逞しい
根っこがっしり葉を繁らせている大樹
逞しい産声期待かける親
逆境をバネに夢抱く定時制
しくじって又しくじって立直る

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

東京を走れずついに哭く聖火
神サマになつてしまった鶴彬
ついに来た少しはボケて人気者
街中の赤提灯を消すコロナ
神様のくれた臓器に傷をつけ
ペランダの七夕ついに二年越し
蛇行した苦勞もついに海に入る
青山は心にあるとついに知る

喜代子 久仁雄 一歩 ちづる いさお 瑠美子 俣子 ダン吉 勝弘 まつお シマ子 みつこ 大子 ひろ子 扶美代 正治 一箇 峯二 一志 まさあき 春雄 北朗 黒兎

去る者は追わず棚田の月が友
お膳立どおり握手をした巨頭
失敗が新しい手を連れて来る
手も触れず声も届かぬおもてなし
リモートで施設の母に手を振る日
手は尽くしたと医師の伏し目が胸にしむ
そんな手があつたか王将唸りだす
危機一髪こそぞと友の手が伸びる
手拍子で茶碗叩いて歌いたい
無視されて実績積んで振り向かず
視界にはそもそも入らないらしい
無視された彬の生命蘇る
半額の大根黙殺ビンヒール
ブラゴミよ海の悲鳴が聞こえるか
首位だけとまだ手ばなしで喜べぬ
コロナ禍に国会閉じて夏休み
ワクチンで死んでもやはり自己責任
森友の裏で暗躍するフアイル
赤木さん抗議の記録命がけ
意地張つて命より大事と五輪
戦車のような飲運転学童へ
意義薄い東京五輪無駄遣い
策のない答弁いつも読む総理
五輪やれコロナウィルスはくそえむ
遺骨まじりの土砂で基地とは許せない
負けと知り先行く人をわざと無視
凡ミスは無視し咎めぬ度量持つ

哲夫 保州 龍せん 良岩 つよし 敏治 比呂志 昌紀 蕉子 信子 和大 信二 ひろ子 克己 則男 征之 壽峰 万作 里子 五二 信明 和美 千鶴子 ゆう子 侑子 福貴子

令和三年度 県民総合文化祭川柳大会

今年こそはお顔をあわせ従来のような川柳大会にしたいと願ってききましたが、コロナウィルス感染状況から時間短縮しての大会とさせていただきます。当日投句は無しですべて事前投句のみで、当日は披露のみとします。

日時 令和3年11月3日(水)午後12時30分開会(昼食は済ませてご来場ください)

場所 愛媛県民文化会館 真珠の間

募集期間 令和3年9月10日(金)〜10月15日(金)必着

宿題・選者各題2句(当日句はありません)

「輪」(共選)鎌倉 俊一選・土居 久子選

「ライン」(共選)湊 圭伍選・小野 善江選

「荒い」(共選)山内もとこ選・大前 尚道選

「握る」(共選)金子 一孝選・木本 朱夏選

第二次選者 仙波 草映・山内美恵子・栗田 忠士・川上ますみ・大崎 五葉

投句方法 未発表作品に限る。各題共選につき同じ句を書いてください。応募句のほかに、発表誌に掲載のため自選1句をお書きください。

送付先 〒791-0212 愛媛県東温市田窪1976-1117 野口三代子方「県民総合文化祭川柳大会」係

参加費 1000円(切手不可)(発表誌呈問合せ先 大前尚道 電話 089-95546774 主催 愛媛県 愛媛県川柳文化連盟共催)

文化祭吹田市民川柳大会

新型コロナウイルス感染拡大のため
昨年同様誌上大会となります。

宿題 「連想吟」 山野 寿之 選
「晴れる」 岩田 明子 選
「揺れる」 赤松ますみ 選
「工夫」 大堀 正明 選
「笑う」 片岡 加代 選

投句締切 9月26日(日)
規定投句用紙に住所・氏名・電話番号明記のうえ吹田川柳会事務局あて郵送のこと。

会費 1000円(郵便小為替)
吹田川柳事務局 駒田正弘
〒564-0072
吹田市出口町21-15-214
TEL・FAX 06-6337-8145

★文化祭参加

(夏休みに親子で川柳を作りましょう)

宿題 「うまい」「苦手」「つらい」
各題3句までを1枚のハガキに9句まで書いてお出ください。
(締切9月5日)
郵便番号・住所・氏名・電話番号・大人、子どもの部と明記

送り先 〒565-0851
吹田市千里山6-63-10
坂本晴美まで
TEL 06-6384-2466

主催 吹田市 吹田川柳会

第15回 岡山県川柳大会

とき 令和3年10月10日(日)
開場 午前9時30分 開会 午後1時
締切 午前11時30分

ところ 笠岡市民会館 1階・第一会議室
笠岡市六番町1-10
(JR笠岡駅よりタクシー5分)

課題と選者 (各題2句)
「夕焼け」 しばた かずみ 選
「実る」 田 辺 与志魚 選
「白紙」 永 見 心 咲 選
「新」 高 橋 土筆坊 選
「膝」 柴 田 夕起子 選
「歌」 新 家 完 司 選
○当日席題 高 木 勇 三 選
○参加料 2000円
○欠席投句 所定用紙に各題2句、住所・柳名・電話番号・所属柳社を記入の上、投句料1,000円を添えて送付。

投句締切 9月15日(水) 消印有効
投句・問合せ 〒714-0007
笠岡市山口1777 高木勇三宛
電話・FAX 0865-65-0827

主催 岡山県川柳協会

川柳赤穂吟社創立9周年記念川柳大会 ＜誌上川柳大会＞

課題・選者

(各題2句・重複投句不可・新作自作に限る)

「噂」 瀬戸 れい子 選
「守る」 高畑 俊正 選
「母」 大家 風太 選
「去る」 新家 完司 選
「命」 矢沢 和女 選
「雑詠」 赤井 花城 選

○所定の投句用紙(コピー可)または便箋大用紙に各題2句を列記。郵便番号・住所・氏名・電話番号・所属柳社を明記。

○発表誌は11月25日刊行。

投句料 1000円(切手不可)

投句締切 9月30日(当日消印有効)

送付先・問合せ先

〒670-0884

姫路市城北本町9-15

濱邊 稲佐岳 宛

TEL 090-3721-9295

主催 川柳 赤穂吟社

令和3年度 奈良県大芸術祭・奈良県障害者大芸術祭 参加 第92回 奈良県川柳大会(誌上大会)

昨年度に引き続き誌上大会として実施いたします。

宿題及び選者(各題2句)

「ともだち」 鈴木 かこ 選
「泣いてたまるか」 上田 幸一 選
「カタカナ」 宇賀 史郎 選
「にんまり」 小金澤貫一 選
「骨」 阪本きりり 選
「鳴く」 坂本みさ子 選
「滲む」 毛利 元子 選

締切 令和3年10月8日(金) 必着

会費 1000円(切手は不可)

発表誌呈(11月下旬発送予定)

投句用紙 所定の用紙(コピー可)入手できない場合は便箋などの使用可。

送付先 〒584-0066

富田林市錦織北1丁目146

中村 恵 宛(Tel 0721-25-3819)

問い合わせ 鈴木かこ TEL&FAX 06-7173-4383
(主催)奈良県川柳連盟(担当)川柳天平の会
(後援)奈良県 奈良新聞社

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川 柳 ねやがわ	15日(水) 大黒柱・転落・時々・自由吟	〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
岸 和 田 川 柳 会	18日(土) 14時 橋・森しい・ゆとり・ドキドキ	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
川 柳 たちばな	18日(土) 13時45分締切 印象吟・虫(互選)・並ぶ・自由吟	東園田町総合会館 3F 阪急「園田」駅北へ徒歩1分 〒661-0953 尼崎市東園田町 3-49-5 藤井宏造
川 柳 塔 みちのく	18日(土) 17時締切 そのまま・黒・戦う	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川 柳 藤 井 寺	19日(日) 14時締切 後ろめたい・方言・席題共選	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南 大 阪 川 柳 会	20日(月) 14時締切 退屈・焦げる・青白い・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1124 高槻市南芥川町9-28-901 松岡 篤
豊 中 もくせい 川 柳 会	20日(月) 13時50分締切 センス・つまむ・粗い・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川 柳 塔 すみよし	25日(土) 14時締切 南・囁く・マーク	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	25日(土)	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200 m 〒584-0064 富田林市不動ヶ丘8-31 山野寿之
和 歌 山 三 幸 川 柳 会	25日(土) 13時15分締切 光る・敬老・命 投句締切16日	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市 民 川 柳 会	26日(日) 14時締切 紐・回る・ふんわり・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷺」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 ふうもん 吟 社	26日(日) 13時から 自由吟・遅れる・間もなく・米 席題	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町2 1 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
川 柳 さ ん だ	投句句会 7日(火)必着 びっくり・愛しい ミステリー・押す・自由吟	〒651-1545 神戸市北区鹿の子台南町4-46-5 富永恭子

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

9 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川 柳 塔 な ら	3 日(金) 二枚舌・びしゃり・何気ない	〒633-0341 磯城郡田原本町葉王寺150-21 中堀 優
城 北 川 柳 会	4 日(土) 14時締切 開場13時 浮く・バス・地元・自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
倉 吉 川 柳 会	4 日(土) 14時締切 塗る・不・くさくさ・席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川 柳 塔 ま っ え 吟 社	4 日(土) 13時30分締切 ライバル・整形・乱・とんとん	投句先 〒690-1233 松江市美穂岡町笠浦221-1 相見柳歩
川 柳 塔 さ か い	8 日(水) 投句締切 計算・目覚める・マナー 折句:な・か・つ	投句句会へ変更
六 甲 川 柳 会	9 日(木) 誌上句会 不意・代わる・わくわく・折る 自由吟	〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
あかつき 川 柳 会	10 日(金) 14時締切 セット・気・満足・時事吟	大阪保育運動センター (新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川 柳 塔 打 吹	11 日(土) 13時30分締切 貝・膨らむ・そこそこ・席題	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民 川 柳 会	12 日(日) 14時締切 名月・すいすい・盗む・雑詠	八尾市安中町3-5-1 洪川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
川 柳 塔 わかやま 吟 社	12 日(日) 14時10分締切 兼 題=定める・泉・ハード 課題吟=頃	和歌山商工会議所 4 階 和歌山市西汀丁36 兼 題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町2-208-5 楽原道夫
西宮北口 川 柳 会	13 日(月)14時締切 席題・貰う・天災・賑やか 自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦
ほ たる 川 柳 同 好 会	14 日(火) 13時30分締切 争い・病む・ときどき	豊中市立蜷池公民館 阪急・モノレール蜷池 蜷池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒鬼
川 柳 あまがさき	14 日(火) 14時締切 レッテル・手軽・とぼとぼ 自由吟	東園田町総合会館 3F 阪急「園田」駅北へ徒歩1分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳大阪	15 日(水) 事務局必着 誌上句会 もみじ・空・食欲	〒636-0144 奈良県生駒郡斑鳩町稲葉西2-4-23 中原比呂志 TEL 0745-75-3655

柳界展望

★令和三年度帆船誌上川柳大会。本社同人成績。

秀句 三宅 保州

あせらずに治しましうと言ふカルテ

秀句 大内せつ子

最後までわたしはワタシそれでいい

▽柳界動向△

○「川柳塔あまがき」会長交代。八月から

会長 藤井 宏造

▽お詫びして訂正△

○7月号 P 141 下段中央 柴しめの↓柴しめの

○8月号 P 52 上段15行 目、被害者↓被災者

▽新誌友紹介△

柏原市 神崎トモ子

紹介者 高杉 力 丹波篠山市 河南すみ江

丹波篠山市 大上 几代 紹介者 北野 哲男

紹介者 北野 哲男 生駒市 永田美美子

丹波篠山市 坂本利恵子 紹介者 米田 恭昌

紹介者 北野 哲男

句 会 部 よ り お 知 ら せ

第 27 回川柳塔まつりは誌上大会として開催します。

課題と選者（各題二句）

「嬉 しい」	江島谷 勝 弘 選（川 柳 塔 社）
「選 ぶ」	内 藤 憲 彦 選（川 柳 塔 社）
「ヒ ント」	高 瀬 霜 石 選（川 柳 塔 社）
「 橋 」	木 本 朱 夏 選（川 柳 塔 社）
「呼 ぶ」	美 馬 りゅうこ 選（番傘川柳本社）
「 家 」	小 島 蘭 幸 選（川 柳 塔 社）

投 句 要 領 規定の用紙（コピー可）または、用紙の入手できない場合は
便箋などをご使用いただいても結構です。

投 句 料 1 0 0 0 円（切手は不可）

投 句 締 切 令和3年9月30日（木）消印有効

送 付 先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201

川柳塔社 誌上大会係 宛

TEL/FAX (06) 6779-3490

編集後記

★草臥れがどつと仁王の大わらじ 薫風

★8月号にも書いたが大谷翔平君の活躍が止まらない。本塁打王も打点王も視野に入ってきた。彼は花巻東高校一年生とき、八球団からドラフト一位指名という「夢」達成のために必要な要素を書き出している。体づくり・人間性・メンタル・コントロールなど8項目を柱に、具体的に目標を書き入れ、可視化した目標達成シート(マンダラチャート)は全部で81項目。一部を紹介しよう。

★「柔軟性・計画性・継続性・思いやり・プラス思考・感謝・挨拶・部屋の掃除・ゴミ拾い・本を読む・道具を大切に使う・礼儀・信頼される人間・雰囲気の流れされない・不安をなくす・力まない・頭は冷静に心は熱く・一喜一憂しない・運」オオタニショウヘイへの道は一日にして成らず。

★新型コロナウイルス感染症拡大、猛暑のさ中に東京オリンピックは開催された。多分アメリカのスポーツに配慮してであろう、開会式は午後8時から始まり深夜12時近くに終了。参加した多くの子どもたちのパフォーマンスは、法的には問題がなかったのだろうか。それともオリンピックだから超法規が適用されたのか、気になるところ。

★開催が中止か、揉めに揉めたオリンピックだった、聞いてみれば最終日までメダルラッシュ。強行した主催者側もほっとしたことだろう。体操ニッポンのレジェンドが鉄棒から落下、予選敗退が決定した時「内村航平の夏は終わりました」無念さの滲むアナウンサーの声に、私は一つの

ひとこと

一会の御縁

コロナ感染症拡大で自粛生活を強いられていたある日、木本朱夏編集長から電話を頂きました。上方芸能評論家・木津川計先生のNHKラジオ第一で毎週水曜日PM4時32分から10分間のラジオエッセイで、私の句が採りあげられるとのこと。まさか私の句がとびつくりしました。友だちにも兄弟にも電話しました。放送当日、ラジオの前に正座して待ちました。

「どこよりもこの街が好き陽を拝む」ゆつたりと穏やかなやさしい言葉で披露していただきました。続いてかぐや姫、月よりの使者のお話になり、やさしくも誰もが楽しめる10分間でした。

人びとのところを深くよみユーモラスなお話、そして一言のぬくもりに心が和みました。美しい日本語をここに刻みたいですね。八十歳も近くなりました。少し若返りました。そして一会の御縁に感謝申し上げます。

(尾崎 一子)

時代の終焉に立ち合ったのだ。と胸が震えた。内村の橋本大輝に引き継がれたが、13歳のメダリスト誕生など、確実に世代交代が始まっていることを実感した五輪であった。

(朱夏)

△斎藤大雄著「選者のころ」を編集長から拝借して読んだ。改めて納得させられた事が3つ。

△先ず「選者は作句する力がなければならない」の心構えが特に腑に落ちた。

△3つ目は「選者恐ろし」の覚悟が要るとの箴言。選者たるもの慎重にもう一度、暗合・類似・類想・剽窃の句をチェックする心構えが要る。選者の責任として、見落とす事にはしてはならない。

△選者の心構えの解説書ではあるが、作句する上での注意事項としても大いに参考になるテキストであった。

(憲彦)

作品募集

11月号発表表（9月15日締切）

川柳塔（8句）	小島蘭幸 選
水煙抄（8句）	川上大輪 選
愛染帖（2句）	新家完司 選
檸檬抄「構える」 （2句）	久保田千代 共選
インスピレーション・ナビ（2句）	大西泰世 選
一路集「パズル」 （2句）	永井松柏 選
「誤算」	伊塚美枝子 選
「短い」 （3句）	居谷真理子 担当

初歩教室「短い」は12月号発表

12月号
檸檬抄「波紋」
一路集「首」「ピクピク」
初歩教室「星」

お知らせ

10月2日（土）開催予定の第27回川柳塔まつりは、新型コロナウイルス感染防止のため誌上大会として開催の止むなきに至りました。詳細は8月号、9月号の表紙裏をご参照ください。

ワクチン接種が済んだ方も多いでしょうが、デルタ型が爆発的に蔓延しています。三密を避け、ソーシャルディスタンスを守り、マスク、消毒、換気を忘れず、また熱中症にもご注意ください。

第27回川柳塔まつり誌上大会

締切日9月30日、発表12月号

兼題「嬉しい」「選ぶ」「ヒント」
「橋」「呼ぶ」「家」

川柳塔柳箋

3冊 送料共 1,000円

事務所あてお申し込み下さい。

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10

TEL (06) 4800-3018

FAX (06) 4800-3028

Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp

ホームページ <https://www.bikenart.com>

〒543-0052

大阪市天王寺区大道一丁目一四一七
花野ビル201号室

発行所 川柳塔社

電話 (06) 67791349・番
振替 〇〇九八〇四一・九八四七九番

定価 八百円（送料100円）

半年分 五千円（送料共）

一年分 九千八百円（同）

二〇二二年（令和三年）九月一日発行

発行人 小島和幸

編集人 木本朱夏

印刷所 美研アート

箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ
 職人の技術で、超とろ火の火加減により、
 秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。




お友達LINE
QRコード

舞昆のお友達に
なって下さい。

商品のお問い合わせはこちらまで（ご試食承ります）
 フリーダイヤル 0120(11)5283

『歯を含むお口の中を一生守っていく場所』としての歯科医院
 『痛くなく、怖くなく、通院が苦にならない』と思えるクリニックの実現



海岸通デンタルクリニック

KAIGANDORI DENTAL CLINIC

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	○	○	○	—	○	9:00 }	—
14:30~20:00	○	○	○	—	○	17:00 }	—

診療科目

- ・ 歯科 ・ 歯科口腔外科 ・ 小児歯科
- ・ 予防歯科 ・ 審美歯科
- ・ インプラント ・ ホワイトニング

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通2-2-3
 HAT神戸メディカルモール3F（1F ケーズデンキ）

TEL.078-261-3300
 www.hat-dental.com